



Informatica® MDM Multidomain Edition
10.2 HotFix 2

Data Director ユーザーガイド

Informatica MDM Multidomain Edition Data Director ユーザーガイド

10.2 HotFix 2

2018 年 3 月

© 著作権 Informatica LLC 1998, 2019

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica ロゴ、および ActiveVOS は、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web (<https://www.informatica.com/trademarks.html>) にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2019-05-28

目次

序文	9
Informatica のリソース	9
Informatica Network	9
Informatica ナレッジベース	9
Informatica マニュアル	9
Informatica 製品可用性マトリックス	10
Informatica Velocity	10
Informatica Marketplace	10
Informatica グローバルカスタマサポート	10
第 1 章 : 概要	11
Informatica Data Director の概要	11
主な概念	12
ビジネスエンティティ	12
ベストバージョンオブトゥールズ	12
検索と比較	13
マージ	13
確認プロセスとタスク	13
階層およびリレーション	14
Informatica Data Director へのログイン	14
Microsoft Internet Explorer の設定	14
ユーザーインターフェース	15
従来のビュー	17
第 2 章 : 入門ガイド	19
入門ガイドの概要	19
スタートページ	19
グラフ	20
ソーシャルメディアの投稿	20
検索エンジンと外部 URL	20
タスクインボックス	21
スタートページでのデータの更新	22
タスクのソートとフィルタリング	23
第 3 章 : ビジネスエンティティの追加	25
ビジネスエンティティの追加の概要	25
[ビジネスエンティティ] ビューのデータ検証	26
Person の追加のシナリオ	26
組織の追加のシナリオ	26
ビジネスエンティティの追加	27

DaaS プロバイダのデータを使用したビジネスエンティティの追加.	29
第 4 章 : ビジネスエンティティの検索と編集.	32
ビジネスエンティティの検索と編集の概要.	32
[検索] ページ.	32
ビジネスエンティティの編集のシナリオ.	34
ビジネスエンティティの検索.	34
ビジネスエンティティのフィルタリング.	36
ビジネスエンティティの表示および開始.	37
ビジネスエンティティの編集.	38
関連レコードの追加と編集.	39
関連レコードの追加および編集のシナリオ.	40
関連レコードの追加.	40
関連レコードの表示.	42
関連レコードの削除.	42
リレーションの詳細の編集.	42
ビジネスエンティティの削除.	43
第 5 章 : 重複の解決.	44
重複の解決の概要.	44
一致プロセス.	45
マージプロセス.	45
重複するビジネスエンティティのシナリオ.	46
重複するビジネスエンティティの解決.	46
重複するビジネスエンティティの識別.	46
重複する子レコードの識別.	48
重複するビジネスエンティティのマージ.	48
1 つのビジネスエンティティでの重複するレコードの解決.	49
第 6 章 : ベストバージョンオブトゥールの確立.	51
マスタレコードとベストバージョンオブトゥール.	51
シナリオ.	51
ベストバージョンオブトゥールの確立.	52
相互参照レコードのマージ解除.	53
第 7 章 : データ変更の調査.	54
データ変更の調査の概要.	54
データ変更の調査シナリオ.	54
イベント前後のデータの比較.	55
第 8 章 : データ変更イベントでの有効期間の調査.	57
有効期間内のデータ変更イベントの調査の概要.	57
データ変更イベントの調査のシナリオ.	57

データ変更イベントの表示.	58
データ変更イベントの追加.	59
データ変更イベントの削除.	59
第 9 章 : 階層とリレーションの調査.	61
階層とリレーションの調査の概要.	61
〔階層〕 ビューでビジネスエンティティを開く.	61
キャンバスでのエンティティおよびリレーションの表示.	62
レイアウトの選択.	62
エンティティとリレーションのフィルタリング.	63
キャンバスでのエンティティの非表示と表示の切り替え.	65
キャンバス内の移動.	66
キャンバスオプションの設定.	67
関連エンティティの調査.	67
エンティティデータの表示.	67
ソースシステムおよび保留中の変更の表示.	68
システムカラムの表示.	68
リレーションの詳細の表示と編集.	68
関連エンティティの階層の表示.	69
リレーションの変更履歴の表示.	69
ビジネスエンティティのエンティティおよびリレーションの変更.	70
キャンバスへのエンティティの追加.	70
リレーションの追加.	70
〔階層〕 ビューからのエンティティの編集.	71
〔階層〕 ビューから重複エンティティを探す.	71
〔階層〕 ビューからのマージの開始.	72
〔階層〕 ビューからのエンティティの削除.	72
リレーションの削除.	73
ビジネスエンティティの〔階層〕 ビューの共有.	73
〔階層〕 ビューへのブックマークの共有.	74
グラフ画像の保存.	74
第 10 章 : 確認プロセスへの参加.	75
確認プロセスへの参加の概要.	75
編集の確認プロセスの例.	75
タスクマネージャ.	76
タスク通知の受信.	79
タスクの引き受け.	80
タスクの解決.	80
編集されたビジネスエンティティの確認.	81
新しいビジネスエンティティの確認.	82
マージプロポーザルの確認.	83
マージ解除プロポーザルの確認.	84

タスクの作業の整理.	85
タスクのソートとフィルタリング.	86
期限、優先度、およびその他のタスクプロパティの編集.	87
タスクの割り当て.	88
タスクの引き受け解除.	89
第 I 部：従来のビュー.	90
第 11 章：データビューでのビジネスエンティティの追加（従来のビュー）.	91
データビューでのビジネスエンティティの追加の概要.	91
データビューでのビジネスエンティティの追加の例.	91
[データ] ビューでビジネスエンティティを作成する.	92
第 12 章：履歴ビューでのデータ変更の調査（従来のビュー）.	94
データ変更の調査の概要.	94
データ変更の調査のシナリオ.	94
履歴ビューを開く.	95
[履歴] ビューにデータイベントを時系列に表示.	95
データイベント前後のデータの比較.	96
第 13 章：[一致] ビューでのビジネスエンティティのマージ（従来のビュー）.	99
ビジネスエンティティのマージの概要.	99
ビジネスエンティティのマージ例.	100
[一致マージ比較] ビューを開く.	100
マージ候補の選択.	101
マージのプレビュー結果のオーバーライド.	102
確認のためのマージプロポーザルの送信.	103
第 14 章：[XREF] ビューでのビジネスエンティティのマージ解除（従来のビュー）.	104
ビジネスエンティティのマージ解除の概要.	104
ビジネスエンティティのマージ解除例.	107
[XREF] ビューを開く.	107
確認のためのマージ解除プロポーザルの送信.	108
第 15 章：[データ] タブの検索クエリ（従来のビュー）.	110
データタブの検索クエリの概要.	110
検索のタイプ.	110
基本検索.	111
拡張検索.	111
詳細検索.	111
基本検索クエリと拡張検索クエリ.	111

基本検索でのワイルドカード.....	112
検索条件の指定.....	112
基本クエリまたは拡張クエリの作成.....	113
詳細検索クエリ.....	113
論理演算子.....	114
条件演算子.....	114
比較演算子.....	114
詳細検索クエリの日付構文.....	115
詳細検索クエリの作成.....	115
詳細検索クエリの例.....	116
検索結果.....	116
検索結果からエンティティを開く.....	116
検索結果のエクスポート.....	117
保存済みの検索クエリ.....	117
検索クエリの保存.....	117
保存済みの検索クエリの実行.....	117
保存済みクエリの詳細の表示.....	118
デフォルトクエリの設定.....	118
保存済みクエリの名前の変更.....	118
保存済みクエリの編集.....	118
保存済みクエリの削除.....	118
保存済みクエリの共有.....	119
保存済みクエリのエクスポート.....	119
保存済みクエリインポート.....	119

第 16 章：[データ] タブでのエンティティの操作（従来のビュー）.. 121

[データ] タブでのエンティティの操作の概要.....	121
[データ] タブの保留中のレコード.....	121
検索結果からエンティティを開く.....	122
子レコードのフィルタの作成.....	123
[フォーム] ビューと [テーブル] ビューの切り替え.....	124
システムカラムの表示.....	124
エンティティのコピー.....	125
レコードのデータの編集.....	125
有効期間の編集.....	125
有効期間の追加.....	126
タイムラインが有効なエンティティの集計期間の表示.....	126
エンティティの調査.....	126
エンティティの削除.....	127

第 17 章：[有効期間] ビュー（従来のビュー）でのタイムラインデータの調査..... 128

データ変更イベントでの有効期間の調査の概要.....	128
----------------------------	-----

データ変更イベントの表示の例.	128
[有効期間] ビューを開く.	129
データ変更イベントの表示.	129
データ変更イベントの追加.	130
データ変更イベントの削除.	131
第 18 章 : データのインポート (従来のビュー)	132
データインポートの概要.	132
ソースファイル.	132
データインポートテンプレート.	133
データインポート例.	133
MDM Hub サーバーでのデータインポートの有効化.	134
データインポートテンプレートのインポート.	134
ファイルからソースデータをインポート.	135
付録 A : 確認プロセス参照.	137
確認プロセス参照の概要.	137
承認を伴う更新のワークフロー.	138
ワンステップ承認のワークフロー.	138
ツーステップ承認のワークフロー.	139
マージワークフロー.	139
マージ解除のワークフロー.	139
索引.	140

序文

『Informatica Data Director ビジネスユーザーガイド』では、Informatica[®] Data Director (IDD) アプリケーションでマスタデータを作成、コンシューム、管理、および監視する方法を説明しています。

Informatica のリソース

Informatica Network

Informatica Network は、Informatica グローバルカスタマサポート、Informatica ナレッジベースなどの製品リソースをホストします。Informatica Network には、<https://network.informatica.com> からアクセスしてください。

メンバーは以下の操作を行うことができます。

- 1 つの場所からすべての Informatica のリソースにアクセスできます。
- ドキュメント、FAQ、ベストプラクティスなどの製品リソースをナレッジベースで検索できます。
- 製品の提供情報を表示できます。
- 自分のサポート事例を確認できます。
- 最寄りの Informatica ユーザーグループネットワークを検索して、他のユーザーと共同作業を行えます。

Informatica ナレッジベース

ドキュメント、ハウツー記事、ベストプラクティス、PAM などの製品リソースを Informatica Network で検索するには、Informatica ナレッジベースを使用します。

ナレッジベースには、<https://kb.informatica.com> からアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム (KB_Feedback@informatica.com) です。

Informatica マニュアル

使用している製品の最新のドキュメントを取得するには、https://kb.informatica.com/_layouts/ProductDocumentation/Page/ProductDocumentSearch.aspx にある Informatica ナレッジベースを参照してください。

このマニュアルに関する質問、コメント、ご意見の電子メールの送付先は、Informatica マニュアルチーム (infa_documentation@informatica.com) です。

Informatica 製品可用性マトリックス

製品可用性マトリックス（PAM）には、製品リリースでサポートされるオペレーティングシステム、データベースなどのデータソースおよびターゲットが示されています。Informatica Network メンバである場合は、PAM (<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices>) にアクセスできます。

Informatica Velocity

Informatica Velocity は、Informatica プロフェッショナルサービスによって開発されたヒントおよびベストプラクティスのコレクションです。数多くのデータ管理プロジェクトの経験から開発された Informatica Velocity には、世界中の組織と協力して優れたデータ管理ソリューションの計画、開発、展開、および維持を行ってきた弊社コンサルタントの知識が集約されています。

Informatica Network メンバである場合は、Informatica Velocity リソース (<http://velocity.informatica.com>) にアクセスできます。

Informatica Velocity についての質問、コメント、またはアイデアがある場合は、ips@informatica.com から Informatica プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。

Informatica Marketplace

Informatica Marketplace は、お使いの Informatica 製品を強化したり拡張したりするソリューションを検索できるフォーラムです。Informatica の開発者およびパートナーの何百ものソリューションを利用して、プロジェクトで実装にかかる時間を短縮したり、生産性を向上させたりできます。Informatica Marketplace には、<https://marketplace.informatica.com> からアクセスできます。

Informatica グローバルカスタマサポート

Informatica Network の電話またはオンラインサポートからグローバルカスタマサポートに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト (<http://www.informatica.com/us/services-and-training/support-services/global-support-centers>) を参照してください。

Informatica Network メンバである場合は、オンラインサポート (<http://network.informatica.com>) を使用できます。

第 1 章

概要

この章では、以下の項目について説明します。

- [Informatica Data Director の概要, 11 ページ](#)
- [主な概念, 12 ページ](#)
- [Informatica Data Director へのログイン, 14 ページ](#)
- [ユーザーインターフェース, 15 ページ](#)

Informatica Data Director の概要

Informatica Data Director (IDD) はデータガバナンスツールです。Informatica Data Director を使用して、Informatica MDM Hub Store に保管されたマスタデータにアクセスします。マスタデータはビジネスエンティティによって整理されます。ビジネスエンティティには、顧客、サプライヤ、従業員、アカウントなど、組織にとって意味のある、あらゆるタイプの最上位データを使用できます。マスタデータは、ビジネスエンティティに関して組織が達成できるベストバージョンオブトゥールズです。

IDD アプリケーション開発者は、Informatica Data Director 内で動作する IDD アプリケーションを定義します。IDD アプリケーションは、組織にとって意味のあるビジネスエンティティのタイプを定義します。

ビジネスユーザーは IDD アプリケーションを使用して次のアクティビティを実行します。

- ビジネスエンティティの追加
- ビジネスエンティティの検索と編集
- マスタレコードにすべてのソースシステムの最も信頼性の高いデータが含まれていることの確認（つまり、マスタレコードがベストバージョンオブトゥールズを表す）
- 重複するビジネスエンティティの識別とレコードのマージによる解決
- ビジネスエンティティのデータに対する変更履歴の調査
- マージされたビジネスエンティティのマージ解除
- ビジネスエンティティ間のリレーションの管理
- 新しいビジネスエンティティと変更されたビジネスエンティティの確認プロセスへの参加

主な概念

Informatica Data Director で効果的に作業するには、Informatica Master Data Management の概念についての基本的な理解が必要です。

ビジネスエンティティ

ビジネスエンティティは、組織にとって重要なエンティティを表します。通常、組織は顧客、サプライヤ、従業員、製品、取引先を表すビジネスエンティティタイプを定義します。例えば、[Person] というビジネスエンティティタイプがあるとします。顧客 John Smith は、[Person] タイプのビジネスエンティティになります。

組織は、ビジネスに一意のデータのビジネスエンティティタイプを定義することもできます。例えば、慈善団体はビジネスエンティティのタイプとして寄贈者を定義します。医療機器メーカーは、一意のデバイス識別子を定義します。多くの組織は複数のビジネスエンティティタイプを定義します。アプリケーション開発者は、Informatica Data Director アプリケーションに存在するビジネスエンティティタイプを制御します。

MDM Hub Store では、ビジネスエンティティはベースオブジェクトテーブルのレコードに対応します。親レコードには、ビジネスエンティティの識別情報が含まれます。親レコードには、ビジネスエンティティの関連情報（住所や電話番号など）を格納する子レコードへのリンクが含まれます。

関連項目：

- [「ビジネスエンティティの追加」 \(ページ 25\)](#)
- [「Person の追加のシナリオ」 \(ページ 26\)](#)
- [「ビジネスエンティティの検索と編集」 \(ページ 32\)](#)

ベストバージョンオブトゥルース

Informatica Data Director でビジネスエンティティを参照する場合、組織のソースシステム（Informatica Data Director を含む）から統合されたマスターデータが表示されます。MDM Hub は、提供元ソースシステムからデータをロードします。ロードプロセスでは、信頼されたフレームワークとルールを使用して、すべての提供元ソースシステムから、最も正確で最新のデータが含まれていると予想されるセルを特定します。統合されたビジネスエンティティは、組織で利用できるベストバージョンオブトゥルース（BVT）を表します。

注: BVT ビジネスエンティティは、マスターデータ、ゴールドエンプロファイル、またはゴールドエンレコードとも呼ばれます。

例えば、車の購入の奨励プログラムを従業員に提供する自動車メーカーを考えます。BVT 顧客ビジネスエンティティを作成するために、データスチュワードは、顧客関係管理（CRM）システムと人事（HR）システムが提供元ソースシステムであると判断します。従業員は人事部に連絡先情報の変更を通知する必要があるため、データスチュワードは CRM システムよりも HR システムの従業員の住所と電話番号を信頼します。

Informatica Data Director は、特殊なタイプの関与ソースシステムです。通常、データスチュワードは、すべての提供元ソースシステムの中で Informatica Data Director を最も高い信頼レベルに設定します。これは、ユーザーが Informatica Data Director のデータを編集した場合、その編集が他のソースシステムよりも優先されることを意味します。また、自動 BVT プロセスをオーバーライドして、正確であることがわかっているセルの値を選択することもできます。

例えば、次の表は、2つのソースシステムと Informatica Data Director のデータを示しています。

ソース	姓	名	電話	電話の信頼スコア
HR システム	Brown	Nancy	555-1235	80
CRM システム	Brown	Nancy	Null	50
Informatica Data Director	Brown	Nancy	555-1234	90

Informatica Data Director の電話番号の信頼スコアが最も高いため、更新されたその電話番号が使用されます。データスチュワードは、システムの信頼値を増減するルールを追加できます。例えば、電話番号が後で HR システムで更新された場合、直近に更新されたその電話番号が優先されるようにすることができます。

検索と比較

データガバナンスにおけるベストプラクティスは、新しいレコードを追加する前に既存のレコードがないかどうかを確認することです。ビジネスエンティティの追加を開始すると、Informatica Data Director (IDD) は、重複するビジネスエンティティがないかどうかを検索します。

潜在的に重複と思われるビジネスエンティティをプレビューして、以下のいずれかのアクションを実行できます。

- 複数のエンティティが追加するエンティティと一致する可能性がある場合、エンティティを並べて比較することができます。エンティティの重複が確認された場合、マージを開始できます。
- 1つのエンティティが追加するエンティティと一致する場合、そのエンティティを開いて関連する作業を開始することができます。この場合、追加しようとしたエンティティは破棄されます。
- 一致するエンティティがない場合は、新しいエントリの追加を続行できます。

IDD アプリケーション開発者は、潜在的な重複の検索で使用するフィールドを設定します。

マージ

ビジネスエンティティを比較した後、重複していると思われるエンティティをマージできます。

ビジネスエンティティをマージすると、マージされたビジネスエンティティのルートレコードが1つのルートレコードに統合されます。各ルートレコードの子レコードは、マージされたルートレコードの子レコードになります。

関連項目：

- [「重複の解決」 \(ページ 44\)](#)

確認プロセスとタスク

確認プロセスは、自動化されたビジネスプロセスです。ユーザーがビジネスエンティティの追加、編集、マージ、またはマージ解除を行うと、そのアクションによって確認プロセスが開始されます。確認プロセスにより、ビジネスマネージャまたはデータスチュワードは、データをマスタデータにする前にデータの確認と最終承認を確実に実行することができます。

マスタデータの変更が確認のトリガとなるかどうかは、ユーザーロールによって決まります。例えば、データの追加または編集が許可されるが、変更の承認が許可されていないユーザーロールの場合、編集またはマージしたビジネスエンティティを保存したときに、そのアクションによって確認プロセスが開始されます。

確認プロセスにはユーザーアクティビティが含まれます。ユーザーアクティビティは、確認プロセス内でユーザーの参加が必要とされる特定の時点を表します。確認プロセスのインスタンスがユーザーアクティビティに

達すると、タスク通知が送信されます。ビジネスマネージャとデータスチュワードはタスクインボックスでタスク通知を受信します。

関連項目：

- [「確認プロセスへの参加」 \(ページ 75\)](#)
- [「編集の確認プロセスの例」 \(ページ 75\)](#)

階層およびリレーション

ビジネスエンティティは、他のビジネスエンティティとリレーションを持つことができます。IDD アプリケーションで階層マネージャを有効にすると、ビジネスエンティティが他のビジネスエンティティとどのように関連しているかを示すグラフを表示できます。

リレーションを調べるには、**階層ビュー**を使用します。雇用主と被雇用者の関係のように階層的なリレーション、および友達同士のように階層的でないリレーションを表示できます。

関連項目：

- [「階層とリレーションの調査」 \(ページ 61\)](#)

Informatica Data Director へのログイン

ログインするには、Informatica Data Director (IDD) の URL とユーザー資格情報が必要です。組織で複数の IDD アプリケーションを作成している場合は、アプリケーションの名前も必要です。この情報がない場合は、MDM Hub の管理者に問い合わせてください。

1. Chrome など、サポートされるブラウザを開きます。
2. Informatica Data Director の URL を入力します。URL の形式は次のとおりです。

`http://<MDM Server host name>:<MDM Server port number>/e360/mdm/entity360view/`

[ログイン] ページが開きます。

3. ユーザー名とパスワードを入力します。
4. **[ログイン]** をクリックします。
5. 確認のメッセージが表示された場合は、IDD アプリケーションを選択します。

IDD アプリケーションが開き、**[スタート]** ページが表示されます。ユーザー名がアプリケーションヘッダーの右上に表示されます。

ヒント: ユーザー名の横にあるドロップダウンメニューから、パスワードを変更してユーザーインターフェースの言語を変更できます。

Microsoft Internet Explorer の設定

Informatica Data Director (IDD) を Microsoft Internet Explorer で起動した場合、データ変更がユーザーインターフェースに表示されることを確認するには、Web ページが再ロードされるように Microsoft Internet Explorer を設定します。そうでない場合は、データ変更後に、最新のデータではなくキャッシュされたデータが表示されることがあります。

1. Microsoft Internet Explorer を起動します。
2. **[ツール]** > **[インターネットオプション]** をクリックします。

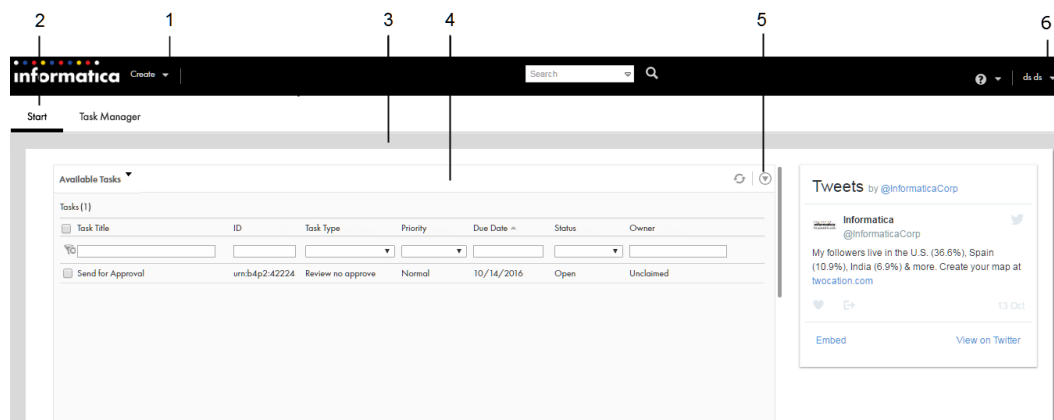
3. **【全般】** タブで、格納される Web ページの新バージョンを Web ページを表示するたびにチェックするように閲覧履歴設定を行います。

この設定により、IDD ページの最新バージョンが表示されるようになります。

ユーザーインターフェース

Informatica Data Director (IDD) のユーザーインターフェースには、アプリケーションヘッダーとタブが含まれます。

次の図は、**【スタート】** ページが表示されたユーザーインターフェースを示しています。



1. アプリケーションヘッダー
2. タブ
3. ページ領域
4. ページツールバー
5. **【アクション】** メニュー
6. パスワード変更などのユーザーオプション

タブには永続的なものと一時的なものがあります。タブにはページ領域と 1 つ以上のパネル、およびツールバーがあります。タブには、ページ内でビューを切り替えることができるものもあります。

注: タブによっては、IDD アプリケーションで表示されない場合があります。例えば、IDD アプリケーション開発者がエンティティ 360 フレームワークを実装するとき、**【データ】** タブを削除する場合があります。

Informatica Data Director には次のタブがあります。

スタート

【スタート】 ページは MDM ダッシュボードとして使用します。マネージャおよびデータスチュワードは、タスクインボックスに確認タスクのリストを表示できます。ソーシャルメディアの投稿、外部 URL、マスターデータを表示するレポートといった他のコンポーネントが表示される場合もあります。**【スタート】** ページは IDD アプリケーション開発者が設定します。

タスクマネージャ

マネージャおよびデータスチュワードは、**【タスクマネージャ】** を使用して、ビジネスエンティティへの変更を確認します。**【スタート】** ページでタスクをクリックすると、**【タスクマネージャ】** が開き、そのタスクに関連付けられたビジネスエンティティが表示されます。

データ

【データ】 タブでは、ビジネスエンティティのマスターデータをさまざまな観点から参照できます。

注: IDD アプリケーションがエンティティ 360 フレームワークを使用して **【データ】** タブが非表示になっている場合、ビジネスエンティティはそのビジネスエンティティの名前が表示されたタブで開きます。

【データ】 タブには複数のビューがあります。

- ビジネスエンティティを検索するには、**【データ】** タブから検索クエリを実行します。
- ビジネスエンティティのマスタデータを表示して編集するには、ビジネスエンティティを選択して **【開く】** をクリックします。エンティティが **【データ】** ビューに表示されます。
- マスタデータのソースと保留中の変更を表示するには、**【XREF】** ビューを使用します。
- マスタデータへの過去の変更を表示するには、**【履歴】** ビューを使用します。
- ビジネスエンティティおよび重複している可能性があるエンティティを表示するには、**【一致マージ比較】** ビューを使用します。
- マスタデータに有効日付が含まれている場合、**【有効期間】** ビューでスケジュール設定された変更を表示できます。
- 階層マネージャが有効な場合、ビジネスエンティティおよびその関連するエンティティを **【階層】** ビューで表示できます。

検索

アプリケーションヘッダーから検索を実行すると、**【検索】** タブに検索の結果が表示されます。検索結果からビジネスエンティティを開くことができます。

開いているビジネスエンティティ

検索結果でビジネスエンティティを選択し、エンティティタブでビジネスエンティティを開きます。タブの名前で、通常はエンティティの名前によって開いているビジネスエンティティを識別しますが、タブ名は設定可能です。エンティティタブでビジネスエンティティのマスタデータの表示または編集を行うことができます。

注: IDD アプリケーションでエンティティ 360 フレームワークが使用されていない場合、エンティティタブは使用できず、ビジネスエンティティが **【データ】** タブで開きます。

エンティティタブでは、以下のビューを開くことができます。

- ビジネスエンティティのマスタデータを表示および編集するには、**【ビジネスエンティティ】** ビューを使用します。
- マスタデータのソースを表示してベストバージョンオブトゥールズを確立するには、**【相互参照レコード】** ビューを使用します。
- マスタデータへの過去の変更を表示するには、**【履歴】** ビューを使用します。
- ビジネスエンティティおよび重複している可能性があるエンティティを表示するには、**【一致するレコード】** ビューを使用します。
- マスタデータに有効日付が含まれている場合、**【タイムライン】** ビューでスケジュール設定された変更を表示できます。
- 階層マネージャが有効な場合、ビジネスエンティティおよびその関連するエンティティを **【階層】** ビューで表示できます。

その他のタブ

IDD のアプリケーション開発者は、その他のタブを設定できます。

従来のビュー

Informatica Data Director (IDD) アプリケーション開発者による IDD アプリケーションの設定方法によっては、複数の方法でマスターデータにアクセスできる場合があります。例えば、既存の IDD アプリケーションを新しいバージョンに移行する場合、最新のビューと従来のビューの両方が使用できる場合があります。

アプリケーションヘッダーに **【作成】** メニューが表示されている場合、最新のビューにアクセスできます。**【データビューで作成】** メニューが表示されている場合、従来のビューを使用できます。

ビジネスエンティティの追加方法に関係なく、MDM Hub ストアでは同一の方法で構成されたビジネスエンティティのレコードが保存されます。親レコードには、エンティティの識別情報が含まれます。子レコードには、住所や電話番号など、他のタイプの関連情報が含まれます。子レコードは、外部キーで親レコードに関連付けられています。ビジネスエンティティモデルでは、子孫レコードの無制限のネストがサポートされています。

以下の表に、最新のビューと従来のビューの違いを示します。

要素	最新のビュー	従来のビュー
アプリケーションヘッダーのメニュー項目	【作成】 メニュー	【データビューで作成】 メニュー
アプリケーションヘッダーのメニュー項目から開くビュー	【ビジネスエンティティ】 データエントリフォーム	【データ】 ビューデータエントリフォーム
ビュー内のデータ	マスターデータ 場合によっては、ソーシャルメディアなどの外部ソースからの関連データも含まれる。 場合によっては、[類似するビジネスエンティティ] パネルなどの他のパネルも含まれる。	マスターデータ
ビューに使用されるデータモデル	ビジネスエンティティモデル	サブジェクト領域モデル
ユーザーインターフェースの言語	ビューは、ブラウザ用に選択したのと同じ言語設定を使用します。	従来のビューで使用する言語を選択します。アプリケーションヘッダーで、名前の横にあるメニューを選択し、 【言語の変更】 を選択します。
検索	スマート検索。全文検索を実行します。 【検索】 ボックスに、検索用語を入力します。	検索クエリ。フィールドで用語を検索します。 アプリケーションヘッダーで 【クエリ】 をクリックします。
IDD バージョンでのサポート	10.0 以降	サポートされるすべてのバージョン
ビューを使用する IDD アプリケーション	IDD バージョン 10.0 以降用に開発された IDD アプリケーション。 さらに、IDD アプリケーションの開発者は以前のアプリケーションを更新できます。	IDD バージョン 9.7.x 以前用に開発された IDD アプリケーション。 注: サブジェクト領域モデルに基づいた一部の IDD アプリケーションには、容易にビジネスエンティティモデルに変換できないカスタマイズが含まれています。

関連項目：

- [「従来のビュー」 \(ページ 90\)](#)

第 2 章

入門ガイド

この章では、以下の項目について説明します。

- [入門ガイドの概要, 19 ページ](#)
- [スタートページ, 19 ページ](#)
- [スタートページでのデータの更新, 22 ページ](#)
- [タスクのソートとフィルタリング, 23 ページ](#)

入門ガイドの概要

Informatica Data Director でアプリケーションにログインすると、**【スタート】** ページが表示されます。**【スタート】** ページは、組織およびユーザーロールに固有です。

【スタート】 ページのレイアウトに基づいて、レポート内のデータを監視したり、ソーシャルメディアへの投稿を監視したり、埋め込み検索エンジンで検索したり、タスクインボックスを整理したりできます。

関連項目：

- [「ビジネスエンティティの追加」 \(ページ 25\)](#)
- [「ビジネスエンティティの検索と編集」 \(ページ 32\)](#)
- [「重複の解決」 \(ページ 44\)](#)
- [「ベストバージョンオブトゥルースの確立」 \(ページ 51\)](#)
- [「データ変更の調査」 \(ページ 54\)](#)
- [「階層とリレーションの調査」 \(ページ 61\)](#)
- [「確認プロセスへの参加」 \(ページ 75\)](#)

スタートページ

【スタート】 ページは、ホームページおよびデータ監視ダッシュボードとして使用します。

IDD のアプリケーション開発者は、**【スタート】** ページをユーザーロール別に設定します。あるユーザーと別のユーザーでユーザーロールが異なる場合、一方のユーザーのページのデザインがもう一方のユーザーのページと異なることがあります。

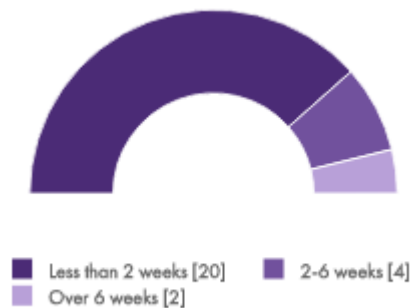
【スタート】 ページには、選択したマスタデータのビューを表示するグラフを含めることができます。また、Twitter や検索エンジンといった他の外部ソースのコンテンツを含めることもできます。マネージャおよびデータスチュワードは、タスクインボックスに確認タスクのリストを表示できます。

グラフ

組織でビジネスインテリジェンスツールまたはグラフ作成ツールを使用する場合は、マスタデータを表示するグラフを作成できます。グラフは、IDD 開発者が **【スタート】** ページに埋め込みます。

グラフは静的または動的のどちらかです。静的グラフには、事前定義済み条件の結果が表示されます。動的グラフには入力フィールドがあり、グラフで使用するさまざまな条件をビジネスユーザーが選択できます。グラフ内のデータを分析する前に、現在のマスタデータが反映されるようにグラフを再計算する必要があります。

例えば、次に、Highcharts で作成した期間のグラフを示します。



ソーシャルメディアの投稿

【スタート】 ページにソーシャルメディアの投稿を含めることができます。ソーシャルメディアの投稿は、組織のソーシャルメディアでのプレゼンスを把握するのに役立ちます。

例えば、次の図は Twitter 投稿を示しています。

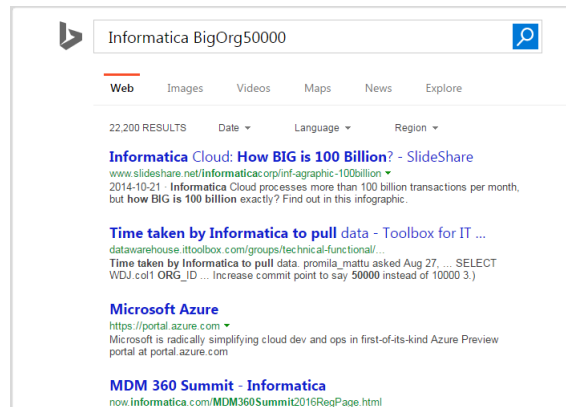


検索エンジンと外部 URL

【スタート】 ページには、埋め込み検索エンジンまたはその他の外部 URL を含めることができます。外部 URL を埋め込むと、Informatica Data Director 内からそのままインターネットにアクセスできます。例えば、ある

ビジネスエンティティについて調べるためにインターネットを検索したり、競合他社のオファリングを監視したりできます。

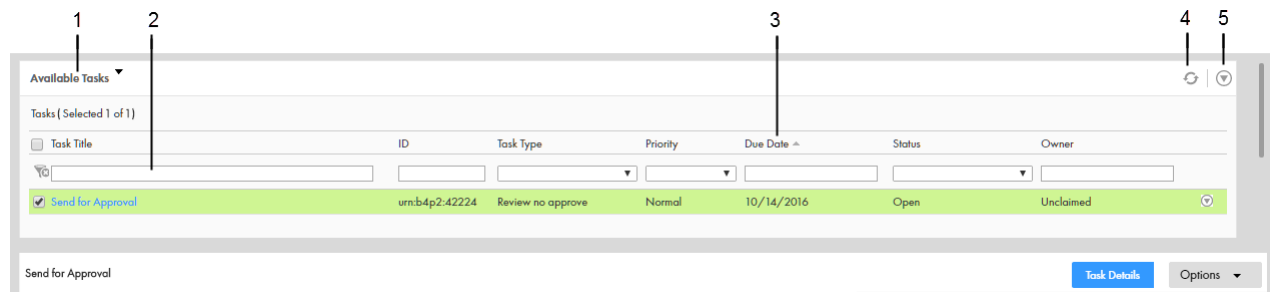
次の図は、埋め込み Bing 検索エンジンを示しています。



タスクインボックス

タスクは、確認プロセスへの参加を求める要求です。例えば、新しいビジネスエンティティの承認や、ビジネスエンティティに対する変更の確認が必要になる場合があります。タスク通知はタスクインボックスで受信します。デフォルトで、タスクインボックスに使用可能なタスクが表示されます。使用可能なタスクには、ユーザーに割り当てられたタスクと、すべての引き受けが解除されたタスクがあります。

次の図は、タスクインボックスを示しています。



1. クイックフィルタ
2. カラムフィルタ
3. カラムの見出し別にソート
4. [更新] アイコン
5. [アクション] アイコン

次の表で、タスクインボックスの要素について説明します。

インボックスの要素	説明
フィルタ	次のタイプのフィルタを単独または組み合わせて使用できます。 <ul style="list-style-type: none">- クイックフィルタ。自分で要求したタスクのみを表示するには、【マイタスク】 を選択します。すべてのタスクを表示するには、【使用可能なタスク】 を選択します。- カラムフィルタ。リストに表示されたタスクのプロパティに基づいてタスクをフィルタします。1 度に 1 つだけカラムフィルタを使用します。
【更新】アイコン	タスクインボックスのコンテンツを更新します。
【アクション】アイコン	選択したタスクに対して実行できるアクションのメニュー。タスクを要求したら、タスクの詳細を編集できます。
タスクのタイトル	確認タスクの簡単な説明を表示するリンク。ビジネスエンティティを確認して、タスクにアクションを実行するには、タスクのタイトルをクリックします。確認パネルにビジネスエンティティが開きます。ロールに権限がある場合は、タスクにアクションを実行する前に、このビューからビジネスエンティティを編集できます。
ID	タスクを生成した確認プロセスのインスタンス ID。
タスクタイプ	プロセス内のユーザーアクティビティの名前。
優先度	タスクの優先度を低、ノーマル、高のいずれかに設定できます。タスクの生成中に、確認プロセスによって同じタイプのすべてのタスクに同じ優先度が割り当てられます。
期限	タスクの期限日。確認プロセスで、タスクの作成日に定義済みの期間を加算してデフォルトの期限が計算されます。
ステータス	タスクのステータスは 【オープン】 または 【終了】 のいずれかになります。タスクのステータスがオープンの場合、タスクに関連付けられているビジネスエンティティを表示できます。
所有者	所有者は、サインイン済みのユーザーです。また、引き受け解除のタスクも表示されます。このタスクは引き受けることができます。

スタートページでのデータの更新

【スタート】 ページでデータを分析する前に、現在のデータを表示するようにコンポーネントを更新します。すべてのコンポーネントを同時に更新することも、一部のコンポーネントを個別に更新することもできます。

注: サードパーティコンポーネントは定期的に自動更新される場合があります。その場合、更新間隔は、そのサードパーティコンポーネントが提供している API によって決まります。詳細については、IDD アプリケーション開発者に問い合わせてください。

次のいずれかのタスクを実行します。

- ページ内のすべてのコンポーネントを更新するには、ブラウザインスタンスを更新します。
- タスクインボックスのみを更新するには、**【更新】** アイコンをクリックします。

- グラフを現在のデータで更新するには、[再計算] をクリックします。

タスクのソートとフィルタリング

タスクインボックスのタスクのリストをソートおよびフィルタできます。例えば、マージプロポーザルを確認する前に、編集されたビジネスエンティティを確認した場合があります。

タスクインボックスには、クイックフィルタとカラムフィルタがあります。これら2つのタイプのフィルタを組み合わせることで、特定の結果を取得できます。例えば、割り当てられたタスクのうち優先度が高いものを表示するには、[マイタスク] クイックフィルタを選択し、[優先度] カラムフィルタを[高]に設定します。論理項では、フィルタがAND演算子で結合されます。

注: 1度に設定できるカラムフィルタは1つです。例えば、リストを[組織]で絞り込んでから、組織のマージタスクのみを表示するようにさらに結果を絞り込むことができます。

1. [開始] タブと [タスクマネージャ] タブのいずれかをクリックします。

タスクインボックスが表示されます。

2. タスクのリストを属性別にソートするには、その属性名のカラムの見出しをクリックします。

例えば、タスクをタスクタイプ別にソートするには、[タスクタイプ] というカラムの見出しをクリックします。

選択したカラムの値に基づいてタスクがソートされます。カラムの見出しの横にある上矢印は、値が昇順にソートされていることを示します。カラムの見出しの横にある下矢印は、値が降順にソートされていることを示します。

注: デフォルトでは、タスクインボックスは、ActiveVOS タスクを大文字と小文字を区別せずにソートします。ソート対象が IDD グローバルプロパティ CompositePagerTotalRecords の値よりも多い場合、大文字と小文字を区別するソートはデータベースに依存します。CompositePagerTotalRecords の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

3. リストをフィルタするには、フィルタ条件を任意の順序で設定します。

- タスクをもっともよく使用される条件でフィルタするには、次のクイックフィルタを選択します。

オプション	説明
マイタスク	自身が所有するタスクが表示されます。
使用可能なタスク	自身が所有するタスクと未割り当てのタスクが表示されます。 注: 他のユーザーに割り当てられているタスクは表示できません。

- カラムの見出しの属性に基づいてタスクリストをフィルタするには、カラムフィルタを1つ設定します。

注: カラムフィルタフィールドが表示されていない場合は、[フィルタオン] をクリックしてフィールドを表示します。

オプション	説明
タスクのタイトル	指定したテキストを含むタスクを表示します。タスクのタイトルに検索するテキストを入力します。

オプション	説明
タイプ	選択したタイプのタスクを表示します。リストから【最終確認】や【マージ】などのタスクタイプを選択します。
優先度	【高】など選択した優先度のタスクを表示します。リストから優先度を選択します。
期限	期限が選択した日付より前のタスク、または期限がその日付までのタスクを表示します。フィールドをクリックして、カレンダーから日付を選択します。
ステータス	【オープン】や【クローズ】など選択したステータスのタスクを表示します。リストからステータスを選択します。
所有者	ユーザーに割り当てられたタスクを表示します。ユーザー名を入力します。

4. フィルタを削除するには、【フィルタのクリア】アイコンをクリックします。

第 3 章

ビジネスエンティティの追加

この章では、以下の項目について説明します。

- [ビジネスエンティティの追加の概要, 25 ページ](#)
- [Person の追加のシナリオ, 26 ページ](#)
- [組織の追加のシナリオ, 26 ページ](#)
- [ビジネスエンティティの追加, 27 ページ](#)
- [DaaS プロバイダのデータを使用したビジネスエンティティの追加, 29 ページ](#)

ビジネスエンティティの追加の概要

マスタデータにビジネスエンティティを追加できます。IDD アプリケーション開発者は、データや構造などのビジネスエンティティのタイプを定義します。また、開発者はエンティティの作成時に開く【**ビジネスエンティティ**】ビューのレイアウトも設計します。アプリケーションには、1 つ以上の【**ビジネスエンティティ**】ビューを含めることができます。

注: 【**ビジネスエンティティ**】ビューの名前は、IDD アプリケーションデザイナーでカスタマイズできます。表示されるビューは、ビュー名が異なる可能性があります。

データエントリフォームパネル

このビューの主なパネルはデータエントリフォームです。必須フィールドには赤い線があります。

【類似するビジネスエンティティ】パネル

ビューに【**類似するビジネスエンティティ**】パネルがある場合、必須フィールドにデータを入力すると、Informatica Data Director により、類似するビジネスエンティティを確認できるリストが生成されます。フォームの入力を終える前に、類似するビジネスエンティティを確認します。エンティティがすでに存在する場合は、新しいエンティティを追加する代わりに既存のエンティティを編集できます。類似するエンティティが、追加するエンティティと同じかどうか分からない場合は、新しいエンティティの追加を続けます。重複するビジネスエンティティを追加した場合は、Informatica Data Director によって一致するエンティティが検出されて統合されます。

【DaaS プロバイダ】パネル

ビューに【**DaaS プロバイダ**】パネルがある場合、表示名などの基本的な情報を指定し、その情報を要求に含めて DaaS プロバイダに送信できます。DaaS プロバイダはそのデータベースで検索を実行し、一致するビジネスエンティティのリストを返します。各エンティティのデータをプレビューできます。2 つ以上のエンティティを比較し、ビジネスエンティティレコードの作成にどのエンティティを使用するかを指定します。

[ビジネスエンティティ] ビューのデータ検証

ユーザーが[ビジネスエンティティ] ビューでデータを追加または変更するとき、Informatica Data Director では、メタデータや場合によっては検証ルールについてデータがチェックされます。メタデータは、データ型や指定できる文字数など、データの期待される形式を定義します。検証ルールは、クレンジングルールまたは Informatica Data Quality ルールです。

検証プロセスは、フィールドレベル、セクションレベル、およびエンティティレベルで実行されます。

- **フィールドレベル。**[ビジネスエンティティ] ビューのフィールドでデータを追加または編集すると、クライアント側の検証プロセスによって、データがメタデータの条件を満たしているかどうかを検証されます。例えば、[日付] フィールドに日付を入力し、そのフィールドから移動すると、検証プロセスによって、入力したデータが期待される日付形式であるか検証されます。
- **セクションレベル。**[ビジネスエンティティ] ビューのセクションですべての変更を適用すると、クライアント側の検証プロセスによって、すべてのデータがメタデータの条件を満たし、必須フィールドにデータが入力されているかどうかを検証されます。
- **エンティティレベル。**[ビジネスエンティティ] ビューでビジネスエンティティを保存すると、サーバー側の検証プロセスによって、データがメタデータの条件、クレンジングの検証ルール、およびのルールを満たしているかどうかを検証されます。Informatica Data Quality

ユーザーの入力がメタデータの条件や検証ルールを満足していない場合は、データに問題があることについてのメッセージが表示されます。

Person の追加のシナリオ

自分が大手保険会社の保険勧誘員であるとします。新しい顧客、Anthony Lomax さんと電話で話をしています。Lomax さんをビジネスエンティティとして追加する必要があります。

Anthony Lomax さんを追加するには、次の手順を実行します。

1. **【作成】** メニューからビジネスエンティティタイプとして **【Person】** を選択します。
2. **【姓】** フィールドに「Lomax」と入力します。**【名】** フィールドに「Anthony」と入力します。
3. **【類似するビジネスエンティティ】** パネルに重複の候補が表示されます。類似するビジネスエンティティを開きます。
4. Lomax さんが、既存の Anthony Lomax と同じ人ではないことを確認したら、類似するビジネスエンティティを閉じます。
5. Lomax さんの情報をフォームに追加し終わりました。

組織の追加のシナリオ

自分がある企業のマーケティング部門に所属しているとします。新たに顧客 Time Warner を獲得しました。Time Warner は組織です。Time Warner を「Organization」ビジネスエンティティとして追加します。

Time Warner を追加するには、次の手順を実行します。

1. **【作成】** メニューからビジネスエンティティタイプとして **【組織】** を選択します。
2. DaaS プロバイダの必須フィールドを入力します。**【表示名】** フィールドに、「Time Warner」と入力します。**【表示名】** フィールドは必須フィールドです。

3. DaaS プロバイダを選択して **【実行】** をクリックします。
4. DaaS プロバイダから返される検索結果を確認します。検索結果で 2 つ以上のエンティティを比較します。
5. 一致候補であるエンティティを選択し、**【これを使用】** をクリックしてビジネスエンティティを作成します。
6. 一致候補が見つからない場合、検索結果を閉じ、データエントリフォームにデータを追加し、**【保存】** をクリックしてビジネスエンティティを作成します。

ビジネスエンティティの追加

ビジネスエンティティモデルを使用する Informatica Data Director (IDD) アプリケーションからビジネスエンティティを追加するには、**【作成】** メニューから、ビジネスエンティティのタイプを選択します。

1. **【作成】** メニューで、追加するビジネスエンティティタイプをクリックします。
例えば、保険会社の IDD アプリケーションでは、顧客の [Person] ビジネスエンティティタイプを定義します。ビジネスユーザーが、Anthony Lomax を顧客として追加するには、**【作成】** > **【Person】** をクリックします。

エンティティタブが開き、ビジネスエンティティのタイプに対応するデータエントリフォームが表示されます。フィールドの赤い線は必須フィールドであることを示します。

2. フォームの各必須フィールドで、フィールドをクリックして値を入力します。

注: テキストを追加するときは、次の表記規則に従います。

- 検索するビジネスエンティティの検索文字列をすべて入力するか、検索文字列とワイルドカード文字のアスタリスク (*) を入力します。ワイルドカード文字は検索文字列の末尾か途中に使用できます。例えば John を検索する場合、Jo* または J*n と指定できます。
- 検索文字列を提示するように検索を設定した場合は、検索文字列を数文字入力して、検索文字列として提示された値のいずれかを選択します。

注: 値が提示されるのは、1 つのビジネスエンティティタイプで検索した場合だけです。

検索文字列に、「+、-、&、||、!、()、{}、[]、^、"、~、?、:、\」のいずれかの特殊文字を含める場合は、円記号をプレフィックスとして特殊文字の先頭に付加します。円記号をプレフィックスとして各特殊文字の先頭に付加しないと、検索結果が返されない、または誤った検索結果が返される場合があります。例えば AT&T を検索する場合、検索文字列には AT\&T と指定する必要があります。

次の図は、Person ビジネスエンティティタイプのデータエントリフォームを示しています。必須フィールドは入力済みです。

- 1 ナビゲーションメニュー。
 - 2 必須フィールドのインジケータ
 - 3 変更したフィールドのインジケータ
3. **【類似するビジネスエンティティ】** パネルに類似するビジネスエンティティのリストが表示されている場合は、リストの内容を確認してください。
- a. **【類似するビジネスエンティティ】** パネルで、ビジネスエンティティの横にある情報アイコンをクリックします。

次の図は、**【プレビュー】** ウィンドウを示しています。このウィンドウには選択したビジネスエンティティについての情報が表示されます。

Preview: ANTHONY
ROBERT LOMAX

Last Name:	LOMAX	Birthdate:	1995-03-07 16:00:00
Display Name:	ANTHONY ROBERT LOMAX	Tax ID:	
Middle Name:	ROBERT		
First Name:	ANTHONY		

Use this recordOpen Entity ViewClose

- b. 他のデータ値を確認して、類似するビジネスエンティティが追加するビジネスエントリと同じかどうか確認します。
- 同じエンティティの場合は、**【このレコードを使用】** をクリックします。確認を求められたら、**【はい、続行します】** をクリックします。作成中のエンティティは破棄され、タブが閉じられます。選択したビジネスエンティティがエンティティタブで開きます。必要に応じてデータを編集できます。
 - 同じエンティティではない場合は、**【閉じる】** をクリックします。
 - 作成中のエンティティを破棄せずに、プレビューしているエンティティの子レコードを確認するには、**【ビジネスエンティティの表示】** をクリックします。プレビューしているエンティティがエンティティタブで開きます。
- c. 同じ方法で他の類似するエンティティを確認します。
- d. ビジネスエンティティが存在しない場合は、作成中のビジネスエンティティが含まれるタブに戻ります。
4. データエントリフォームで、オプションのフィールドにデータを追加します。
- a. フィールドを入力します。
 - b. 必要に応じて、画像を追加します。画像フィールドに有効な URL を入力します。

注: 最適な結果を得るには、200 x 200 ピクセル以下の画像を使用します。MDM Hub は、画像のファイルではなく、画像の URL を保存します。ファイルの場所が変更された場合、URL を更新する必要があります。

- c. **【適用】** アイコンをクリックします。
5. データエントリフォームに子レコード用のセクションが含まれる場合、セクションに子レコードを追加します。
 - a. ナビゲーションメニューで、**【住所】** や **【電話】** などのセクション名をクリックします。
ビューが選択したセクションにスクロールします。
 - b. **【子レコードの作成】** アイコンをクリックします。
データを入力できるフィールドが表示されます。
 - c. フィールドの表示はテーブルビューとフォームビューで切り替えることができます。**【フォーム】** アイコンまたは **【テーブル】** アイコンをクリックします。
 - d. フィールドを入力します。
次の図は、フォームビューの **【電話】** セクションを示しています。

▼ PhoneNumbers (1)

Do Not Call Ind:	Y	Phone Number:	647-555-1234	Phone Type:	HOME
Phone Ext Number:	222	Phone Country Cd:	1		

- 1 **【テーブル】** アイコン。クリックするとフィールドがテーブル形式で表示されます。
- 2 **【フォーム】** アイコン。クリックするとフィールドがフォーム形式で表示されます。
- 3 **【子レコードの作成】** アイコン。クリックすると選択したビジネスエントリに子レコードが追加されます。
- e. **【適用】** アイコンをクリックします。
6. データの追加が完了したら、**【保存】** をクリックします。
エンティティが正常に作成されたことを通知するメッセージが表示されます。ユーザーロールで、確認せずにデータを保存することが許可されている場合、アプリケーションによってビジネスエンティティが MDM Hub ストアにアクティブなレコードとして保存されます。それ以外の場合、アプリケーションによってビジネスエンティティが保留中のレコードとして保存され、ロールに関連付けられた確認プロセスが開始されます。

DaaS プロバイダのデータを使用したビジネスエンティティの追加

Data as a Service (DaaS) が MDM Hub と統合されていてビジネスエンティティ用に設定されている場合、**【DaaS プロバイダ】** パネルには DaaS プロバイダの一覧が表示されます。DaaS プロバイダにより提供された

データを使用し、ビジネスエンティティレコードを追加します。ビジネスエンティティを追加するには、【作成】メニューから開始し、ビジネスエンティティのタイプを選択します。

1. 【作成】メニューで、追加するビジネスエンティティタイプをクリックします。
例えば、会社またはエンタープライズの IDD アプリケーションによって、顧客の「Organization」ビジネスエンティティタイプが定義されます。ビジネスユーザーが、Time Warner を顧客として追加するには、【作成】 > 【組織】 をクリックします。

2. DaaS プロバイダの必須フィールドを入力します。【表示名】フィールドに、「Time Warner」と入力します。

注: 【表示名】は必須フィールドです。

3. カーソルを【表示名】フィールドの外に移動します。

これで DaaS プロバイダを選択できます。

次の図は、「Organization」ビジネスエンティティタイプのデータエントリフォームを示しています。必須フィールドは入力済みです。

4. 【DaaS プロバイダ】パネルで、次の手順を実行し、DaaS サービスにビジネスエンティティに関する情報を要求します。

- a. 使用する DaaS プロバイダを選択して【実行】をクリックします。

DaaS プロバイダが、組織の表示名に基づいて検索結果を返します。

次の図は、DaaS プロバイダが返す検索結果を示しています。

			Go back	Compare	Use this	✕
✓ Duns Number	✓ Display Name	✓ Action				
✓ 799527630	TIME WARNER INC.	Preview				
✓ 790784474	TIME WARNER CABLE ENTERPRISES LLC	Preview				
✓ 836351197	TIME WARNER ENTERTAINMENT-ADVANCE/NEWHOUSE PA...	Preview				
✓ 001213446	TIME WARNER COMPANIES, INC.	Preview				
✓ 055151098	TIME WARNER	Preview				

- b. 検索結果のエンティティが追加するエンティティかどうかを調べます。
 1. エンティティを選択し、【プレビュー】をクリックします。
 2. データ値が追加するエンティティと一致しない場合、【戻る】をクリックします。
 3. 同じ方法ですべてのエンティティを確認します。
- c. 必要に応じて、2 つ以上のエンティティを比較するには、エンティティを選択して【比較】をクリックします。

【比較】ページには、選択したエンティティのデータが表示されます。

次の図は、[比較] ページを示しています。

Compare Go back Compare Use this ×

Field Names	Organization 1	Organization 2
Party Type		
Display Name	TIME WARNER INC.	TIME WARNER
DUNS Number	799527630	055151098

- d. 検索結果からデータを追加するには、検索結果または [比較] ページから 1 つ以上のエンティティを選択し、[これを使用] をクリックします。

すべてのエンティティがマージされ、1 つのビジネスエンティティレコードが形成されます。

ビジネスエンティティは、DaaS プロバイダのデータで作成されます。

次の図は、追加したビジネスエンティティを示しています。

Organization View: New layout ⋮

Organization
Addresses
Phones
Details

Overview Edit

Display Name: Time Warner Party Type: Organization DUNS Number: 055151098

Addresses (2)

Address Type

Phones (2)

Do Not Call Ind	Phone Ext Number	Phone Number	Phone Country Cd	Phone Type
		02124848000	1	
		09157555899	1	

Details (0)

Related Records (0) New

5. 作成するエンティティに一致する結果を DaaS プロバイダが返さない場合、作成中のビジネスエンティティが含まれるタブに戻ってください。

データエントリフォームで詳細を入力し、[保存] をクリックしてビジネスエンティティを追加します。

第 4 章

ビジネスエンティティの検索と編集

この章では、以下の項目について説明します。

- [ビジネスエンティティの検索と編集の概要, 32 ページ](#)
- [ビジネスエンティティの編集のシナリオ, 34 ページ](#)
- [ビジネスエンティティの検索, 34 ページ](#)
- [ビジネスエンティティのフィルタリング, 36 ページ](#)
- [ビジネスエンティティの表示および開始, 37 ページ](#)
- [ビジネスエンティティの編集, 38 ページ](#)
- [関連レコードの追加と編集, 39 ページ](#)
- [ビジネスエンティティの削除, 43 ページ](#)

ビジネスエンティティの検索と編集の概要

表示、編集、削除を行うビジネスエンティティを検索できます。複数のビジネスエンティティが検索結果に表示される場合は、フィルタを使用して検索を絞り込むことができます。

ビジネスエンティティを見つけたら、そのエンティティをエンティティタブで開くことができます。ロールに権限がある場合は、データの編集や、ビジネスエンティティの削除を行うことができます。変更を保存すると、ユーザーロールに基づいて確認プロセスが開始される場合があります。この場合、確認プロセスが終了するまで Informatica Data Director によって要求された変更が保留中のレコードに保存されます。確認が終了して承認された場合は、Informatica Data Director によって保留中のレコードからアクティブなレコードに変更が適用されます。

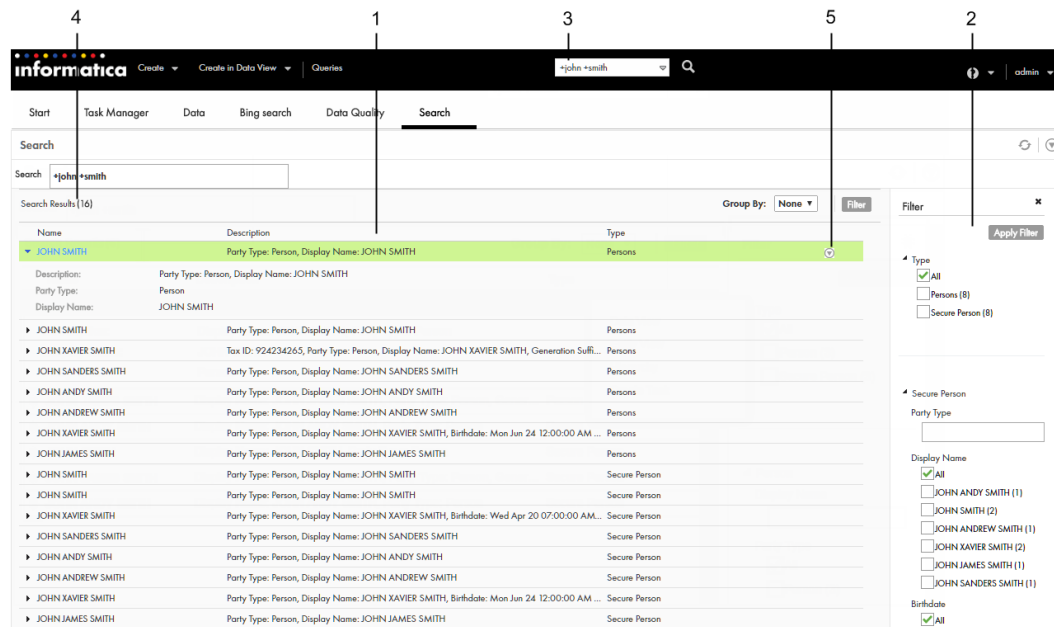
[検索] ページ

[検索] ページは一時的なページであり、アプリケーションヘッダーの [検索] ボックスから検索を実行すると表示されます。検索を実行すると、検索条件を満たすビジネスエンティティのリストが返されます。

[検索] ページを使用して、検索結果を確認します。検索結果のビジネスエンティティを展開すると、ビジネスエンティティの詳細のサマリを表示できます。検索結果を絞り込むには、フィルタを使用できます。

ビジネスエンティティタイプに基づいて、検索結果に表示するビジネスエンティティをグループ化できます。ビジネスエンティティをグループ化した場合、関連するビジネスエンティティタイプのグループ内でビジネスエンティティを探すことができます。

次の図に、[検索] ページの例を示します。



1. [検索結果] パネル
2. [フィルタ] パネル
3. 検索ボックス
4. 結果の合計
5. [アクション] メニュー

[検索] ページには以下のセクションが含まれます。

[検索結果] パネル

見つかった結果の合計数と、検索結果の一部であるビジネスエンティティのリストが表示されます。検索結果に表示されたビジネスエンティティをビジネスエンティティタイプ別にグループ化できます。

[フィルタ] パネル

検索結果をフィルタするためのフィルタ条件が表示されます。フィルタを使用し、選択したフィルタ条件または入力したフィルタ条件の値に基づいて検索結果を絞り込みます。検索結果をフィルタする必要がない場合は、[フィルタ] パネルを非表示にできます。

結果の合計

検索ボックスに入力した検索文字列に基づく検索結果の合計数が表示されます。

[アクション] メニュー

ビジネスエンティティに実行できるアクションが表示されます。例えば、[階層] ビューなどのビューでエンティティを開いたり、エンティティに対するタスクを作成したりできます。

フィルタ条件

フィルタプロパティ。このプロパティを選択するか、値を入力して、検索結果を絞り込むことができます。

ビジネスエンティティの編集のシナリオ

John Smith という顧客が、発送済み製品が届かないと連絡してきたとします。この顧客の住所を確認して間違いを訂正し、製品を正しい住所に転送する必要があります。

John Smith を表すビジネスエンティティを検索します。検索により、同じような名前の複数のビジネスエンティティが返されます。検索を絞り込むため、市区町村名やその他の条件に基づいて検索結果をフィルタ処理します。John Smith のビジネスエンティティを探して選択し、開いて住所を確認します。住所の郵便番号が誤っていることが判明しました。住所の情報を訂正後、ビジネスエンティティを閉じて保存します。正しい住所に製品を確実に再送します。

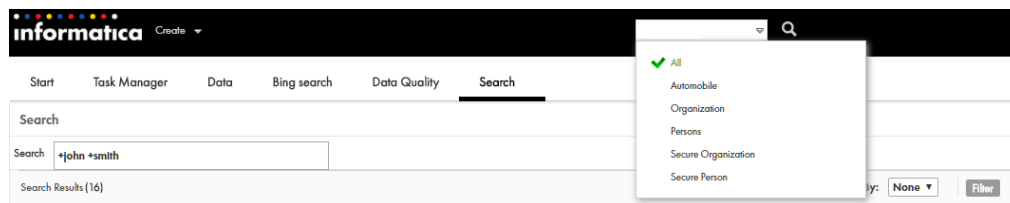
ビジネスエンティティの検索

表示、編集、または削除するビジネスエンティティを検索することができます。

1. 必要に応じて、Informatica Data Director のヘッダにある **【検索】** ボックスで、ビジネスエンティティを検索するビジネスエンティティタイプをリストから選択します。

デフォルトでは **【すべて】** が選択されており、Informatica Data Director は、すべてのビジネスエンティティタイプ内で検索を実行します。

次の図は、ビジネスエンティティタイプのリストを示しています。



2. **【検索】** ボックスで、次のいずれかのタスクを実行します。

- 検索するビジネスエンティティの検索文字列をすべて入力するか、検索文字列とワイルドカード文字のアスタリスク (*) を入力します。ワイルドカード文字は検索文字列の末尾か途中に使用できます。例えば John を検索する場合、Jo* または J*n と指定できます。
- 検索文字列を提示するように検索を設定した場合は、検索文字列を数文字入力して、検索文字列として提示された値のいずれかを選択します。

注: 値が提示されるのは、1 つのビジネスエンティティタイプで検索した場合だけです。

検索結果に検索文字列の各単語が含まれている必要がある場合は、各検索単語の前に + 演算子を追加します。

検索文字列に、「+、-、&、||、!、()、{}、[]、^、"、~、?、:、\」のいずれかの特殊文字を含める場合は、円記号をプレフィックスとして特殊文字の先頭に付加します。円記号をプレフィックスとして各特殊文字の先頭に付加しないと、検索結果が返されない、または誤った検索結果が返される場合があります。例えば AT&T を検索する場合、検索文字列には AT\&T と指定する必要があります。

負の値を検索する場合、マイナス記号を付けずに検索文字列に値を入力します。例えば -5000 を検索する場合、検索文字列には 5000 と指定する必要があります。

日付を検索する場合、<Month> <DD> <YYYY>などの簡単な日付形式を任意の順序で使用し、<YYYY>-<MM>-<DD> や YYYY-MM-DDThh:mmTZD などの日付形式を使用しないでください。例えば、検索文字列として「November 20 2014」や「2014 Nov 20」を使用します。

次の図は、John Smith という検索文字列が入力された検索ボックスを示しています。



3. **【検索】** アイコンをクリックします。

次の図は、**【検索】** ページに表示された検索結果を示しています。

A screenshot of the search results page. At the top, there's a search bar with 'john +smith' and a 'Search Results (16)' label. On the right, there's a 'Group By' dropdown set to 'None' and a 'Filter' button. Below is a table with columns 'Name', 'Description', and 'Type'. The first row is highlighted in green and shows 'JOHN SMITH' as the name, 'Party Type: Person, Display Name: JOHN SMITH' as the description, and 'Persons' as the type. Subsequent rows list other individuals like JOHN SMITH, JOHN XAVIER SMITH, etc., with their respective descriptions and types (Persons or Secure Person).

Name	Description	Type
JOHN SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN SMITH	Persons
JOHN SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN SMITH	Persons
JOHN XAVIER SMITH	Tax ID: 924234265, Party Type: Person, Display Name: JOHN XAVIER SMITH, Generation Sufi...	Persons
JOHN SANDERS SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN SANDERS SMITH	Persons
JOHN ANDY SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN ANDY SMITH	Persons
JOHN ANDREW SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN ANDREW SMITH	Persons
JOHN XAVIER SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN XAVIER SMITH, Birthdate: Mon Jun 24 12:00:00 AM ...	Persons
JOHN JAMES SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN JAMES SMITH	Persons
JOHN SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN SMITH	Secure Person
JOHN SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN SMITH	Secure Person
JOHN XAVIER SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN XAVIER SMITH, Birthdate: Wed Apr 20 07:00:00 AM ...	Secure Person
JOHN SANDERS SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN SANDERS SMITH	Secure Person
JOHN ANDY SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN ANDY SMITH	Secure Person
JOHN ANDREW SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN ANDREW SMITH	Secure Person
JOHN XAVIER SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN XAVIER SMITH, Birthdate: Mon Jun 24 12:00:00 AM ...	Secure Person
JOHN JAMES SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN JAMES SMITH	Secure Person

注: スマート検索要求では、丸めた値を検索するときにエンティティ 360 ビューに表示される丸めた浮動小数点値は返されません。

4. 必要に応じて、ビジネスエンティティタイプに基づき、検索結果に表示するビジネスエンティティをグループ化できます。

検索結果はソートされ、関連するビジネスエンティティタイプのグループに移動します。

次の図は、「Person」ビジネスエンティティタイプグループの検索結果と、「Secure Person」ビジネスエンティティタイプグループの検索結果を示しています。

A screenshot of the search results page, similar to the previous one, but with the 'Group By' dropdown set to 'Type'. The table now shows two main groups: 'Persons (8)' and 'Secure Person (8)', each with a dropdown arrow next to it. The 'Group By' dropdown is highlighted with a red box.

Name	Description	Type
Persons (8)		
Secure Person (8)		

5. 探しているビジネスエンティティを見つけるには、そのビジネスエンティティがあると予想されるビジネスエンティティタイプを展開します。

ビジネスエンティティタイプを展開すると、そのビジネスエンティティタイプに属し、検索結果に含まれるすべてのビジネスエンティティが表示されます。

次の図は、「Person」ビジネスエンティティタイプの結果を展開したものを示しています。

Search

+john +smith

Search Results (16)

Group By: Type Filter

Name	Description	Type
▼ Persons (8)		
▶ JOHN SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN SMITH	Persons
▶ JOHN SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN SMITH	Persons
▶ JOHN XAVIER SMITH	Tax ID: 924234265, Party Type: Person, Display Name: JOHN XAVIER SMITH, Generation Sufi...	Persons
▶ JOHN SANDERS SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN SANDERS SMITH	Persons
▶ JOHN ANDY SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN ANDY SMITH	Persons
▶ JOHN ANDREW SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN ANDREW SMITH	Persons
▶ JOHN XAVIER SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN XAVIER SMITH, Birthdate: Mon Jun 24 12:00:00 AM ...	Persons
▶ JOHN JAMES SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN JAMES SMITH	Persons
▶ Secure Person (8)		

ビジネスエンティティのフィルタリング

検索を実行したら、フィルタを使用して検索結果を絞り込むことができます。例えば、John Smith の検索結果を絞り込むには、都市名 Tronto で結果をフィルタリングできます。

1. 検索を実行します。

検索結果が **【検索】** ページに表示されます。

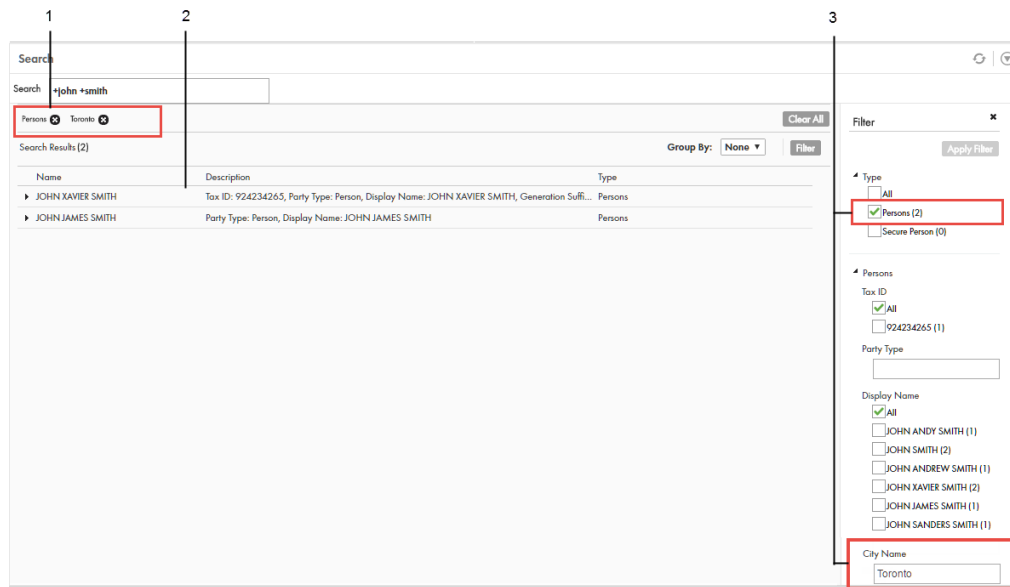
2. **【フィルタ】** パネルで、必要なフィルタ条件の値を選択するか入力します。

注: 日時フィールドでフィルタする場合、日付は指定できますが時間は指定できません。デフォルトの時刻 (00:00:00 UTC) が使用されます。一部の数値フィルタは、検索結果で値が 10 進法表記で表示されていても、指数表記で表示される場合があります。例えば、フィルタで 10544444.6 が 1.05444446E7 として表示されることがあります。

3. **【フィルタの適用】** をクリックします。

検索結果には、適用したフィルタに一致するビジネスエンティティのみが含まれます。適用したフィルタのリストが **【検索】** ボックスの下に表示されます。フィルタの **[X]** アイコンをクリックして、フィルタを削除できます。

次の図は、適用したフィルタに一致しているビジネスエンティティのみが検索結果に含まれることを示しています。



- 適用したフィルタ
- フィルタ済み検索結果
- 選択したフィルタ
- すべてのフィルタ条件をクリアするには、**【すべてクリア】** をクリックします。

ビジネスエンティティの表示および開始

【検索】 タブの **【検索結果】** パネルに、ビジネスエンティティの詳細のサマリを表示できます。目的とするビジネスエンティティを確実に開くには、ビジネスエンティティを開く前にその詳細を確認します。ビジネスエンティティは **【ビジネスエンティティ】** ビュー、**【データ】** の従来のビュー、または **【階層】** ビューで開くことができます。

- 【検索結果】** パネルで、目的のビジネスエンティティを選択して開きます。

注: 説明の前に「保留中」と記されている場合、ビジネスエンティティに未承認の保留中の変更があることを示しています。ビジネスエンティティを開くことはできますが、確認および承認プロセスが終了するまで、変更を行うことはできません。

- 正しいビジネスエンティティがあることを確認するには、エントリを展開してビジネスエンティティに関する詳細をいくつか表示します。

次の図は、John James Smith のエントリが展開されたものを示しています。

▶ JOHN ANDREW SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN ANDREW SMITH	Persons
▶ JOHN XAVIER SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN XAVIER SMITH, Birthdate: Mon Jun 24 12:00...	Persons
▼ JOHN JAMES SMITH	Party Type: Person, Display Name: JOHN JAMES SMITH	Persons
Description:	Party Type: Person, Display Name: JOHN JAMES SMITH	
Party Type:	Person	
Display Name:	JOHN JAMES SMITH	

- ビジネスエンティティを開きます。

- ビジネスエンティティをデフォルトビューで開くには、エンティティ名をクリックします。
- または、行末の【処理】メニューをクリックし、ビューを選択します。使用可能なビューは、IDD のアプリケーション設定によって異なります。
次の表に、【処理】メニューから使用できる可能性があるビューの一部を示します。

ビュー	説明
データ	従来の [データ] ビューでビジネスエンティティの表示と編集を行います。
ビジネスエンティティ	エンティティに関する他の情報ソースの文脈でビジネスエンティティの表示と編集を行います。
階層	ビジネスエンティティのリレーションの図を表示します。

4. 確認のメッセージが表示された場合は、調査の対象期間を指定します。
エンティティが開きます。

ビジネスエンティティの編集

ユーザーロールに編集権限が含まれている場合は、アクティブ状態のビジネスエンティティを編集できます。

注: 保留状態のビジネスエンティティは、そのエンティティに承認保留中の変更があるため、編集できません。確認プロセスおよび承認プロセスが終了するまで待機する必要があります。

1. 【検索】 タブの【検索結果】 パネルから、編集するビジネスエンティティを開きます。
選択したビューにビジネスエンティティが開きます。
2. ビューが編集で優先されるビューではない場合、[表示] リストから別のビューを選択できます。
3. 【編集】 ボタンをクリックします。

ヒント: ボタンが無効な場合は、ビジネスエンティティを編集する権限がないか、ビジネスエンティティに承認保留中の変更があります。

次の図は、編集モードの John James Smith のビジネスエンティティを示しています。

4. 必要に応じて、ルートレコードのデータを編集します。

- 上部の任意の場所をクリックします。
セクションが編集可能になります。
- データを編集します。
- 【適用】アイコンをクリックします。

5. 必要に応じて、子レコードのデータを編集します。

- 子セクションを展開します。
- 【編集】アイコンをクリックします。
セクションが編集可能になります。
- データを編集します。
- 【適用】アイコンをクリックします。

6. 【保存】ボタンをクリックします。

ユーザーロールで、確認せずにデータを保存することが許可されている場合、アプリケーションによってビジネスエンティティが MDM Hub ストアにアクティブなレコードとして保存されます。それ以外の場合、アプリケーションによってビジネスエンティティが保留中のレコードとして保存され、ロールに関連付けられた確認プロセスが開始されます。

関連レコードの追加と編集

ビジネスエンティティのリレーションは、2つのエンティティ間の関係を記述します。MDM Hub では、同じビジネスエンティティ内のレコード間の階層リレーションに加えて、ビジネスエンティティ間の 1 対多および多対多のリレーションもサポートされます。ビジネスエンティティとビジネスエンティティに関連するレコードの間のリレーションに対して追加、表示、編集、および管理を行うことができます。

2つのエンティティの間にリレーションが存在する場合、関連レコードをビジネスエンティティに追加できます。例えば、「組織が個人を採用する」は、「Organization」ビジネスエンティティと「Person」ビジネスエンティティ

ィティの間に存在するリレーションです。Person のレコードまたは従業員を関連レコードとして Organization に追加できます。[関連レコード] パネルは、[ビジネスエンティティ] ビューで開かれるビジネスエンティティに直接関連するビジネスエンティティの一覧を表示します。

注: ビジネスエンティティの編集時に [関連レコード] パネルが表示されない場合、IDD アプリケーション開発者にお問い合わせください。

関連レコードの追加および編集のシナリオ

組織が個人を採用するような、「Organization」ビジネスエンティティタイプと「Person」ビジネスエンティティタイプの間のリレーションが設定されます。従業員を追加する組織（Informatica）があるとして、John Smith は Informatica の従業員です。

Informatica ビジネスエンティティを検索します。エンティティを開きます。John Smith を表す「Person」ビジネスエンティティを検索します。John Smith を関連レコードとして Informatica に追加します。評価後は John Smith の役職と給与が異なります。次に、リレーションの詳細を更新し、変更を反映してください。Informatica ビジネスエンティティを開き、Informatica と John Smith の間のリレーションを選択します。リレーションの詳細を更新します。

関連レコードの追加

ビジネスエンティティにリレーションが設定されている場合、関連レコードをビジネスエンティティに追加できます。[ビジネスエンティティ] ビューでエンティティを検索して開きます。関連レコードとして追加する関連エンティティを検索し、そのレコードを [関連レコード] パネルに追加します。

注: [関連レコード] パネルは [ビジネスエンティティ] ビューに存在している必要があります。

1. **【検索】** ワークスペースの **【検索結果】** パネルから、関連レコードの追加先となるビジネスエンティティを選択します。
2. ビジネスエンティティを開きます。
【関連レコード】 パネルには、開いたビジネスエンティティに直接関連するビジネスエンティティレコードが表示されます。[関連レコード] パネルは複数ある可能性があります。
3. **【関連レコード】** パネルで、**【新規】** をクリックします。
【リレーション】 ダイアログボックスが開きます。
4. リレーションタイプを選択します。
5. **【検索】** ボックスで、検索するビジネスエンティティの検索文字列をすべて入力するか、検索文字列とワイルドカード文字のアスタリスク (*) を入力します。
6. **【検索】** をクリックします。

次の図は、検索結果とフィルタパネルを示しています。

The screenshot shows the 'Relationships' search interface. At the top, there's a 'Select Relationship type' dropdown set to 'Organizatio' and a search box containing 'A*'. A 'Search' button is next to it. Below the search bar, the results are displayed in a table with columns 'Name', 'Description', and 'Type'. The table shows 84 results, with the first few rows visible. To the right of the table is a 'Filters' panel with an 'Apply Filter' button. The filters include 'Party Type' (Person (84)) and 'Display Name' (A list of names with counts). The bottom of the table has pagination controls showing '1 - 10 of 84 items'.

7. **【フィルタ】** パネルで、必要なフィルタ条件の値を選択します。

8. **【フィルタの適用】** をクリックします。

設定したフィルタに基づいて、変更された検索結果が**【検索結果】** パネルに表示されます。

次の図は、フィルタされたエンティティを示しています。

The screenshot shows the 'Relationships' search interface after applying filters. The search bar now contains 'A*' and is highlighted in yellow. The results table now shows only 2 results: 'Person: GRAY, ADA...' and 'Person: HARDY, ADA...'. The 'Filters' panel on the right shows that 'ADA HARDY (1)' and 'ADAM GRAY (1)' are selected under the 'Display Name' filter. The pagination at the bottom shows '1 - 2 of 2 items'.

9. 関連レコードとして追加するビジネスエンティティを選択し、**【選択】** をクリックします。

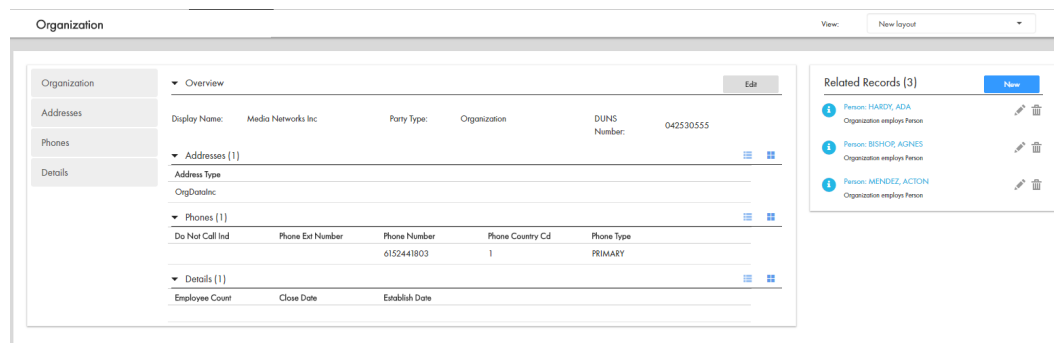
10. リレーションに追加属性がある場合、その追加属性を指定します。

例えば、PersonOwnsAutomobile リレーションで、燃費と価格を指定する場合があります。

11. **【適用】** をクリックします。

ビジネスエンティティが関連レコードとして追加され、**【関連レコード】** パネルに表示されます。

次の図は、**【関連レコード】** パネルの関連レコードを示しています。



関連レコードの表示

ビジネスエンティティに関連するレコードを表示するには、ビジネスエンティティを検索して開きます。関連レコードを**【関連レコード】** パネルで表示できます。コンポーネント内の各関連ビジネスエンティティは、エンティティビューで開くことができるリンクになっています。

1. **【検索】** ワークスペースの**【検索結果】** パネルから、ビジネスエンティティを選択します。
2. **【エンティティビュー】** をクリックします。

関連レコードが**【関連レコード】** パネルに一覧表示されます。

関連レコードの削除

ビジネスエンティティと関連レコードの間のリレーションを削除できます。ビジネスエンティティを検索し、**【関連レコード】** パネルの関連レコードを削除します。

1. **【検索】** ワークスペースの**【検索結果】** パネルから、編集するビジネスエンティティを選択します。
2. ビジネスエンティティを開きます。
【関連レコード】 パネルには、開いたビジネスエンティティに直接関連するビジネスエンティティレコードが表示されます。**【関連レコード】** パネルは複数ある可能性があります。
3. 削除する関連レコードを選択し、**【削除】** アイコンをクリックします。
確認ボックスが表示されます。
4. リレーションを削除するには、**【はい】** をクリックします。

Informatica Data Director により、ビジネスエンティティと関連ビジネスエンティティの間のリレーションが削除され、**【関連レコード】** パネルに関連レコードが表示されなくなります。

リレーションの詳細の編集

ビジネスエンティティと関連レコードの間のリレーションの詳細を編集できます。リレーションに関連付けられた追加属性を編集できます。ビジネスエンティティを検索し、**【関連レコード】** パネルからリレーションを編集できます。

1. **【検索】** ワークスペースの**【検索結果】** パネルから、編集するビジネスエンティティを選択します。
2. ビジネスエンティティを開きます。
【関連レコード】 パネルには、開いたビジネスエンティティに直接関連するビジネスエンティティレコードが表示されます。**【関連レコード】** パネルは複数ある可能性があります。
3. **【関連レコード】** パネルで、編集する関連レコードを選択し、**【編集】** アイコンをクリックします。

4. 追加属性を編集し、**【適用】** をクリックします。

例えば、役職と給与は OrganizationEmploysPerson リレーションに関連付けられている 2 つの属性であると仮定します。評価後に、その Person レコードの役職と給与を編集して変更を反映できます。

ビジネスエンティティの削除

ユーザーロールに削除権限が含まれている場合は、アクティブ状態のビジネスエンティティを削除できます。保留状態のビジネスエンティティは、ワークフローの一部であり、承認が保留中であるため削除できません。

1. **【検索】** タブの **【検索結果】** パネルから、削除するビジネスエンティティを選択します。
2. ビジネスエンティティを開きます。
3. **【アクション】** > **【削除】** をクリックします。
アクションの確認を求めるメッセージが表示されます。
4. ビジネスエンティティを削除するには、**【はい】** をクリックします。

Informatica Data Director

第 5 章

重複の解決

この章では、以下の項目について説明します。

- [重複の解決の概要, 44 ページ](#)
- [重複するビジネスエンティティのシナリオ, 46 ページ](#)
- [重複するビジネスエンティティの解決, 46 ページ](#)
- [1つのビジネスエンティティでの重複するレコードの解決, 49 ページ](#)

重複の解決の概要

一致プロセスで、一致ルールに基づいて一致するビジネスエンティティを識別します。ビジネスエンティティの【一致するレコード】ビューを開くと、IDD アプリケーションは一致テーブルから一致するビジネスエンティティに関するデータを取得します。他の類似するビジネスエンティティを検索してビューに追加することもできます。

注: 【一致するレコード】ビューには、一致テーブルのデータに基づいて一致するレコードが表示されます。一致ジョブが最近実行されていない場合には、一致テーブルには、一部の一致候補しか含まれていない可能性があります。

【一致するレコード】ビューで、類似するビジネスエンティティのレコードを確認できます。ルートレコードで開始します。ルートレコードのデータに基づいて重複するビジネスエンティティを識別したら、そのビジネスエンティティを選択します。ルートレコードのマージのプレビューで、提案されるマージの結果が表示されます。次に、選択したビジネスエンティティのすべての子レコードおよび子孫レコードを比較できます。同じフィールドに異なる値が含まれているレコードがある場合、マージのプレビュープロセスでデータの信頼スコアが参照されます。最も信頼性の高いデータがマージされたビジネスエンティティで使用されます。マージされたビジネスエンティティのプレビューはいつでも開くことができます。

マージのプレビューにベストバージョンオブトゥールズが反映されていることを確認し、マージプロセスを開始します。ユーザーロールにより、ビジネスエンティティのマージの提案を第三者が確認する必要がある場合、Informatica Data Director はエンティティを保存してマージ確認ワークフローを開始します。権限のあるユーザーが提案されたマージを承認したら、MDM Hub はマージされたビジネスエンティティを反映するようにマスタデータを更新します。

注: 信頼スコアを上書きして、別のフィールドからの値を使用できます。レコードをマージしたら、【相互参照レコード】ビューを選択し、希望するフィールドを選択して、ビジネスエンティティを保存します。

一致プロセス

一致プロセスでは、一致ルールを使用し、[ビジネスエンティティ] ビューで開いたエンティティに類似するビジネスエンティティを識別します。ビジネスエンティティ間の類似度は一致ルールの定義方法によって異なります。

MDM Hub 管理者またはデータスチュワードは Hub コンソールで一致ルールを定義します。一致ルールは、検索するレコードカラムと使用する一致のタイプ（あいまいまたは完全）を識別します。一致ルールの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Configuration Guide*』を参照してください。

この類似するビジネスエンティティのリストは単なる出発点です。ビジネスエンティティは類似していても、重複するレコードではない場合があります。ビジネスエンティティでレコードを確認し、重複を識別する必要があります。

マージプロセス

重複するビジネスエンティティを解決するには、ターゲットビジネスエンティティを重複するビジネスエンティティとマージします。マージプロセスによって、マージに含まれるすべてのビジネスエンティティから最も信頼性の高いデータが含まれるビジネスエンティティが作成されます。

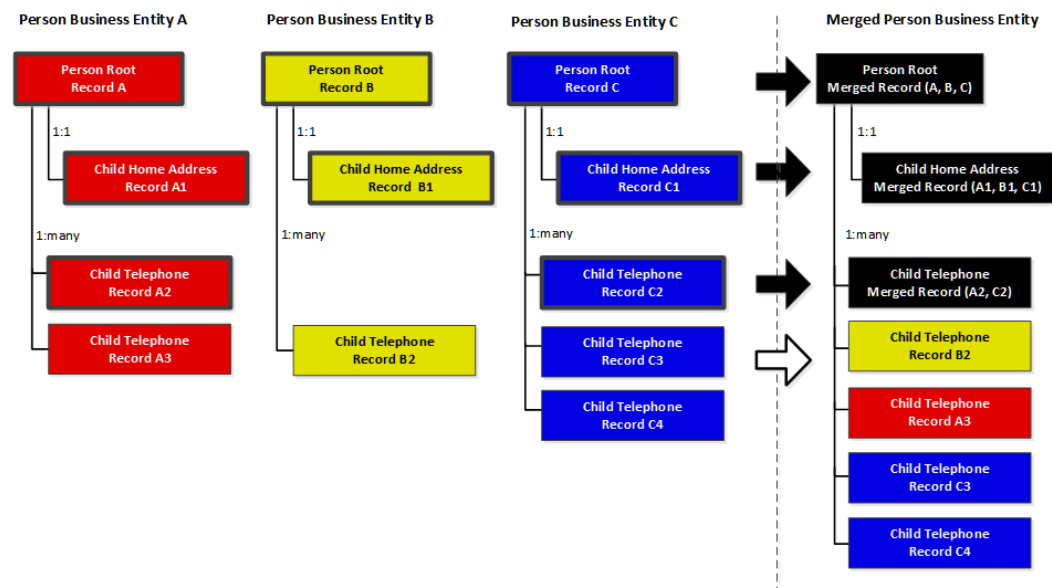
ルートレベルでは、マージプロセスによってビジネスエンティティのルートレコードのデータがマージされます。

子レベルでは、親対子のリレーションが 1 対 1 のリレーションの場合、マージプロセスによって子レコードがマージされます。リレーションが 1 対多のリレーションの場合、[一致するレコード] ビューからマージする子レコードを選択できます。マージに選択されなかったすべてのレコードは、マージされたビジネスエンティティに追加されます。

注: IDD アプリケーション開発者は、ビジネスエンティティの構造を定義するときに親対子のリレーションを定義します。

マージプロセスで子レコードを処理したら、同じマージストラテジを使用して各レベルの子孫レコードをマージしようと試みます。マージプロセスは、1 つのレベルで正常に実行してからでないと次のレベルでマージを試みることができません。

次の図は、3 つのビジネスエンティティでマージプロセスがどのように行われるかを示しています。各エンティティにはルートレコードと 2 つの子レベルのリレーションがあります。



マージされたビジネスエンティティには、マージされたルートレコード、マージされた子レコード、マージされなかったすべてのレコードが含まれます。

重複するビジネスエンティティのシナリオ

保険会社に勤めているとします。Paula Laine という顧客が住宅保険の保険内容を確認するために電話をかけてきました。Laine さんに保険証券番号を尋ね、その保険証券番号を **【検索】** バーに入力します。

検索結果で、その保険証券番号が含まれるビジネスエンティティを選択し、**【ビジネスエンティティ】** ビューで開きます。いくつかの個人情報を確認してから、契約内容に関する Laine さんからの質問に答えます。

質問に答えた後で、他に保険契約を結んでいるか Laine さんに尋ねます。Laine さんから、自分の会社の子会社の自動車保険に加入しているという回答を得ます。その自動車保険の保険証券番号を **【検索】** バーに入力すると、その自動車保険が含まれるビジネスエンティティが返されます。個人データがもう一方のビジネスエンティティのデータに一致することを確認します。

会話を終えた後で、住宅保険が含まれるビジネスエンティティを **【一致するレコード】** ビューで開きます。類似するビジネスエンティティから、自動車保険が含まれるエンティティを選択します。**【プレビュー】** をクリックして、両方の保険が保険証券セクションに表示されることを確認します。さらに、異なるソースレコードから提供された Laine さんのミドルネームや携帯電話番号などのデータにより、マージされたビジネスエンティティがさらに充実したことを確認できます。マージのプレビューがベストバージョンオブトゥールズを表していることを確信したら、マージプロセスを開始します。

重複するビジネスエンティティの解決

【一致するレコード】 ビューを使用して、類似するビジネスエンティティを比較します。重複するレコードを識別するときに、レコードをマージして重複を解決できます。

重複するビジネスエンティティを識別して解決するには、以下のタスクを実行します。

1. **「[重複するビジネスエンティティの識別](#)」 (ページ 46)**

類似するビジネスエンティティの提案を確認し、必要に応じて、一致する可能性があると思われる他のビジネスエンティティを検索します。重複を選択します。

2. **「[重複する子レコードの識別](#)」 (ページ 48)**

重複するビジネスエンティティを選択したら、重複するビジネスエンティティの子レコードと子孫レコードが含まれるように **【ナビゲート】** メニューが更新されます。子レコードを確認します。重複を選択します。

3. **「[重複するビジネスエンティティのマージ](#)」 (ページ 48)**

マージプロセスを開始します。

重複するビジネスエンティティの識別

ターゲットビジネスエンティティのデータを **【一致するレコード】** ビューの類似するビジネスエンティティと比較します。ルートレコードから開始し、**【ナビゲート】** メニューを使用して子レコードとその子孫レコードを開きます。

最初、**【ナビゲート】** メニューにはターゲットビジネスエンティティの構造が反映されています。重複するビジネスエンティティを選択すると、**【マージのプレビュー】** にターゲットおよび重複するビジネスエンティティの

ルートレコードのマージ結果が表示されます。マージのプレビュープロセスは、マージのカスケードルールを子レコードおよび子孫レコードに適用します。[ナビゲート] メニューの構造は、マージされたビジネスエンティティの提案の構造を反映するように変更されます。

1. ビジネスエンティティを開いたままにして、**【一致するレコード】** を選択します。

【一致するレコード】 ビューが開き、ターゲットビジネスエンティティが2番目のカラムに表示されます。最初のカラムには**【マージのプレビュー】** が含まれます。残りのカラムには、ターゲットビジネスエンティティのレコードに関連付けられた一致ルールを満たすビジネスエンティティが含まれます。グリッドの行ラベルはルートレコードのカラム名に対応しています。

2. 必要に応じて、特定の一致ルールを満たしたビジネスエンティティのみを表示します。

- a. **【フィルタ】** タブをクリックします。
- b. **【一致ルールの指定】** を選択します。
- c. フィールドをクリックし、リストから一致ルールを選択します。

ヒント: リストが空の場合、ターゲットビジネスエンティティのレコードには一致するルールがありません。

3. 一致プロセスで類似するビジネスエンティティが見つからなかった場合、追加できます。

- a. **【追加】** をクリックします。

【検索および選択】 ページが開きます。

- b. 検索するテキストまたは値を入力し、**【検索】** をクリックします。
検索で、検索用語が含まれるすべてのビジネスエンティティが返されます。
- c. 必要に応じて、検索結果を制限するフィルタを選択し、**【フィルタの適用】** をクリックします。
- d. 名前の横にあるプラスアイコンをクリックし、ビジネスエンティティの詳細を展開します。
- e. 追加するビジネスエンティティを選択します。
- f. **【選択】** をクリックします。

ビジネスエンティティが**【一致するレコード】** ビューに表示されます。ビジネスエンティティは、すでにビューに表示されている場合は再度追加されません。

4. すべての類似するビジネスエンティティ間でルートレコードのデータを比較します。

5. 各ビジネスエンティティで表示されるフィールドを必要に応じて変更するには、**【表示】** ボタンをクリックします。

例えば、システムカラムを表示または非表示にできます。

6. ビジネスエンティティがターゲットビジネスエンティティの重複であると判断した場合、そのエンティティのカラムヘッダーでチェックボックスを選択します。複数のビジネスエンティティを選択できます。

【マージのプレビュー】 にルートレコードのマージの結果が表示されます。

7. **【プレビュー】** をクリックします。

ビジネスエンティティのプレビューが開きます。プレビューでは、ターゲットおよび重複するビジネスエンティティに属すレコードのマージ結果が表示されます。

8. プレビューを閉じるには、**【戻る】** をクリックします。

【一致するレコード】 ビューに戻ります。

重複する子レコードの識別

重複するビジネスエンティティのマージをプレビューしたら、**【一致するレコード】** ビューで子レコードおよび子孫レコードを確認します。ターゲットビジネスエンティティのレコードをターゲットレコードとして選択します。1つ以上の重複レコードを選択し、ターゲットレコードとマージできます。

注: 子レコードを操作するときに、ビジネスエンティティが重複ではなかったことを示すデータが見つかる場合があります。**【概要】** 画面に戻り、そのビジネスエンティティのチェックボックスをクリアします。マージのプレビュープロセスにより、**【マージのプレビュー】** が再生成されます。マージのプレビュープロセスでは、残りのビジネスエンティティのレコード間で作成した手動マージは保持されます。手動マージに削除されたビジネスエンティティのレコードが含まれている場合、これらのレコードは手動マージから削除されます。

1. **【ナビゲート】** タブで、ノードを展開してターゲットビジネスエンティティから子レコードを選択します。

グリッドが変更されます。2番目のカラムには、選択した子レコードが表示されます。これがターゲットレコードとなります。残りのカラムには子孫レコードが表示されます。

ヒント: 保留中を示すアイコンがターゲットレコードのカラムヘッダーに表示される場合、レコードは保留状態であり、マージプロセスに参加できません。別のレコードをターゲットレコードとして選択します。

例えば、ターゲットビジネスエンティティに複数の電話番号があり、そのすべての電話番号が重複するビジネスエンティティに属している場合もあります。

2. ターゲットレコードの重複である子孫レコードがある場合、カラムヘッダーでチェックボックスを選択します。複数のレコードを選択できます。

ヒント: 保留中を示すアイコンがチェックボックスの代わりに表示される場合、レコードは保留状態であり、マージ用に選択できません。

【マージのプレビュー】 カラムに、ターゲットレコードを重複するレコードとマージした結果が表示されます。

3. 残りの子レコードでこのプロセスを繰り返します。必要に応じて、子孫レコードで同じプロセスを実行することもできます。
4. **【マージ】** をクリックします。
5. **【重複をマージ】** ダイアログボックスで、マージを確認します。
手動マージ要求は内部変更リストに保存されます。

重複するビジネスエンティティのマージ

【一致するレコード】 ビューで手動マージのために重複する子レコードおよび子孫レコードを選択したら、マージプロセスを開始します。

1. **【ナビゲート】** タブで、**【概要】** をクリックします。
ビューにルートレコードが表示されます。
2. 必要に応じて、マージされたビジネスエンティティの提案をプレビューします。
 - a. **【プレビュー】** をクリックします。
 - b. マージされたエンティティの提案を確認します。**【プレビュー】** は**【ビジネスエンティティ】** ビューとほぼ同じです。
 - c. **【戻る】** をクリックします。
3. **【マージ】** をクリックします。

ユーザーロールに基づいて、以下のいずれかのアクションが起こります。

- ユーザーロールで確認なしのビジネスエンティティのマージが許可されている場合、マージプロセスによって選択したビジネスエンティティでレコードがマージされます。マージされたレコードはアクティブ状態になります。
 - ユーザーロールでレビュープロセスが必要な場合、マージプロセスによってマージ確認ワークフローが開始されます。マージに参加するレコードはアクティブ状態のままですが、マージが発生するのはマージプロポーザルが承認された後のみです。
4. 必要に応じて、信頼スコアに基づいて選択された値を上書きできます。
 - a. レコードをマージした後、[表示] リストから **【相互参照レコード】** を選択します。
 - b. 最も正確であると思われるフィールド値を選択するか、または値を手動で入力します。
 - c. **【保存】** をクリックします。

関連項目：

- [「ベストバージョンオブトゥルースの確立」](#) (ページ 52)
- [「マージプロセス」](#) (ページ 45)
- [「重複するビジネスエンティティの識別」](#) (ページ 46)

1つのビジネスエンティティでの重複するレコードの解決

1つのビジネスエンティティ内で重複するレコードを探すには、**【一致するレコード】** ビューでそのビジネスエンティティを開きます。他のビジネスエンティティは選択しないでください。

1. ビジネスエンティティを開いたまま、[表示] リストから **【一致するレコード】** を選択します。
グリッドで、2 番目のカラムには選択したビジネスエンティティが含まれます。このシナリオでは、類似するビジネスエンティティは無視します。
2. **【ナビゲート】** タブで、ノードを展開してビジネスエンティティから子レコードを選択します。
グリッドが変更されます。2 番目のカラムには、選択した子レコードが表示されます。これがターゲットレコードとなります。残りのカラムには子孫レコードが表示されます（子孫レコードがある場合）。
3. ターゲットレコードの重複である子孫レコードがある場合、カラムヘッダーでチェックボックスを選択します。複数のレコードを選択できます。
【マージのプレビュー】 カラムに、ターゲットレコードを重複するレコードとマージした結果が表示されます。マージ要求は内部変更リストに保存されます。
4. 残りの子レコードでこのプロセスを繰り返します。必要に応じて、子孫レコードで同じプロセスを実行することもできます。
5. **【ナビゲート】** タブで、**【概要】** をクリックしてルートレコードに戻ります。
6. **【マージ】** をクリックし、マージを確認します。
マージプロセスは、子孫レコードの手動マージ要求を実装します。ユーザーロールに基づいて、以下のいずれかのアクションが起こります。
 - ユーザーロールで確認なしのビジネスエンティティのマージが許可されている場合、マージプロセスによってレコードがマージされます。マージされたレコードはアクティブ状態になります。

- ユーザーロールでレビュープロセスが必要な場合、マージプロセスによってマージ確認ワークフローが開始されます。マージに参加するレコードはアクティブ状態のままですが、マージが発生するのはマージプロポーザルが承認された後のみです。

第 6 章

ベストバージョンオブトゥルースの確立

この章では、以下の項目について説明します。

- [マスタレコードとベストバージョンオブトゥルース, 51 ページ](#)
- [シナリオ, 51 ページ](#)
- [ベストバージョンオブトゥルースの確立, 52 ページ](#)
- [相互参照レコードのマージ解除, 53 ページ](#)

マスタレコードとベストバージョンオブトゥルース

MDM Hub のマスタレコードではベストバージョンオブトゥルースが保持されます。MDM Hub は複数のソースシステムから最も信頼性の高いデータを各マスタレコードに統合し、ベストバージョンオブトゥルースを確立します。

MDM Hub には相互参照レコードのソースデータが保存されます。**[相互参照レコード]** ビューで、データスチュワードはこれらの相互参照レコードを調べ、どのソースデータをマスタレコードに提供するかを調査できます。次に、データスチュワードはマスタレコードがベストバージョンオブトゥルースを表すように、ソースデータの統合方法を調整できます。

MDM Hub は相互参照レコードのフィールドの信頼スコアを計算します。信頼の計算は、管理者が決めた設定およびルールに基づきます。信頼スコアの計算を規定するルールの設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Configuration Guide*』を参照してください。

シナリオ

データスチュワードが、マスタレコードの顧客データがベストバージョンオブトゥルースを表していない理由を調査するとします。

ある顧客の電話番号が最近 555-5555 に変更されました。この電話番号が含まれた相互参照レコードはないため、データスチュワードはマスタレコードで電話番号フィールドを選択し、正しい電話番号を入力します。

顧客レコードのマスタデータには、ある顧客のミドルネームが「Stacy」と表示されています。実際には、ミドルネームのスペルは「Stacey」です。データスチュワードは、正しいスペルになっている相互参照レコード

があるが、そのレコードがマスタレコードにデータを提供していないことに気づきます。データスチュワードは正しいスペルになっているフィールドをマスタレコードへの提供元として選択します。

Joe Smith のマスタレコードに、実際には Joe Smith ではない顧客の 2 つの相互参照レコードが含まれています。データスチュワードは、Joe Smith のマスタレコードからこれらの一致しない 2 つの相互参照レコードをマージ解除します。マスタレコードがマージ解除された相互参照レコードから作成されます。

ベストバージョンオブトゥルースの確立

データスチュワードは、[相互参照レコード] ビューを使用してマスタレコードの構成を調べることができます。次に、データスチュワードは、マスタレコードが確実にベストバージョンオブトゥルースを表すように調整を行うことができます。

最も信頼性の高いフィールドに最善データが含まれていない場合、データスチュワードは以下のアクションを行い、ベストバージョンオブトゥルースを確立できます。

アクション	説明	方法
正しい値を入力する	相互参照レコードに正しい値が存在しない場合、データスチュワードはマスタレコードに正しい値を入力できます。	[マスタレコード] カラムで不正な値をクリックし、正しい値を入力します。Enter キーを押し、[保存] をクリックします。
正しい提供元フィールドを選択する	信頼スコアが最も高いフィールドにベストバージョンオブトゥルースが含まれていない場合、データスチュワードはマスタレコードにデータを提供する正しいデータが含まれるフィールドを選択できます。	正しいデータが含まれるフィールドをクリックします。[保存] をクリックします。
一致しないソースデータを削除する	相互参照レコードを特定のマスタレコードに関連付けることが適切でない場合、データスチュワードはその相互参照レコードをマージ解除できます。マージ解除した相互参照レコードから新しいマスタレコードが作成されます。	一致しないデータが含まれる相互参照レコードのチェックボックスを選択し、[マージ解除] をクリックします。マージ解除の詳細については、 「相互参照レコードのマージ解除」 (ページ 53) を参照してください。

次の図は、データスチュワードがベストバージョンオブトゥルースを確立する方法を示しています。

The screenshot shows a 'Master Record' view with three columns. The first column is labeled 'Master Record' and has a red circle with the number 1 next to it. The second column is labeled 'SFA' and has a red circle with the number 2 next to it. The third column is labeled 'Admin' and has a red circle with the number 3 next to it. The 'Display Name' field in the 'SFA' column is highlighted with a blue box. The 'Merge' button is highlighted with a blue box.

Field	Master Record	SFA	Admin
Source primary key	35174034284	329	329
Last updated on	2008-08-12 02:15:02	2016-08-29 06:34:37	2016-08-29 06:34:37
Record state	Active	Active	Active
Party Type:	Person	Person	Person
Last Name:	JOSHI	JOSHI	JOSHI
Display Name:	ALOK JOSHI	ALOK JOSHI	ALOK E JOSHI
Middle Name:	Eni		E
Birthdate:	2016-08-05 16:33:35		2016-08-05 16:33:35
First Name:	ALOK	ALOK	ALOK

1. 正しい値を入力する
2. 正しい提供元フィールドを選択する
3. マージ解除する相互参照レコードを選択する

相互参照レコードのマージ解除

相互参照レコードを特定のマスタレコードに関連付けることが適切でない場合、データスチュワードはその相互参照レコードをマージ解除できます。マージ解除した相互参照レコードから新しいマスタレコードが作成されます。

次の図は、5つの相互参照レコードで構成されたマスタレコードから1つの相互参照レコードをマージ解除したときのマージ解除の動作を示しています。



第 7 章

データ変更の調査

この章では、以下の項目について説明します。

- [データ変更の調査の概要, 54 ページ](#)
- [データ変更の調査シナリオ, 54 ページ](#)
- [イベント前後のデータの比較, 55 ページ](#)

データ変更の調査の概要

特定のビジネスエンティティについて、異なる時点でのベストバージョンオブトゥールズを比較することができます。ビジネスエンティティのデータが不適切に変更されたことが疑われる場合、[データ] ワークスペースの【履歴】ビューを使用して、データ変更の原因となったデータイベントを特定することができます。

【履歴】ビューには、ビジネスエンティティの存続期間にわたってデータがどのように変化したが時系列で表示されます。ビジネスエンティティ内に存在した、任意の時点のデータを表示できます。データイベント前後のデータを表示し、イベントによってデータが不適切に変更されていないかどうかを確認します。データイベントとは、編集操作、マージ操作など、ビジネスエンティティのデータを変更する何らかのアクションです。

データ変更の調査シナリオ

ある顧客が、最近メールアドレスを変更したことを報告し、現在の連絡先の詳細が登録されていることを確認したいと考えているとします。この顧客のビジネスエンティティの【履歴】ビューを確認します。

アドレスを変更したのは今年の 10 月だという顧客からの報告に基づいて、その頃に発生したデータイベントを【履歴】ビューに時系列で表示します。その顧客のビジネスエンティティで 10 月に複数のデータイベントが発生したことが確認できます。[メール] 子レコードに移動し、データイベント前後のデータを比較します。その顧客の新しいメールアドレスが追加されたことを確認します。さらに調査を進め、その顧客のミドルネームが追加されたことに気づきます。

イベント前後のデータの比較

【階層】ビューを使用して、マスタデータへの変更を比較します。

1. ビジネスエンティティを開いたまま、【履歴】を選択します。
【履歴】ビューが開きます。ビジネスエンティティへの変更がタイムラインに表示されます。
2. 必要に応じて、フィルタを選択してさまざまなタイプのイベントを表示または非表示にします。
3. 必要に応じて、データイベントをグループ化する時間の単位を選択します。そのためには、【オプション】をクリックして異なるタイムスケールを選択します。例えば、月次タイムスケールを選択するには【M】を選択します。

次の図は、10月でグループ化したデータイベントを示しています。

The screenshot displays the 'History' view for user SMITHJOHN. The left pane shows a timeline of events for October 5, 2016, with one event highlighted in a red box. The right pane shows a comparison table of 'Before' and 'After' data for the selected event.

	Before	After
Consolidation Ind:	4	4
Created by:	admin	admin
Updated By:	admin	admin
Last updated on:	2016-10-05T12:31:40.903-07...	2016-10-05T12:52:04.802...
Last Rowid System:	SYSO	SYSO
Hub State Ind:	1	1
Rowid Object:	140881	140881
Created on:	2016-10-05T12:50:55.819-07...	2016-10-05T12:50:55.819...
Electronic Address:	jsmith@example.com	jxsmith88@example.com

4. 【メール】というラベルが付いたイベントをクリックします。
イベントの詳細パネルには、イベント前後のビジネスエンティティの詳細と、ビジネスエンティティが更新された時刻が表示されます。この例では、メールアドレスが jsmith@example.com から jxsmith88@example.com に変更されています。

5. **[SMITH, JOHN]** というラベルの付いたイベントをクリックします。

次の図は、ビジネスエンティティの表示名が「John Smith」から「John Xavier Smith」に変更されたことを示しています。

SMITH,JOHN View: History

> History

From: 2016-01-01 03:00 To: 2016-10-05 15:52

▼ 2017-01-01 03:00 AM

Oct 5, 2016 3:52:04 PM

Details

Updated by: admin

Oct 5, 2016 3:51:40 PM

Details

Updated by: admin

Oct 5, 2016 3:52:04 PM

Email

Updated by: admin

Oct 5, 2016 3:51:40 PM

Email

Email Oct 5, 2016 Base object event		
	Before	After
Consolidation Ind:	4	4
Created by:	admin	admin
Updated By:	admin	admin
Last updated on:	2016-10-05T12:51:40.903-07...	2016-10-05T12:52:04.802...
Last Rowid System:	SY50	SY50
Hub State Ind:	1	1
Rowid Object:	140881	140881
Created on:	2016-10-05T12:50:55.819-07...	2016-10-05T12:50:55.819...
Electronic Address:	jsmith@example.com	jxsmith@example.com

第 8 章

データ変更イベントでの有効期間の調査

この章では、以下の項目について説明します。

- [有効期間内のデータ変更イベントの調査の概要, 57 ページ](#)
- [データ変更イベントの調査のシナリオ, 57 ページ](#)
- [データ変更イベントの表示, 58 ページ](#)
- [データ変更イベントの追加, 59 ページ](#)
- [データ変更イベントの削除, 59 ページ](#)

有効期間内のデータ変更イベントの調査の概要

データ変更イベントは、著作物のステータス、アドレス、一定期間有効な電話番号などのデータに対する変更です。ビジネスエンティティには複数のデータ変更イベントが含まれる場合があります。【タイムライン】ビューを使用して、ビジネスエンティティのデータ変更イベントを調査します。

データに変更が発生すると、有効期間が新しくなったり、既存または今後の有効期間が更新されたりします。【タイムライン】ビューを使用して、一定期間のデータに対する変更を表示します。また、タイムラインに対してデータ変更イベントの追加と削除を行うこともできます。データ変更イベントを管理するには、【ビジネスエンティティ】ビューまたは【データ】ビューを使用します。

注: 【タイムライン】ビューは、サブジェクト領域モデルからビジネスエンティティモデルにアップグレードした顧客のみ使用できます。タイムラインが MDM Hub ストアのベースオブジェクトで有効な場合、【タイムライン】ビューはベースオブジェクトに属するビジネスエンティティで使用できます。

データ変更イベントの調査のシナリオ

あなたの会社は、Alex Sam の保険を更新し、新しい保険パッケージを Alex Sam に提案したいと考えています。最適なパッケージを提案するには、「Alex Sam」というビジネスエンティティのデータ変更イベントを調査する必要があります。

タイムラインビューで Alex Sam のビジネスエンティティを開きます。Alex Sam のデータ変更イベントを表示する特定時点を指定します。指定した時点までに起こったデータ変更イベントがタイムラインビューに表示されます。データ変更イベントを選択して詳細を表示します。以前、Alex Sam が独身で、Alex Johns と呼ばれ

ていたことがわかります。これで、Alex にもあなたの会社にもメリットをもたらす最適な保険パッケージを提案するための役立つ情報が入手できました。

データ変更イベントの表示

【タイムライン】ビューでビジネスエンティティのデータ変更イベントを表示できます。

1. ビジネスエンティティを開きます。

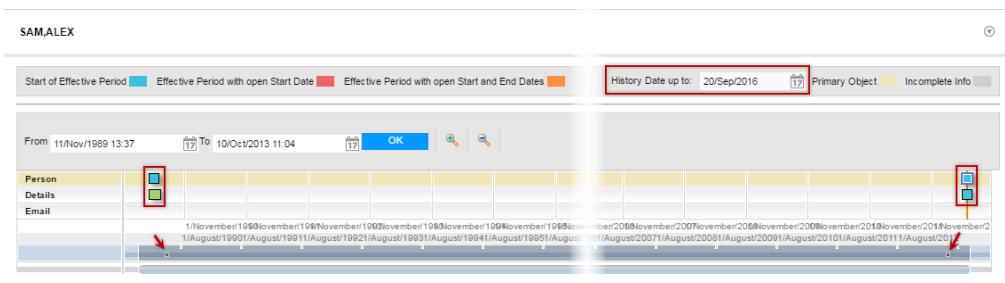
2. [表示] リストで、【タイムライン】をクリックします。

ビジネスエンティティが【タイムライン】ビューで開きます。現在の日付までに発生したビジネスエンティティのデータ変更イベントがビューに表示されます。

3. 必要に応じて、現在の日付以外の特定の時点までに発生したデータ変更イベントを識別するためには、【履歴の日付の最大値】フィールドを使用して日付を選択します。

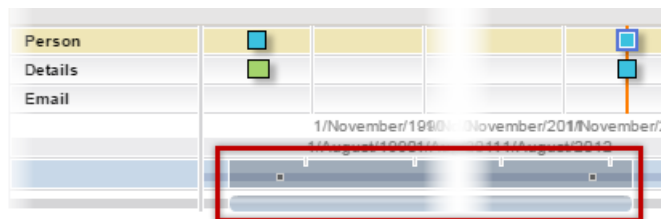
ビジネスエンティティで指定した時点までに発生したデータ変更イベントが表示されます。

次の図は、「Alex Sam」というビジネスエンティティで 2016 年 9 月 20 日までに発生したデータ変更イベントを示しています。



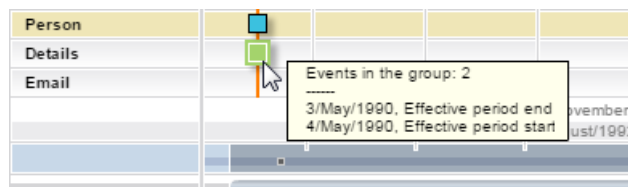
4. タイムラインの中で調査するデータ変更イベントが含まれる部分を表示するには、日付範囲を入力するかスライダを使用します。

次の図は、タイムラインの中でデータ変更イベントが含まれる部分と対応するスライダ調整を示しています。



5. データ変更イベントの詳細を表示するには、四角形の上にポインタを移動します。

次の図は、2 つのデータ変更イベントの詳細を示しています。



6. データ変更イベントを開くには、イベントを右クリックして、[有効日付の詳細を表示] をクリックします。

データ変更イベントがタイムラインの下タブに開きます。データ変更イベントには、指定した有効期間のビジネスエンティティの詳細が含まれます。

次の図は、1990 年 5 月 4 日に有効な Alex のデータ変更イベントを示しています。

SAM,ALEX

Start of Effective Period Effective Period with open Start Date Effective Period with open Start and End Dates History Date up to: 20/54

From: 18/Apr/1990 23:30 To: 24/Dec/1991 14:56 OK

Person Details Email

Effective date: 4/May/1990 00:00:00

JOHNS,ALEX	Names	Telephones	Relationships	Bill address	Ship addresses	Car	Org	Part of PO	Null Rel	Relative
Name Prefix Cd	MISS									
Last Name	JOHNS									
Generation Suffix Cd	X									
Gender Cd	FEMALE									
Preferred Phone										
Float_fld										
Address										
Marital Status	SINGLE									
Birth State										
First Name	ALEX									
Middle Name										
Birthdate	7/Sep/1972									
Tax ID										
Int_fld										
Display Name	ALEX JOHNS									
Bool_fld										
Nickname										
Job Title										
Birth Last Name										
Birth City										
Birth Country Cd										
Birth Postal Cd										

このデータ変更イベントは、Alex Sam が独身で Alex Johns という名前で呼ばれていたことを示しています。

データ変更イベントの追加

子エンティティのデータ変更イベントを [タイムライン] ビューのタイムラインに追加できます。

1. [タイムライン] ビューでビジネスエンティティを開きます。
2. 子エンティティを表示するには、子エンティティタブをクリックします。
子エンティティのデータ変更イベントが表示されます。
3. タイムラインに追加するデータ変更イベントを選択し、[タイムラインへのレコードの追加] をクリックします。
子エンティティのデータ変更イベントがタイムラインに追加されます。

データ変更イベントの削除

子エンティティのデータ変更イベントを [タイムライン] ビューのタイムラインから削除できます。

1. [タイムライン] ビューでビジネスエンティティを開きます。
2. 必要に応じて、現在の日付以外の特定の時点までに発生したデータ変更イベントを識別するためには、[履歴の日付の最大値] フィールドを使用して日付を選択します。
ビジネスエンティティで指定した時点までに発生したデータ変更イベントが表示されます。

3. タイムラインの中で調査するデータ変更イベントが含まれる部分を表示するには、日付範囲を入力するかスライダを使用します。
4. データ変更イベントを削除するには、イベントを右クリックして、**[タイムラインからレコードを削除]** をクリックします。
データ変更イベントがタイムラインから削除されます。

第 9 章

階層とリレーションの調査

この章では、以下の項目について説明します。

- [階層とリレーションの調査の概要, 61 ページ](#)
- [\[階層\] ビューでビジネスエンティティを開く, 61 ページ](#)
- [キャンバスでのエンティティおよびリレーションの表示, 62 ページ](#)
- [関連エンティティの調査, 67 ページ](#)
- [ビジネスエンティティのエンティティおよびリレーションの変更, 70 ページ](#)
- [ビジネスエンティティの \[階層\] ビューの共有, 73 ページ](#)

階層とリレーションの調査の概要

ビジネスエンティティは、他のビジネスエンティティとリレーションを持つことができます。IDD アプリケーションで階層マネージャを有効にすると、ビジネスエンティティが他のビジネスエンティティとどのように関連しているかを示すグラフを表示できます。

[階層] ビューを使用して、リレーションおよび関連するビジネスエンティティを調査します。

[階層] ビューでビジネスエンティティを開く

[階層] ビューを使用して、開いたビジネスエンティティと他のビジネスエンティティ間のリレーションを確認します。

- ▶ **[階層]** ビューでビジネスエンティティを開くには、以下のいずれかのアクションを実行します。
 - **[検索]** タブの検索結果からビジネスエンティティを選択します。**[アクション]** メニューで、**[階層]** をクリックします。
 - 開いているビジネスエンティティを表示するエンティティタブで、ツールバーの **[階層]** をクリックします。
 - **[データ]** タブの検索結果から 1 つまたは複数のビジネスエンティティを選択し、**[開いている階層]** をクリックします。
 - **[データ]** タブからビジネスエンティティを開き、**[開いている階層]** をクリックします。

[履歴] ビューが開きます。選択したビジネスエンティティと、関連するビジネスエンティティがキャンバスに表示されます。

キャンバスでのエンティティおよびリレーションの表示

階層キャンバスにエンティティおよびリレーションが表示される方法を変更できます。レイアウトの変更、フィルタの作成および適用、関連エンティティの非表示または表示、その他のキャンバスの表示オプションの変更を行うことができます。


レイアウトの選択

さまざまなレイアウトを使用して、ビジネスエンティティのリレーションに関するさまざまな洞察を得ることができます。一部のレイアウトについては、サイズと間隔をカスタマイズできます。

1. キャンバスで **【レイアウト】** タブをクリックします。

【レイアウト】 パネルが開きます。

2. レイアウトアイコンをクリックします。

レイアウト	レイアウト名
	階層。
	ツリー。
	循環。
	分類。
	ネットワーク。
	エクスプローラビュー。

3. **【適用】** をクリックします。

エンティティリレーションが、選択したレイアウトでキャンバスに表示されます。レイアウトをカスタマイズできるユーザーの場合、**【レイアウト】** パネルに 1 つ以上のオプションが表示されます。

4. レイアウトをカスタマイズするには、レイアウトオプションを設定します。

- 値を大きくするには、スライダを右に動かして、**【適用】** をクリックします。
- 値を小さくするには、スライダを左に動かして、**【適用】** をクリックします。
- ネットワークレイアウトでは、影響範囲を表示するかどうかを選択できます。**【影響範囲】** オプションを選択した場合、各エンティティが円で囲まれます。円のサイズは、各エンティティが保持している直接リレーションの数を反映しています。直接リレーションの数が多いほど、円が大きくなります。

エンティティとリレーションのフィルタリング

一連のエンティティとリレーションを表示したり非表示にしたりするには、フィルタを使用します。たとえば、ビューを簡素化して、特定のリレーションに集中できるようにします。

フィルタの定義

キャンバスの下**【フィルタ】** パネルを使用して、キャンバスに適用するフィルタオプションを選択します。

フィルタオプションを有効にするには、オプションのチェックボックスを選択します。フィルタオプションを無効にするには、チェックボックスの選択を解除します。フィルタオプションは複数選択できます。キャンバスのリレーションを明確にするのに必要なだけフィルタオプションを選択できます。論理項では、フィルタがAND 演算子で結合されます。

1. **【階層】** ビューで、キャンバスの下にある**【フィルタ】** タブをクリックします。
【フィルタ】 パネルが開きます。
2. **【階層】** セクションで、1 つ以上のタイプのビジネスエンティティのチェックボックスを選択します。
選択したすべてのタイプのビジネスエンティティにフィルタが反映されます。
3. ビジネスエンティティタイプの名前をクリックします。
選択したビジネスエンティティタイプのリレーションフィルタオプションが右側に表示されます。
Informatica Data Director アプリケーション開発者は、フィルタオプションのリストを定義します。
4. 必要に応じて、エンティティのリレーションフィルタオプションを変更します。
5. 必要に応じて、**【全般】** をクリックして、フィルタの全般オプションを変更します。

オプション	説明
接続されていないエンティティの非表示	選択したビジネスエンティティへのリレーションがないエンティティを非表示にします。
保留中のリレーションを表示	現在確認中のリレーションを表示します。

6. 必要に応じて、**【リレーションの方向】** をクリックして、フィルタの方向オプションを変更します。

オプション	説明
親を表示	選択したビジネスエンティティの親を表示します。
子を表示	選択したビジネスエンティティの子エンティティを表示します。
不明を表示	エンティティ間のリレーションが不明なエンティティを表示します。
方向未設定を表示	リレーションのタイプが指定されていない関連エンティティを表示します。
双方向を表示	リレーションの方向が双方向の関連エンティティを表示します。

7. **【適用】** をクリックします。

アプリケーションによって、選択したフィルタオプションがキャンバスに適用されます。

フィルタの保存

キャンバスに適用したフィルタオプションを再利用することが予想される場合、オプションをフィルタとして保存します。フィルタを保存した後、保存したフィルタを、選択したエンティティをキャンバスに表示するときのデフォルトのフィルタとるように選択できます。

1. **【フィルタ】** パネルで、**【保存済みのフィルタ】** をクリックします。
2. **【フィルタ名】** フィールドに名前を入力します。
3. 他のユーザーとフィルタを共有するには、**【パブリック】** を選択します。
4. **【保存】** をクリックします。
ビューに現在適用されているフィルタオプションが保存されます。
5. 選択したエンティティを使用してこのフィルタを常に適用するには、**【エンティティのデフォルト】** ボタンをクリックします。

保存済みフィルタの適用

保存済みフィルタを適用すると、フィルタで選択したビジネスエンティティのタイプにフィルタが適用されます。

1. **【フィルタ】** パネルで、**【保存済みのフィルタ】** をクリックします。
2. **【フィルタ名】** リストからフィルタを選択します。
選択したフィルタの設定がフィルタオプションに反映されます。
3. **【適用】** をクリックします。
適用されたフィルタの設定がキャンバスに反映されます。

デフォルト階層フィルタの適用

デフォルト階層フィルタを適用すると、選択したビジネスエンティティタイプにフィルタが適用されます。

1. **【フィルタ】** パネルで、**【デフォルト】** をクリックします。
2. **【デフォルト階層】** リストからフィルタを選択します。
選択したフィルタの設定がフィルタオプションに反映されます。
3. **【適用】** をクリックします。
適用されたフィルタの設定がキャンバスに反映されます。

保存済みフィルタの削除

不要になった保存済みフィルタを削除できます。フィルタが公開されている場合、削除する前に同僚と確認します。

1. **【フィルタ】** パネルで、**【保存済みのフィルタ】** をクリックします。
2. **【フィルタ名】** リストからフィルタを選択します。
選択したフィルタの設定がフィルタオプションに反映されます。
3. **【削除】** をクリックします。

キャンバスでのエンティティの非表示と表示の切り替え

選択したエンティティとエンティティリレーションをキャンバスで非表示にしたり、表示にしたりすることができます。エンティティをキャンバスで非表示にしても、プライマリビジネスエンティティへのエンティティリレーションはそのまま残りますが、エンティティリレーションはキャンバスに表示されません。

エンティティを非表示にすると、非表示にしたエンティティに関連する、残りのエンティティが【階層】ビューで更新されます。キャンバスでは、リレーションの合計数のうちの表示されているリレーションの数が関連エンティティに表示され、プラス記号のアイコンが表示されて、一部のリレーションが非表示であることが示されます。リレーションテーブルでは、非表示エンティティを表す行にキャンバスアイコンが表示されません。

次の図は、一部のエンティティが非表示になっているキャンバスとリレーションテーブルです。

直接リレーションと間接リレーションの表示

【階層】ビューには、エンティティ間の直接リレーションと間接リレーションがホップで示されます。ホップとは、エンティティ間のリレーションです。直接リレーションは1ホップで、間接リレーションは2ホップ以上です。例えば、A、B、C、Dというエンティティがある場合、リレーションA-Dは1ホップ、A-B-Dは2ホップ、A-B-C-Dは3ホップです。選択したエンティティに表示されるホップの数を変更できます。

1. キャンバスで、エンティティをクリックします。
【アクション】ボタンが表示されます。
2. 次のいずれかのアクションを実行します。
 - 直接リレーションを表示するには、【アクション】ボタンをクリックし、【取得】 > 【1ホップ】の順にクリックします。
 - 直接リレーションと間接リレーションを表示するには、【アクション】ボタンをクリックし、【取得】 > 【複数のホップ (#)】の順にクリックします。
3. 【複数のホップ (#)】オプションで、表示されるホップの数を変更することもできます。
 - a. 【アクション】ボタンをクリックし、【取得】 > 【設定】の順にクリックします。
 - b. 【複数のホップの表示】ダイアログボックスに、2 - 20 の値を設定します。
 - c. 【実行】をクリックします。
 - d. エンティティボックスで、【アクション】ボタンをクリックします。
【複数のホップ (#)】メニュー項目に、設定した値が表示されます。
 - e. キャンバスに新しいホップ数を適用するには、【取得】 > 【複数のホップ (#)】の順にクリックします。

エンティティの非表示

グラフが複雑である場合は、調査にとって重要でないエンティティを非表示にしてグラフを簡素化できます。エンティティを非表示にすると、エンティティとエンティティリレーションが非表示になります。プライマリビジネスエンティティまたはキャンバスでグラフのアンカーとして機能するエンティティは非表示にできません。

1. キャンバスでエンティティをクリックします。
エンティティの【アクション】ボタンが表示されます。
2. 【アクション】をクリックします。
3. 【非表示】 > 【エンティティの非表示】をクリックします。
キャンバスで、エンティティとエンティティリレーションが非表示になります。

選択したエンティティの非表示

非表示にする、1 つまたは複数のエンティティを選択します。プライマリビジネスエンティティまたはキャンバスでグラフのアンカーとして機能するエンティティは非表示にできません。

1. キャンバスで、**Ctrl** キーを押してエンティティをクリックし、エンティティを選択します。
選択したエンティティが強調表示されます。
2. ツールバーで、**【アクション】** アイコンをクリックしてから **【選択したエンティティの非表示】** をクリックします。
キャンバスで、選択したエンティティおよびエンティティリレーションが非表示になります。

エンティティの子の非表示

選択したエンティティの子を非表示にすることができます。子エンティティになるには、子エンティティの方向のタイプが子になっている必要があります。

1. キャンバスでエンティティをクリックします。
エンティティの **【アクション】** ボタンが表示されます。
2. **【アクション】** をクリックします。
3. **【非表示】** > **【子の非表示】** をクリックします。
キャンバスで、選択したエンティティの子が非表示になります。

非表示のエンティティの表示

キャンバスに、非表示のエンティティとそのエンティティのリレーションを表示できます。

1. キャンバスで、エンティティをクリックします。
2. リレーションテーブルが閉じている場合は、矢印ボタンをクリックしてリレーションテーブルを開きます。
リレーションテーブルに、選択したエンティティに直接関連するエンティティがすべて表示されます。
3. リレーションテーブルで、キャンバスに表示する非表示のエンティティを選択します。
4. 右クリックして、**【キャンバスに追加】** をクリックします。
キャンバスに、エンティティとそのエンティティのリレーションが表示されます。

非表示のエンティティのすべてのリレーションを表示する

エンティティボックスの左下にプラス符号アイコンが表示されているときは、エンティティに非表示のエンティティへのリレーションがあります。非表示のエンティティをすべて表示できます。

- ▶ 非表示のエンティティをすべて表示するには、エンティティボックスの **【表示】** アイコンをクリックします。
キャンバスに、非表示のエンティティとそのエンティティのリレーションが表示されます。

キャンバス内の移動

キャンバスでは、グラフのズームインやズームアウト、グラフ内の移動、グラフの別の部分への高速移動ができます。

- グラフをズームインまたはズームアウトするには、スライダを上下に動かします。

- グラフの隣接する非表示の部分を表示するには、方向矢印を使用して、非表示のエンティティをビューに移動します。
- 大きい階層のグラフをすばやく移動するには、**【ナビゲーション】** タブをクリックし、グラフの別の領域をクリックします。領域がキャンバスに表示されます。

キャンバスオプションの設定

キャンバスを制御するオプションを設定できます。

- キャンバスの高さを高くするには、**【フルスクリーンモード】** アイコンをクリックします。アプリケーションヘッダとワークスペースバーは非表示になっています。
- キャンバスの凡例を表示するには、**【その他】** タブをクリックします。凡例が左に表示されます。
- エンティティ数がしきい値を超えた場合にキャンバス内で簡易グラフィックを使用するには、**【その他】** タブをクリックしてしきい値を設定し、**【適用】** をクリックします。

関連エンティティの調査

選択したビジネスエンティティのリレーションを調査する上で、関連エンティティまたはリレーションの詳細の確認が必要になることがあります。

以下の種類の詳細を表示できます。

- エンティティデータ
- ソースシステムと保留中のレコード
- システムカラム
- リレーションの詳細
- 階層
- 変更の履歴

エンティティデータの表示

エンティティに関する詳しい情報が必要な場合は、エンティティデータを表示できます。例えば、階層によく似たエンティティがある場合、アクションを実行する前に、正しいエンティティを選択していることを確認する必要があります。

1. キャンバスで、エンティティをクリックします。
エンティティの**【アクション】** ボタンが表示されます。
2. **【アクション】** をクリックします。
3. **【表示】** > **【詳細】** の順にクリックします。
4. **【エンティティの詳細】** ウィンドウで、サマリの詳細を確認します。
 - 詳細を見て作業を続行しても問題ないことを確認したら、**【閉じる】** をクリックします。
 - エンティティに関するさらなる情報が必要な場合は、**【詳細】** をクリックします。新しいタブにエンティティが開きます。エンティティに関するすべてのデータを確認し、必要に応じてデータを編集できます。

ソースシステムおよび保留中の変更の表示

選択したエンティティについて提供元のソースシステムや保留中の変更に関する情報を表示できます。

MDM Hub Store には、情報が相互参照 (XREF) レコードとして保存されます。

1. キャンバスで、エンティティをクリックします。
エンティティの [アクション] ボタンが表示されます。
2. [アクション] をクリックします。
3. [表示] > [相互参照] の順にクリックします。
4. [相互参照] ダイアログボックスで、レコードを確認します。
 - 詳細を見て作業を続行しても問題ないことを確認したら、[キャンセル] をクリックします。
 - 変更する必要がある場合は、値を編集して [保存] をクリックします。

システムカラムの表示

データスチュワードが、選択したエンティティのシステムカラムの値を表示したいと思うことがあります。例えば、[行 ID オブジェクト] カラムや [作成者] カラムの値を表示できます。

1. キャンバスで、エンティティをクリックします。
エンティティの [アクション] ボタンが表示されます。
2. [アクション] をクリックします。
3. [表示] > [システムカラム] の順にクリックします。
4. [システムカラム] ウィンドウで、値を確認します。
5. 完了したら、[閉じる] をクリックします。

リレーションの詳細の表示と編集

リレーションに関する詳しい情報が必要な場合は、リレーションタイプなどリレーションの詳細を表示できます。

1. キャンバスで、リレーションの線をクリックします。
リレーションの [アクション] ボタンが表示されます。
2. [アクション] をクリックします。
3. [リレーションの詳細を表示] をクリックします。
4. [リレーションの編集] ダイアログボックスで、リレーションの詳細を確認します。

オプション	説明
図	関連するエンティティの図とリレーションの方向が表示されます。
階層	ビジネスエンティティのタイプ (組織や世帯など)。
リレーションタイプ	エンティティ間に設定可能なリレーションのタイプ (従業員や親類など)。

オプション	説明
リレーションの開始日	リレーションの開始日。過去の日付の場合、リレーションはアクティブになっています。未来の日付の場合、リレーションは指定された日付に開始します。フィールドが空の場合、開始日は設定されていません。
リレーションの終了日	リレーションの終了日。過去の日付の場合、リレーションは終了しており非アクティブです。未来の日付の場合、リレーションは指定された日付に終了します。フィールドが空の場合、リレーションは現在永続的なリレーションと見なされます。
エンティティの切り替え	エンティティの順序を切り替えて、リレーションの方向を変更できます。[エンティティの切り替え] ボタンは、一部のリレーションタイプで有効になっています。
その他のフィールド	一部のリレーションタイプでは、その他のフィールドが表示される場合があります。

5. オプションを編集し、[保存] をクリックしてリレーションの詳細を変更することもできます。

関連エンティティの階層の表示

関連エンティティのリレーションを表示するには、[階層] ビューで関連エンティティを開くことができます。

1. キャンバスで、エンティティをクリックします。
エンティティの [アクション] ボタンが表示されます。
2. [アクション] をクリックします。
3. [新しいタブで開く] をクリックします。
タブが開き、選択したエンティティの階層が表示されます。

リレーションの変更履歴の表示

[階層] ビューに表示されるビジネスエンティティのリレーションの変更経緯を調査できます。

1. ツールバーで、[アクション] アイコンをクリックし、[履歴の表示] をクリックします。
2. [変更履歴] ウィンドウで、タイムラインの下にあるタイムラインスライダを調査の対象期間までドラッグします。タイムラインスライダの端を拡張すると、期間を拡大できます。
ボックスに選択した期間が強調表示されます。
3. タイムラインを右クリックして、[日付の選択] をクリックします。
4. [日付の選択] ダイアログボックスで日付と時刻を選択し、[OK] をクリックします。
タイムラインの比較日にオレンジの線がマークされます。左側のグラフが、選択した日付と時刻に応じたグラフに変更されます。右側のグラフには、引き続きグラフの現在のバージョンが表示されます。
5. タイムラインの [リレーション] 行で、変更ボックスを確認します。
 - 行が空の場合は、変更がありません。
 - 空ではない場合は、変更ボックスにマウスポインタを置いて、変更サマリを確認します。詳細を表示するには、ボックスを右クリックして、[イベントの詳細の表示] をクリックします。[イベントの詳細] ウィンドウで変更を確認し、[閉じる] をクリックします。
6. 調査を終えたら、[閉じる] をクリックします。
[変更履歴] ウィンドウが閉じます。

ビジネスエンティティのエンティティおよびリレーションの変更

【階層】ビューで、選択したビジネスエンティティの関連するエンティティやリレーションを追加、編集、および削除できます。有効日付が設定されている場合、更新内容は選択した有効日付に対して有効となります。

キャンバスへのエンティティの追加

キャンバスにないビジネスエンティティにリレーションを作成するには、ビジネスエンティティを検索し、キャンバスに追加します。

1. ツールバーで、**【キャンバスに追加】** をクリックします。
エンティティタブから【階層】ビューに移動すると、**【スマート検索】** ダイアログボックスが開きます。従来の【データ】タブから【階層】ビューに移動すると、**【検索】** ダイアログボックスが開きます。
2. **【スマート検索】** ダイアログボックスが開いたら、次の手順を実行します。
 - a. 必要に応じて、ビジネスエンティティのタイプを選択します。
 - b. 検索用語を入力します。
 - c. **【検索】** をクリックします。
検索処理で一致が見つかったら、一致するビジネスエンティティが検索結果に表示されます。
 - d. 必要に応じて、フィルタを使用して検索結果を絞り込みます。
 - e. 検索結果にビジネスエンティティが表示されている場合、ビジネスエンティティを選択して **【選択】** をクリックします。
エンティティがキャンバスに表示されます。
3. 従来の **【検索】** ダイアログボックスが開いたら、次の手順を実行します。
 - a. 検索条件を入力します。
 - b. **【検索の実行】** をクリックします。
 - c. 検索結果にビジネスエンティティが表示されている場合、ビジネスエンティティを選択して **【キャンバスに追加】** をクリックします。
エンティティがキャンバスに表示されます。
4. 次の手順で、追加したエンティティとその他のエンティティの間のリレーションを作成します。

リレーションの追加

それぞれのビジネスエンティティタイプにリレーションタイプが存在していれば、関連付けられていない2つのビジネスエンティティ間にリレーションを作成できます。

1. 両方のエンティティがキャンバスに表示されていることを確認します。スライダを使用して、キャンバスをズームアウトしなければならない場合もあります。
2. 一方のエンティティボックスを他方のエンティティボックスの上にドラッグアンドドロップします。

3. **【リレーションの追加】** ダイアログボックスで、次のオプションを設定します。

オプション	説明
図	関連するエンティティの図とリレーションの方向が表示されます。
階層	ビジネスエンティティのタイプ（組織や世帯など）。
リレーションタイプ	エンティティ間に設定可能なリレーションのタイプ（従業員や親類など）。
リレーションの開始日	リレーションの開始日。過去の日付の場合、リレーションはアクティブになっています。未来の日付の場合、リレーションは指定された日付に開始します。フィールドが空の場合、開始日は設定されていません。
リレーションの終了日	リレーションの終了日。過去の日付の場合、リレーションは終了しており非アクティブです。未来の日付の場合、リレーションは指定された日付に終了します。フィールドが空の場合、リレーションは現在永続的なリレーションと見なされます。
エンティティの切り替え	エンティティの順序を切り替えて、リレーションの方向を変更できます。[エンティティの切り替え] ボタンは、一部のリレーションタイプで有効になっています。
その他のフィールド	一部のリレーションタイプでは、その他のフィールドが表示される場合があります。

4. **【保存】** をクリックします。

キャンバスの2つのエンティティ間にリレーションの線が表示されます。リレーションに方向がある場合、線に方向を示す矢印が付きます。

[階層] ビューからのエンティティの編集

【階層】 ビューで関連エンティティを操作中に、データの編集が必要になることがあります。

- キャンバスで、エンティティをクリックします。
エンティティの **【アクション】** ボタンが表示されます。
- 【アクション】** をクリックします。
- 【編集】** > **【エンティティの編集】** をクリックします。
タブが開き、**【データ】** ビューにエンティティが表示されます。
- 必要に応じてデータを編集し、変更を保存します。
- 【階層】** ビューに戻るには、**【階層】** ビューを含むタブをクリックします。

[階層] ビューから重複エンティティを探す

【データ】 タブのみ。 **【階層】** ビューを **【データ】** タブ内から開いた場合、エンティティを選択してマスターデータでエンティティの重複候補を検索できます。

- キャンバスで、エンティティをクリックします。
エンティティの **【アクション】** ボタンが表示されます。
- 【アクション】** をクリックします。
- 【検索】** > **【重複】** をクリックします。

アプリケーションで、類似するビジネスエンティティが検索されます。新しいタブに検索の結果が表示されます。

4. **【階層】** ビューに戻るには、**【階層】** ビューを含むタブをクリックします。

[階層] ビューからのマージの開始

グラフの操作中に、関連エンティティの中に、マージ候補となるエンティティが見つかることがあります。また関連エンティティの調査中に、マージ候補の確認が必要となることもあります。マージ候補が見つかった場合は、**【階層】** ビューからマージを開始できます。

マージ候補は、同じタイプのビジネスエンティティである必要があります。例えば、顧客をマージする場合は、両方のビジネスエンティティのタイプが **[Customer]** である必要があります。

1. 2つのエンティティがグラフに表示されていて、それをマージする必要がある場合は、マージを開始します。
 - a. **【階層】** ビューで、両方のエンティティがキャンバスに表示されることを確認します。スライダを使用して、キャンバスをズームアウトしなければならない場合もあります。
 - b. いずれかのエンティティをクリックします。
 - c. **Alt** キーを押しながら、エンティティを別のエンティティの上にドラッグします。矢印アイコンは、エンティティをマージできることを表します。**[X]** アイコンは、エンティティをマージできないことを表します。
タブが開き、マージ候補が表示されます。ビューには、マージ先エンティティ、ドラッグしたエンティティ、マージのプレビューが含まれます。
2. **【データ】 タブのみ。** 選択したエンティティでマージできる可能性のある候補をマスターデータで検索することもできます。
 - a. キャンバスで、エンティティをクリックします。
エンティティの **[アクション]** ボタンが表示されます。
 - b. **【アクション】** をクリックします。
 - c. **【検索】** > **【マージ候補】** をクリックします。
 - d. **【検索】** ウィンドウで検索条件を入力し、**【検索の実行】** をクリックします。
 - e. 検索結果でマージの候補を選択します。
 - f. **【OK】** をクリックします。
ビューには、エンティティ、選択した候補、マージのプレビューが表示されます。
3. マージのプレビューを確認し、必要に応じて変更を行い、マージを開始します。
4. **【階層】** ビューに戻るには、**【階層】** ビューを含むタブをクリックします。

関連項目：

- [「重複の解決」 \(ページ 44\)](#)

[階層] ビューからのエンティティの削除

【階層】 ビューで関連エンティティを操作中に、エンティティの削除が必要になることがあります。エンティティを削除すると、エンティティはビューから削除され、MDM Hub Store のエンティティレコードに削除マーク

が付きます。削除したエンティティ間のすべてのリレーションと、選択したビジネスエンティティも削除されます。階層を表示しているビジネスエンティティは削除できません。

1. キャンバスで、削除するエンティティをクリックします。
エンティティの「アクション」ボタンが表示されます。
2. 「アクション」をクリックします。
3. 「編集」 > 「エンティティの削除」をクリックします。
エンティティとエンティティリレーションがキャンバスおよびリレーションテーブルから削除されます。
MDM Hub Store のエンティティに削除マークが付きます。

リレーションの削除

エンティティ間のリレーションを削除できます。リレーションはすぐに削除することも、終了日に有効期限が切れるように設定することもできます。

「リレーションの終了日」オプションは、次の場合に使用できます。

- 終了日が空になっている。
- アプリケーションに指定されている現在のソースシステムにリレーションが属している。
- データベースに保持されている相互参照レコードの現在の有効期間が他のソースシステムの有効期間と重複していない。

キャンバスからリレーションを削除します。

1. キャンバスで、リレーションの線をクリックします。
リレーションの「アクション」ボタンが表示されます。
2. 「アクション」をクリックします。
3. リレーションの削除方法を選択します。
 - リレーションを削除して終了日のマークを付けるには、「リレーションの終了日」をクリックします。
確認を求められたら、「はい」をクリックします。選択した有効日付の前の日付に終了日が設定されます。
 - 終了日を追加せずに、選択した有効期間からリレーションを削除するには、「リレーションの削除」をクリックします。
 - すべての有効日付のリレーションを削除するには、「すべてのリレーション期間の削除」をクリックします。

リレーションの線が表示されなくなり、影響を受ける両方のエンティティからリレーションが削除されます。

ビジネスエンティティの「階層」ビューの共有

ビジネスエンティティの「階層」ビューをブックマークまたは画像として共有できます。例えば、Informatica Data Director へのアクセス権があるユーザーとグラフを共有する場合は、ブックマークを共有します。他のユーザーとやりとりする場合は、グラフの画像を作成して、ドキュメントまたはその他のテキストベースのコミュニケーションツールに挿入できます。

[階層] ビューへのブックマークの共有

[データ] タブのみ。ビジネスエンティティの**[階層] ビュー**を他の Informatica Data Director ユーザーと共有する場合、ユーザーにブックマーク URL を送信できます。ユーザーは、Informatica Data Director にログインする必要があります。

ブックマークは完全修飾 URL です。この URL を、電子メール、テキストメッセージ、インスタントメッセージ、ドキュメントなど、テキストベースの任意の通信ツールにコピーすることができます。

1. **[階層] ビュー**でビジネスエンティティを開きます。
2. ツールバーで**[アクション]** アイコンをクリックし、**[ブックマークの表示]** をクリックします。
3. **[ブックマーク URL]** ウィンドウで URL 全体を選択し、右クリックして、**[コピー]** をクリックします。
4. **[閉じる]** をクリックします。
5. コピー先のテキストベースの通信ツールを開き、URL を貼り付けます。

グラフ画像の保存

他のユーザーとグラフを共有する場合、グラフを JPEG 形式でエクスポートできます。これで、画像をレポート内で使用したり、興味のあるユーザーに電子メールで送信したりできます。

エクスポートプロセスでは、ブラウザのデフォルトのダウンロードディレクトリに画像が保存されます。

1. **[階層] ビュー**でビジネスエンティティを開きます。
2. グラフの一部をキャプチャする場合は、グラフのその部分をキャンバスに表示します。
3. ツールバーで**[アクション]** アイコンをクリックし、**[JPEG にエクスポート]** をクリックします。
4. **[グラフのエクスポート]** ダイアログボックスで、キャプチャするグラフのサイズを選択します。
 - グラフの表示されている部分をキャプチャするには、**[ポートの表示]** を選択します。
 - グラフ全体をキャプチャするには、**[フィット]** を選択します。スライダを使用して、画像の幅と高さを変更することもできます。
5. **[エクスポート]** をクリックします。

エクスポートプロセスでは、画像の作成と、ダウンロードディレクトリへの画像の保存が行われます。

第 10 章

確認プロセスへの参加

この章では、以下の項目について説明します。

- [確認プロセスへの参加の概要, 75 ページ](#)
- [タスク通知の受信, 79 ページ](#)
- [タスクの引き受け, 80 ページ](#)
- [タスクの解決, 80 ページ](#)
- [タスクの作業の整理, 85 ページ](#)

確認プロセスへの参加の概要

ビジネスユーザーが Informatica Data Director (IDD) 内のデータを変更すると、その変更により確認プロセスが開始されます。確認プロセスは、変更の確認準備ができた場合にビジネスマネージャとデータスチュワードに通知する自動化されたビジネスプロセスです。

確認プロセスのタイプは、IDD アプリケーション開発者が IDD アプリケーションをどのように設定したかと、デフォルトの確認プロセスが使用されているかによって異なります。デフォルトでは、編集、マージ、マージ解除の確認プロセスは異なります。

編集の確認プロセスの例

経理部スタッフが Informatica Data Director を使用して、サプライヤの銀行取引情報を最新に保っているとします。サプライヤの代表者が経理部のスタッフメンバに連絡し、サプライヤの銀行取引情報を変更するように要求しました。

経理部では、各 IDD ユーザー資格情報に、次のユーザーロールのうちいずれかが含まれます。

- ユーザー: このスタッフメンバには、ビジネスエンティティの追加と変更を行う権限がありますが、その変更が確認プロセスを経てから、マスタデータが更新されます。
- マネージャ: マネージャは一種のビジネスユーザーであり、権限が高くなっています。マネージャは変更を確認しますが、変更を承認することはできません。マネージャは、変更に同意したら、上級マネージャに処理を委ねます。
- SrManager. 上級マネージャは一種のマネージャであり、権限がさらに高くなっています。上級マネージャには、変更を確認して承認する権限があります。

スタッフメンバは、サプライヤの代表者による要求に応じて、サプライヤのデータを編集します。次の手順では、確認プロセスの流れを説明します。

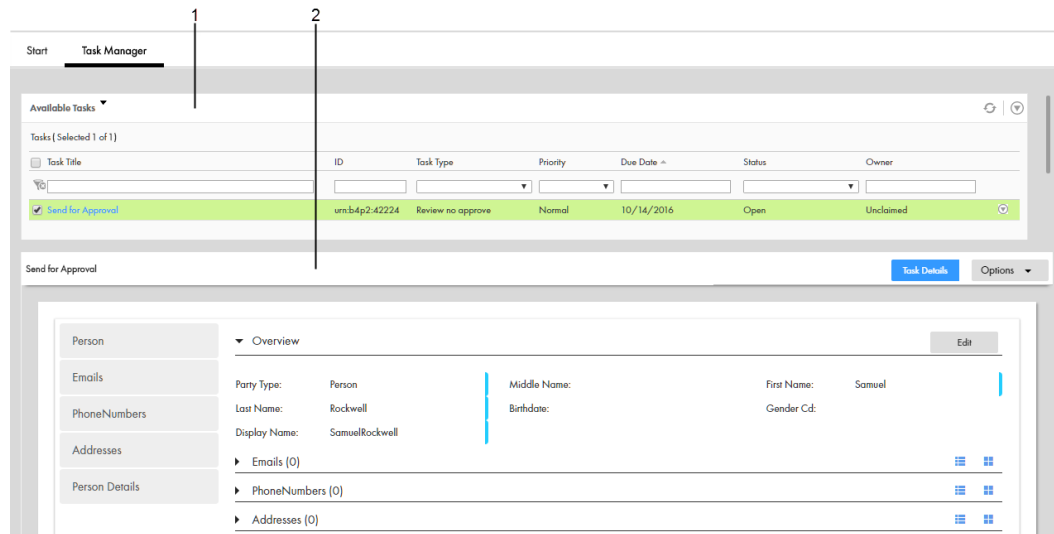
1. スタッフメンバがサプライヤの銀行取引情報を変更し、変更を保存します。MDM Hub Store で、サプライヤレコードの状態が、アクティブから保留に変更されます。提案された編集は相互参照レコードに保存されます。この保存操作により、確認プロセスが開始されます。
2. 確認プロセスのインスタンスが開始され、実行アクティビティが始まります。
3. 確認プロセスが最初のユーザーのアクティビティに達すると、マネージャへのタスク通知が生成されます。たとえば、デフォルトの確認プロセスでは、最初のユーザーのアクティビティが「確認不承認」になります。ロールがマネージャになっている、すべてのマネージャがタスクインボックスでタスク通知を受信します。タスクタイプは「確認不承認」になります。
4. あるマネージャがタスクを要求します。タスクはそのマネージャに割り当てられ、その他のマネージャのタスクインボックスからは消去されます。
5. そのマネージャがサプライヤのビジネスエンティティを開き、編集を確認して同意します。マネージャは「エスカレーション」をクリックして、そのタスクを解決します。
6. 確認プロセスにより、タスクは完了としてマークされ、エスカレーションのフローに従って次のアクティビティに進みます。
7. 確認プロセスが次のユーザーのアクティビティに達すると、プロセスにより、上級マネージャへのタスク通知が生成されます。たとえば、デフォルトの確認プロセスでは、次のユーザーのアクティビティが「最終確認」になります。ロールが SrManager になっている、すべての上級マネージャが、タスクインボックスでタスク通知を受信します。タスクタイプは「最終確認」になります。
8. ある上級マネージャがタスクを要求します。タスクはその上級マネージャに割り当てられ、その他の上級マネージャのタスクインボックスからは消去されます。
9. その上級マネージャがサプライヤのビジネスエンティティを開き、編集を確認して同意します。上級マネージャは「承認」をクリックして、タスクについて決断します。
10. 確認プロセスはタスクを完了としてマークし、承認フローに従います。変更が承認されたことを確認プロセスが MDM Hub に通知し、確認プロセスは終了します。MDM Hub が、サプライヤの銀行取引レコードの銀行取引情報を変更します。サプライヤのレコードはアクティブ状態に変更されます。

タスクマネージャ

【タスクマネージャ】を使用して、確認プロセスで生成されたタスクの整理、要求、解決を行います。

【タスクマネージャ】にアクセスするには、【タスクマネージャ】タブをクリックします。または、【スタート】ページのタスクインボックスで、タスクのリンクをクリックすることもできます。この場合は、【タスクマネージャ】に選択したタスクと関連付けられたビジネスエンティティが表示されます。

次の図は、タスクが選択された【タスクマネージャ】を示しています。

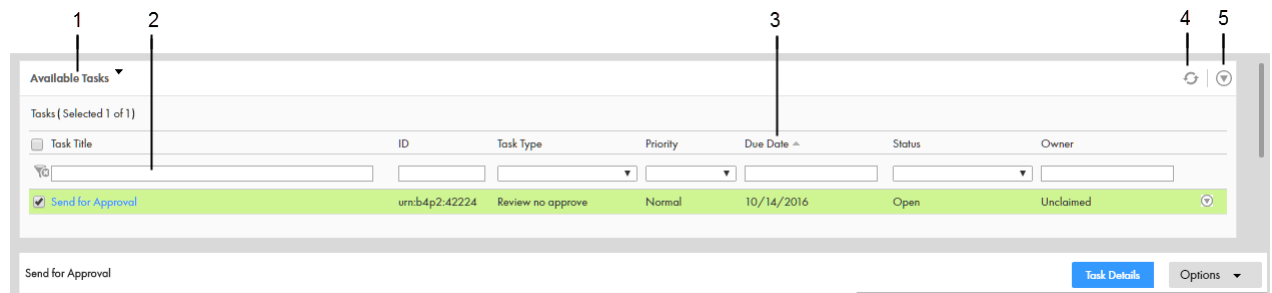


1. タスクインボックス。
2. 確認パネル。

タスクインボックス

タスクは、確認プロセスへの参加を求める要求です。例えば、新しいビジネスエンティティの承認や、ビジネスエンティティに対する変更の確認が必要になる場合があります。タスク通知はタスクインボックスで受信します。デフォルトで、タスクインボックスに使用可能なタスクが表示されます。使用可能なタスクには、ユーザーに割り当てられたタスクと、すべての引き受けが解除されたタスクがあります。

次の図は、タスクインボックスを示しています。



1. クイックフィルタ
2. カラムフィルタ
3. カラムの見出し別にソート
4. [更新] アイコン
5. [アクション] アイコン

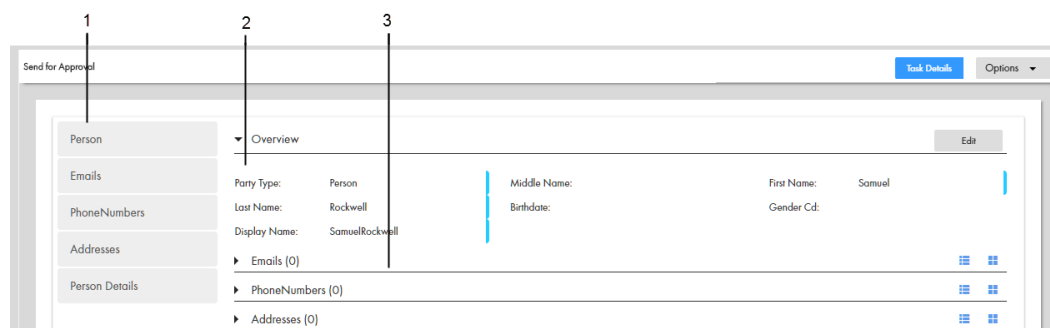
次の表で、タスクインボックスの要素について説明します。

インボックスの要素	説明
フィルタ	次のタイプのフィルタを単独または組み合わせて使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> - クイックフィルタ。自分で要求したタスクのみを表示するには、【マイタスク】を選択します。すべてのタスクを表示するには、【使用可能なタスク】を選択します。 - カラムフィルタ。リストに表示されたタスクのプロパティに基づいてタスクをフィルタします。1度に1つだけカラムフィルタを使用します。
[更新] アイコン	タスクインボックスのコンテンツを更新します。
[アクション] アイコン	選択したタスクに対して実行できるアクションのメニュー。タスクを要求したら、タスクの詳細を編集できます。
タスクのタイトル	確認タスクの簡単な説明を表示するリンク。ビジネスエンティティを確認して、タスクにアクションを実行するには、タスクのタイトルをクリックします。確認パネルにビジネスエンティティが開きます。ロールに権限がある場合は、タスクにアクションを実行する前に、このビューからビジネスエンティティを編集できます。
ID	タスクを生成した確認プロセスのインスタンス ID。
タスクタイプ	プロセス内のユーザーアクティビティの名前。
優先度	タスクの優先度を低、ノーマル、高のいずれかに設定できます。タスクの生成中に、確認プロセスによって同じタイプのすべてのタスクに同じ優先度が割り当てられます。
期限	タスクの期限日。確認プロセスで、タスクの作成日に定義済みの期間を加算してデフォルトの期限が計算されます。
ステータス	タスクのステータスは 【オープン】 または 【終了】 のいずれかになります。タスクのステータスがオープンの場合、タスクに関連付けられているビジネスエンティティを表示できます。
所有者	所有者は、サインイン済みのユーザーです。また、引き受け解除のタスクも表示されます。このタスクは引き受けることができます。

確認パネル

確認パネルを使用して、変更されたビジネスエンティティを確認します。確認パネルの内容は、ビジネスエンティティに加えられた変更のタイプによって変わります。

次の図は、確認パネルの編集されたビジネスエンティティを示しています。



1. ナビゲーションメニュー
2. ビジネスエンティティのルートレコード
3. ビジネスエンティティの子セクション

次の表で、確認パネルについて説明します。

要素	説明
ナビゲーションメニュー	子レコードまたは関連ビジネスエンティティを含むセクション名を表示します。例えば、顧客ビジネスエンティティに、「住所」や「電話番号」といったセクションが設定されていることがあります。セクション名をクリックすると、そのセクションにスクロールします。
ビジネスエンティティのルートレコード	ビジネスエンティティのルートレコードを表示します。例えば、顧客ルートレコードには顧客名が含まれます。
子レコードのセクション	このセクションには子レコードが含まれます。
編集されたフィールド	データが変更されたフィールドには変更バーが表示されます。
【編集】ボタン	ビジネスエンティティを編集する場合は、このボタンをクリックします。
画像	ビジネスエンティティフォームにはオプションで画像を含めることができます。指定した URL に画像が表示されます。画像は常にリンクされています。MDM Hub に画像は保存されません。

タスク通知の受信

タスクは、確認プロセスに参加するための要求です。新しいビジネスエンティティの承認や、ビジネスエンティティに対する変更の確認が必要になる場合があります。タスク通知はタスクインボックスで受信します。作業を整理するにはフィルタが役立ちます。

タスクインボックスは、**【スタート】** ページまたは **【タスクマネージャ】** に表示されます。タスクインボックスには、自分が所有するタスクと、すべての未割り当てタスクが表示されます。未割り当てタスクは、同じユー

ザーロールを持つすべてのユーザーに送信されたタスク通知です。他のユーザーが所有するタスクは表示されません。

関連項目：

- [「タスクマネージャ」](#) (ページ 76)

タスクの引き受け

通常、複数のユーザーが同じレビューロールを共有します。タスクを引き受けることで、タスクを作業していることを他のユーザーに知らせることができます。タスクを引き受ける前に、コメントを確認します。他の誰かがこのタスクの作業を開始して引き受けを解除している場合、コメントに重要な詳細が記載されている可能性があります。

1. **【タスクマネージャ】** をクリックします。
タスクインボックスには、タスクのリストがあります。
2. タスクインボックスの上部にあるクイックフィルタを使用して、タスクインボックスに表示する内容を選択します。
 - 引き受けたタスクを表示するには、クイックフィルタを **【マイタスク】** に設定します。未処理のタスクのみが表示されます。
 - 引き受けたタスクとすべての未割り当てタスクを表示するには、クイックフィルタを **【使用可能なタスク】** に設定します。未解決のタスクおよび終了したタスクが表示されます。
3. **【所有者】** が **【要求なし】** として表示されるタスクを選択します。
確認パネルにビジネスエンティティが表示されます。
4. タスクを引き受ける前にコメントを確認します。
 - a. **【タスクの詳細】** をクリックします。
 - b. **【すべてのコメント】** ボックスのコメントを確認します。
 - c. 完了したら、**【キャンセル】** をクリックします。
5. タスクを自分に割り当てるには、タスクインボックスでタスクが選択されていることを確認し、**【アクション】** メニューから **【タスクの引き受け】** をクリックします。
タスクインボックスが更新され、タスクの **【所有者】** カラムにユーザー名が表示されます。

タスクの解決

タスクを解決するには、新しいビジネスエンティティまたは変更されたビジネスエンティティを確認し、アクションを実行します。可能なアクションは、確認プロセスでのタスクの定義によって決まります。

編集されたビジネスエンティティの確認

編集されたビジネスエンティティを確認するためにタスクを開くと、編集された値が含まれるフィールドがマークされています。

MDM Hub Store では、保留中状態に設定された相互参照レコードに、提案された編集が含まれます。

1. タスクインボックスで、編集されたビジネスエンティティを確認するための要求であるタスクをクリックします。

確認パネルにビジネスエンティティが表示されます。

注: 未割り当てタスクを開く場合は、作業を開始する前にそのタスクを必ず要求します。

2. 強調表示されたフィールドを探し、編集内容が有効かどうかを判断します。
3. 誤植や誤った値が見つかり、正しい値を知っている場合は、フィールドを編集します。

注: 次の手順は、タスクを解決するための十分な情報を持っているかどうか、または他のユーザーからの評価が必要と思われるかどうかによって決まります。

4. タスクを解決するには、**【オプション】** をクリックし、以下のいずれかのアクションを実行します。

アクション	説明
承認	編集内容に同意し、変更の承認がタスクタイプで許可されている場合、 【承認】 をクリックします。ActiveVOS ^(R) サーバーは、関連する最終確認ユーザーアクティビティを完了としてマークし、プロセスにおける次のアクティビティを実行します。
エスカレーション	編集内容に同意しても、ワークフローのこの時点での承認がタスクタイプで許可されていない場合、 【エスカレーション】 をクリックします。ActiveVOS サーバーは、関連する 【承認不承認】 ユーザーアクティビティを完了としてマークし、プロセスにおける次のアクティビティを実行します。
拒否	1 つまたは複数の編集内容に同意しない場合、 【拒否】 をクリックし、 【コメント】 ボックスに説明を入力します。ActiveVOS サーバーは、ビジネスエンティティを編集したユーザーに通知します。 注: ソースシステムで拒否されたエンティティが更新された場合、そのエンティティは再び承認プロセスに送られます。
その他	メニューに他のオプションが表示される場合は、組織でカスタムのビジネスプロセスが使用されていることを示しています。オプションの目的が不明であっても、ActiveVOS コンソールへのアクセスがロールで許可されている場合は、ワークフローを理解するためにプロセスを開くことができます。それ以外の場合は、ビジネスプロセスの作成者に問い合わせてください。

タスクが閉じます。

5. タスクを解決せずにタスクの所有権を変更するには、**【オプション】** をクリックし、以下のいずれかのアクションを選択します。

アクション	説明
再割り当て	提案された変更の確認を別のユーザーに依頼するには、 【再割り当て】 をクリックし、ユーザーを選択して、 【コメント】 ボックスに説明を入力します。タスクは選択したユーザーに再割り当てされます。 注: このオプションが使用できない場合は、 【タスクの詳細】 をクリックし、ユーザーを 【担当者】 リストから選択します。

アクション	説明
引き受け解除	未割り当てタスクのプールにタスクを戻すには、 [引き受け解除] をクリックし、[コメント] ボックスに説明を入力します。同じロールを持つ誰かがタスクに対してアクションを実行する必要があります。

タスクは開いたままですが、拒否したユーザーに割り当てられなくなります。

関連項目：

- [「タスクの引き受け」 \(ページ 80\)](#)
- [「タスクマネージャ」 \(ページ 76\)](#)

新しいビジネスエンティティの確認

新しいビジネスエンティティを確認するためのタスクを開いたら、ビジネスエンティティ内のすべてのフィールド値を検証する必要があります。複数の手順がある段階的な確認プロセスを実行する場合、各レビューは、担当フィールドのみを検証します。

MDM Hub Store では、新しいビジネスエンティティが承認されるまで、親レコードと子レコードは保留状態になっています。

1. タスクインボックスで、新しいビジネスエンティティを確認するための要求であるタスクをクリックします。

確認パネルにビジネスエンティティが表示されます。

注: 未割り当てタスクを開く場合は、作業を開始する前にそのタスクを必ず要求します。

2. ビジネスエンティティの値がビジネス要件を満たすかどうかを確認します。

注: 次の手順は、タスクを解決するための十分な情報があるかどうか、または他のユーザーからの評価が必要であると考えているかどうかによって決まります。

3. タスクを解決するには、**[オプション]** をクリックし、以下のいずれかのアクションを実行します。

アクション	説明
承認	ビジネスエンティティが許容可能であると考えられ、ビジネスエンティティの承認がタスクタイプで許可されている場合は、 [承認] をクリックします。ActiveVOS サーバーは、関連する [最終確認] ユーザーアクティビティを完了としてマークし、プロセスにおける次のアクティビティを実行します。
エスカレーション	ビジネスエンティティが許容可能であると考えられても、ワークフローのこの時点での承認がタスクタイプで許可されていない場合は、 [エスカレーション] をクリックします。ActiveVOS サーバーは、関連する [確認不承認] ユーザーアクティビティを完了としてマークし、プロセスにおける次のアクティビティを実行します。
拒否	1 つまたは複数の値に同意しない場合、 [拒否] をクリックし、[コメント] ボックスに説明を入力します。ActiveVOS サーバーは、ビジネスエンティティを追加したユーザーに通知を送信します。 注: ソースシステムで拒否されたエンティティが更新された場合、そのエンティティは再び承認プロセスに送られます。

アクション	説明
その他	メニューに他のオプションが表示される場合は、組織でカスタムのビジネスプロセスが使用されていることを示しています。オプションの目的が不明であっても、ActiveVOS コンソールへのアクセスがロールで許可されている場合は、ワークフローを理解するためにプロセスを開くことができます。それ以外の場合は、ビジネスプロセスの作成者に問い合わせてください。

タスクが閉じます。

4. タスクを解決せずにタスクの所有権を変更するには、**【オプション】** をクリックし、以下のいずれかのアクションを選択します。

アクション	説明
再割り当て	提案された変更の確認を別のユーザーに依頼するには、 【再割り当て】 をクリックし、ユーザーを選択して、 【コメント】 ボックスに説明を入力します。タスクは選択したユーザーに再割り当てされます。 注: このオプションが使用できない場合は、 【タスクの詳細】 をクリックし、ユーザーを 【担当者】 リストから選択します。
引き受け解除	未割り当てタスクのプールにタスクを戻すには、 【引き受け解除】 をクリックし、 【コメント】 ボックスに説明を入力します。同じロールを持つ誰かがタスクに対してアクションを実行する必要があります。

タスクは開いたままですが、拒否したユーザーに割り当てられなくなります。

関連項目：

- [「タスクの引き受け」 \(ページ 80\)](#)
- [「タスクマネージャ」 \(ページ 76\)](#)

マージプロポーザルの確認

マージプロポーザルを確認するためのタスクを開くと、プライマリビジネスエンティティが、マージ用に選択されたビジネスエンティティの横に表示されます。

1. タスクインボックスで、マージプロポーザルを確認するための要求であるタスクをクリックします。
確認パネルにビジネスエンティティが表示されます。
注: 未割り当てタスクを開く場合は、作業を開始する前にそのタスクを必ず要求します。
2. マージのプレビューを確認し、マージが有効かどうかを判断します。マージのプレビューに表示されたフィールドは強調表示されています。
注: 次の手順は、タスクを解決するための十分な情報を持っているかどうか、または他のユーザーからの評価が必要と思われるかどうかによって決まります。

3. タスクを解決するには、**【オプション】** をクリックし、以下のいずれかのアクションを実行します。

アクション	説明
マージ	マージプロポーザルに同意し、変更の承認がタスクタイプで許可されている場合は、 【マージ】 をクリックします。ActiveVOS サーバーは、関連する 【マージ】 ユーザーアクティビティを完了としてマークし、プロセス内の次のアクティビティを実行します。
拒否	マージプロポーザルに同意しない場合は、 【拒否】 をクリックし、 【コメント】 ボックスに説明を入力します。ActiveVOS サーバーは、マージを提案したユーザーに通知を送信します。
その他	メニューに他のオプションが表示される場合は、組織でカスタムのビジネスプロセスが使用されていることを示しています。オプションの目的が不明であっても、ActiveVOS コンソールへのアクセスがロールで許可されている場合は、ワークフローを理解するためにプロセスを開くことができます。それ以外の場合は、ビジネスプロセスの作成者に問い合わせてください。

タスクが閉じます。

4. タスクを解決せずにタスクの所有権を変更するには、**【オプション】** をクリックし、以下のいずれかのアクションを選択します。

アクション	説明
再割り当て	提案された変更の確認を別のユーザーに依頼するには、 【再割り当て】 をクリックし、ユーザーを選択して、 【コメント】 ボックスに説明を入力します。タスクは選択したユーザーに再割り当てされます。 注: このオプションが使用できない場合は、 【タスクの詳細】 をクリックし、ユーザーを 【担当者】 リストから選択します。
引き受け解除	未割り当てタスクのプールにタスクに戻すには、 【引き受け解除】 をクリックし、 【コメント】 ボックスに説明を入力します。同じロールを持つ誰かがタスクに対してアクションを実行する必要があります。

タスクは開いたままですが、拒否したユーザーに割り当てられなくなります。

関連項目：

- [「タスクの引き受け」 \(ページ 80\)](#)
- [「タスクマネージャ」 \(ページ 76\)](#)

マージ解除プロポーザルの確認

マージ解除プロポーザルを確認するためのタスクを開くと、プレビューにマージ解除の結果が表示されます。

1. タスクインボックスで、マージ解除プロポーザルを確認するための要求であるタスクをクリックします。ビジネスエンティティのマージ解除のプレビューが確認パネルに表示されます。

注: 未割り当てタスクを開く場合は、作業を開始する前にそのタスクを必ず要求します。

2. マージ解除のプレビューを確認し、マージ解除が正当であるかどうかを確認します。プレビューに表示されるフィールドは強調表示されています。

注: 次の手順は、タスクを解決するための十分な情報を持っているかどうか、または他のユーザーからの評価が必要と思われるかどうかによって決まります。

3. タスクを解決するには、**【オプション】** をクリックし、以下のいずれかのアクションを実行します。

アクション	説明
マージ解除	マージ解除プロポーザルに同意し、変更の承認がタスクタイプで許可されている場合は、 【マージ解除】 をクリックします。ActiveVOS サーバーは、関連する 【マージ解除】 ユーザーアクティビティを完了としてマークし、プロセスにおける次のアクティビティを実行します。
拒否	マージ解除プロポーザルに同意しない場合は、 【拒否】 をクリックし、 【コメント】 ボックスに説明を入力します。ActiveVOS サーバーは、マージ解除を提案したユーザーに通知を送信します。
その他	メニューに他のオプションが表示される場合は、組織でカスタムのビジネスプロセスが使用されていることを示しています。オプションの目的が不明であっても、ActiveVOS コンソールへのアクセスがロールで許可されている場合は、ワークフローを理解するためにプロセスを開くことができます。それ以外の場合は、ビジネスプロセスの作成者に問い合わせてください。

タスクが閉じます。

4. タスクを解決せずにタスクの所有権を変更するには、**【オプション】** をクリックし、以下のいずれかのアクションを選択します。

アクション	説明
再割り当て	提案された変更の確認を別のユーザーに依頼するには、 【再割り当て】 をクリックし、ユーザーを選択して、 【コメント】 ボックスに説明を入力します。タスクは選択したユーザーに再割り当てされます。 注: このオプションが使用できない場合は、 【タスクの詳細】 をクリックし、ユーザーを 【担当者】 リストから選択します。
引き受け解除	未割り当てタスクのプールにタスクを戻すには、 【引き受け解除】 をクリックし、 【コメント】 ボックスに説明を入力します。同じロールを持つ誰かがタスクに対してアクションを実行する必要があります。

タスクは開いたままですが、拒否したユーザーに割り当てられなくなります。

関連項目：

- [「タスクの引き受け」 \(ページ 80\)](#)
- [「タスクマネージャ」 \(ページ 76\)](#)

タスクの作業の整理

多数のタスクがある場合は、タスクリストのソートとフィルタリング、タスクプロパティの変更、他のユーザーへのタスクの割り当てを行って、タスクを整理できます。

例えば、優先度が最も高いタスクや、期限が最も迫っているタスクの作業しなければならない場合があります。タスクリストをフィルタすると、優先度を高くする必要があるタスクや、延期可能なタスクを見つけることができます。ビジネス内部の緊急性をより適切に反映するようにタスクプロパティを編集し、タスクを解決することができます。また、タスクをマネージャに割り当てる権限がある場合は、タスクプロパティでタスクをマネージャに割り当てることができます。

関連項目：

- [「タスクマネージャ」 \(ページ 76\)](#)

タスクのソートとフィルタリング

タスクインボックスのタスクのリストをソートおよびフィルタできます。例えば、マージプロポーザルを確認する前に、編集されたビジネスエンティティを確認した場合があります。

タスクインボックスには、クイックフィルタとカラムフィルタがあります。これら2つのタイプのフィルタを組み合わせることで、特定の結果を取得できます。例えば、割り当てられたタスクのうち優先度が高いものを表示するには、**【マイタスク】** クイックフィルタを選択し、**【優先度】** カラムフィルタを**【高】**に設定します。論理項では、フィルタがAND 演算子で結合されます。

注: 1 度に設定できるカラムフィルタは1 つです。例えば、リストを**【組織】** で絞り込んでから、組織のマージタスクのみを表示するようにさらに結果を絞り込むことができます。

1. **【開始】** タブと **【タスクマネージャ】** タブのいずれかをクリックします。

タスクインボックスが表示されます。

2. タスクのリストを属性別にソートするには、その属性名のカラムの見出しをクリックします。

例えば、タスクをタスクタイプ別にソートするには、**【タスクタイプ】** というカラムの見出しをクリックします。

選択したカラムの値に基づいてタスクがソートされます。カラムの見出しの横にある上矢印は、値が昇順にソートされていることを示します。カラムの見出しの横にある下矢印は、値が降順にソートされていることを示します。

注: デフォルトでは、タスクインボックスは、ActiveVOS タスクを大文字と小文字を区別せずにソートします。ソート対象が IDD グローバルプロパティ CompositePagerTotalRecords の値よりも多い場合、大文字と小文字を区別するソートはデータベースに依存します。CompositePagerTotalRecords の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

3. リストをフィルタするには、フィルタ条件を任意の順序で設定します。

- タスクをもっともよく使用される条件でフィルタするには、次のクイックフィルタを選択します。

オプション	説明
マイタスク	自身が所有するタスクが表示されます。
使用可能なタスク	自身が所有するタスクと未割り当てのタスクが表示されます。 注: 他のユーザーに割り当てられているタスクは表示できません。

- カラムの見出しの属性に基づいてタスクリストをフィルタするには、カラムフィルタを1 つ設定します。

注: カラムフィルタフィールドが表示されていない場合は、**【フィルタオン】** をクリックしてフィールドを表示します。

オプション	説明
タスクのタイトル	指定したテキストを含むタスクを表示します。タスクのタイトルに検索するテキストを入力します。

オプション	説明
タイプ	選択したタイプのタスクを表示します。リストから【最終確認】や【マージ】などのタスクタイプを選択します。
優先度	【高】など選択した優先度のタスクを表示します。リストから優先度を選択します。
期限	期限が選択した日付より前のタスク、または期限がその日付までのタスクを表示します。フィールドをクリックして、カレンダーから日付を選択します。
ステータス	【オープン】や【クローズ】など選択したステータスのタスクを表示します。リストからステータスを選択します。
所有者	ユーザーに割り当てられたタスクを表示します。ユーザー名を入力します。

4. フィルタを削除するには、【フィルタのクリア】アイコンをクリックします。

期限、優先度、およびその他のタスクプロパティの編集

タスクを操作中に、一部のタスクプロパティの変更が必要になることがあります。例えば、重要なクライアントのレコードが変更された場合、確認タスクの優先度を上げることができます。または、休暇を予定していて、その前に一連のタスクを完了させたい場合、不在になる前の日付にタスクの期限を変更することもできます。

1. 【タスクマネージャ】をクリックします。
2. タスクインボックスで、編集するタスクをクリックします。
3. 確認パネルで、【タスクの詳細】をクリックします。

次の図は、【タスクの詳細】ダイアログボックスを示しています。

×

Edit Task: Send for Approval

Task Title

Send for Approval

Priority

Normal

Due Date

2017/09/05

Task Type

Final Review

Assign to

Admin

Business Entity

File Attachment

File Name	Creator	Uploaded
Onboarding.pdf	jthomas	Jan 1, 2017
Bank Statment.pdf	ahasdj	

Browse

Upload

Add Comment

Type Comment

All Comments(1)

admin added a comment - 29/Aug/2017 16:10:37

Created task ""Send for Approval""

Save

Cancel

4. 次の1つ以上のフィールドを編集します。

フィールド	説明
タスクのタイトル	タイトルには、少なくともビジネスエンティティ名と、確認の起因となった変更を含めることをお勧めします。意味のあるタイトルを入力します。
優先度	この変更を解決するための事業内の緊急度を反映した優先度を選択します。
期限	変更を解決するための事業内の緊急度を反映した期限を選択します。
担当者	このタスクを他の誰かに再割り当てします。
コメント	タスクプロパティの編集を説明し、タスクに関する質問および回答を追跡するコメントを追加します。

5. **【保存】** をクリックします。

タスクの割り当て

IDD アプリケーションで、再割り当てをサポートしているビジネスプロセス管理（BPM）アダプタを実装している場合、タスクを他のユーザーに割り当てることができます。IDD アプリケーションで使用されている BPM

アダプタで割り当てがサポートされているかどうかを確認する場合、**【タスクの詳細】** ダイアログボックスを開いて、**【担当者】** リストが有効になっているかどうかを確認します。

1. **【タスクマネージャ】** をクリックします。
タスクインボックスには、割り当てられたタスクとすべての未割り当てタスクのリストがあります。
2. タスクインボックスのクイックフィルタが **【使用可能なタスク】** に設定されていることを確認します。
3. タスクリンクをクリックします。
確認パネルにビジネスエンティティが表示されます。
4. **【タスクの詳細】** をクリックします。
5. **【タスクの編集】** ダイアログボックスで、**【すべてのコメント】** ボックスのコメントを確認します。
6. タスクを割り当てるには、**【担当者】** リストからユーザーを選択します。
7. **【保存】** をクリックします。

タスクの引き受け解除

他の誰かが処理した方が良いタスクを引き受けているまたは割り当てられている場合、このタスクの引き受けを解除できます。引き受けが解除されたタスクは未割り当てタスクのプールに返されます。**【タスクマネージャ】** を使用して、タスクの引き受けを解除します。

1. **【タスクマネージャ】** をクリックします。
2. タスクインボックスで、割り当てられたタスクを選択します。
3. 確認パネルで、**オプション > 引き受け解除** をクリックします。

パート I: 従来のビュー

この部には、以下の章があります。

- [データビューでのビジネスエンティティの追加（従来のビュー）, 91 ページ](#)
- [履歴ビューでのデータ変更の調査（従来のビュー）, 94 ページ](#)
- [\[一致\] ビューでのビジネスエンティティのマージ（従来のビュー）, 99 ページ](#)
- [\[XREF\] ビューでのビジネスエンティティのマージ解除（従来のビュー）, 104 ページ](#)
- [\[データ\] タブの検索クエリ（従来のビュー）, 110 ページ](#)
- [\[データ\] タブでのエンティティの操作（従来のビュー）, 121 ページ](#)
- [\[有効期間\] ビュー（従来のビュー）でのタイムラインデータの調査, 128 ページ](#)
- [データのインポート（従来のビュー）, 132 ページ](#)

第 11 章

データビューでのビジネスエンティティの追加（従来のビュー）

この章では、以下の項目について説明します。

- [データビューでのビジネスエンティティの追加の概要, 91 ページ](#)
- [\[データ\] ビューでビジネスエンティティを作成する, 92 ページ](#)

データビューでのビジネスエンティティの追加の概要

バージョン 9.7.x 以前の IDD 用に開発された IDD アプリケーションでは、[データ] ワークスペースでサブジェクト領域モデルが使用されています。これらの従来の IDD アプリケーションの中には、サブジェクト領域モデルに基づいてカスタマイズされているものもあります。この場合、**[データビューで作成]** メニューを使用してビジネスエンティティを追加します。

注: **[データビューで作成]** メニューを使用するには、ユーザーロールに、サブジェクト領域に対する作成権限が含まれている必要があります。

[作成] メニューと **[データビューで作成]** メニューの両方が表示されている場合は、どちらを使用するか IDD アプリケーション開発者に問い合わせてください。**[作成]** メニューでは **[データ]** ワークスペースの代わりに **[エンティティ]** ワークスペースが開きます。

データビューでのビジネスエンティティの追加の例

自分が大手保険会社の保険勧誘員であるとします。新しい顧客、Anthony Lomax さんと電話で話をしています。Lomax さんをデータベースに追加する必要があります。

Anthony Lomax さんを追加するには、次の手順を実行します。

1. 検索を実行して既存のレコードがないか確認します。検索で返される結果はありません。
2. **[データビューで作成]** メニューで、**[マスタデータの作成]** をクリックしてサブジェクト領域として **[Person]** を選択します。
3. **[データ]** ビューで、フォームに Lomax さんの情報を入力します。

[データ] ビューでビジネスエンティティを作成する

サブジェクト領域モデルを使用する Informatica Data Director (IDD) アプリケーションでビジネスエンティティを追加するには、**[データビューで作成]** メニューから開始して、サブジェクト領域を選択します。IDD アプリケーション開発者は、サブジェクト領域と、そのサブジェクト領域に入力する必要があるデータ型を定義します。

1. **[データビューで作成]** メニューから、**[マスタデータの作成]** をクリックし、サブジェクト領域をクリックします。

例えば、保険会社の IDD アプリケーションでは、**[Customer]** サブジェクト領域グループ内に **[Person]** サブジェクト領域を定義します。ビジネスユーザーが、Anthony Lomax を顧客として追加するには、**[データビューで作成]** > **[マスタデータの作成]** > **[顧客]** > **[Person]** をクリックします。

[データ] タブには、データエントリフォームが空の **[新規 Person]** タブがあります。赤いアスタリスクのあるフィールド名は、必須フィールドです。

2. 各必須フィールドで、フィールドをクリックして値を入力します。
3. データがあるオプションの各フィールドで、フィールドをクリックして値を入力します。
4. 必要に応じて、**[image_url]** フィールドにイメージファイルへの URL を入力します。最適な結果を得るには、200 x 200 ピクセル以下の画像をリンクします。


注: MDM Hub は、画像のファイルではなく、画像の URL を保存します。ファイルの場所が変更された場合、URL を更新する必要があります。



次の図は、ビジネスエンティティのデータを示しています。


The screenshot shows the 'New Person' data entry form in Informatica Data Director. The form is divided into sections for personal information, contact details, and employment. The 'Data' tab is selected, and the 'New Person' entity is chosen. The form contains various input fields with labels like 'First Name', 'Last Name', 'Birthdate', etc. Some fields have red asterisks indicating they are required. The 'Image_url' field contains a placeholder URL. The 'Address' field is set to 'SEPARATEC'. The 'Job Title' field is set to 'Manager'. The 'Primary Language' field is set to 'English'. The 'Eff Start Date' is set to '3Jul2015 12:00'.




5. **[適用]** をクリックします。
アプリケーションによってデータが検証されます。エラーがある場合は修正します。
6. **[データ]** ビューの各セクションにデータを追加します。
 - a. **[住所]** や **[電話]** などのセクションを展開します。
 - b. **[追加]** アイコンをクリックします。
 - c. フィールドを入力します。



次の図は、【電話】セクションを示しています。

▼ Telephones 

Required Input Apply  

 This entity has been created but it is not saved!

Phone Country Cd	<input type="text"/>
Phone Number	555-1234
Phone Ext Number	1212
Is Valid Ind	<input checked="" type="checkbox"/> Enable
Eff Start Date	10/Aug/2015 12:00 
Eff End Date	<input type="text"/> 
Do Not Call Ind	<input type="text"/>
Phone Type	HOME 

Record 1 of 1  

- d. 【適用】をクリックします。
7. フィールドの値を変更する必要がある場合、【編集】アイコンをクリックしてフィールドを編集し、【適用】をクリックします。
 8. データの追加が完了したら、データを保存します。
 - 確認なしでデータを保存することが許可されているユーザーロールの場合、【保存】をクリックします。アプリケーションによってビジネスエンティティがMDM Hub Storeのアクティブなレコードに保存されます。
 - それ以外の場合、【承認のために送信】をクリックします。【タスクの作成】ダイアログボックスで、タスクの詳細を確認し、必要に応じて詳細を編集して、【OK】をクリックします。アプリケーションによってビジネスエンティティが保留中のレコードに保存され、確認プロセスが開始されます。

第 12 章

履歴ビューでのデータ変更の調査 (従来のビュー)

この章では、以下の項目について説明します。

- [データ変更の調査の概要, 94 ページ](#)
- [履歴ビューを開く, 95 ページ](#)
- [\[履歴\] ビューにデータイベントを時系列に表示, 95 ページ](#)
- [データイベント前後のデータの比較, 96 ページ](#)

データ変更の調査の概要

特定のビジネスエンティティについて、異なる時点でのベストバージョンオブツールズを比較することができます。ビジネスエンティティのデータが不適切に変更されたことが疑われる場合、[データ] ワークスペースの **[履歴]** ビューを使用して、データ変更の原因となったデータイベントを特定することができます。

[履歴] ビューには、ビジネスエンティティの存続期間にわたってデータがどのように変化したが時系列で表示されます。ビジネスエンティティ内に存在した、任意の時点のデータを表示できます。データイベント前後のデータを表示し、イベントによってデータが不適切に変更されていないかどうかを確認します。データイベントとは、編集操作、マージ操作など、ビジネスエンティティのデータを変更する何らかのアクションです。

データ変更の調査のシナリオ

ある顧客が、最近になって自分の所有ではない不動産物件に対する電気料金請求書が届き始めたと連絡してきたとします。この顧客を表すビジネスエンティティが、不適切に更新されたと思われます。顧客の **[履歴]** ビューを調べて、どのデータイベントが問題の原因になったかを判断します。

間違った請求が届き始めたのは今年の 6 月だという顧客からの報告に基づいて、その頃に発生したデータイベントを **[履歴]** ビューに時系列で表示します。ビジネスエンティティが 6 月にマージされたことが判明しました。マージ前のデータとマージ後のデータを比較します。Joe Smith という顧客のビジネスエンティティが、John Smith という顧客のビジネスエンティティとマージされていました。このビジネスエンティティは、2 人の別々の顧客を表すため、2 つの別個のビジネスエンティティになっている必要があります。

履歴ビューを開く

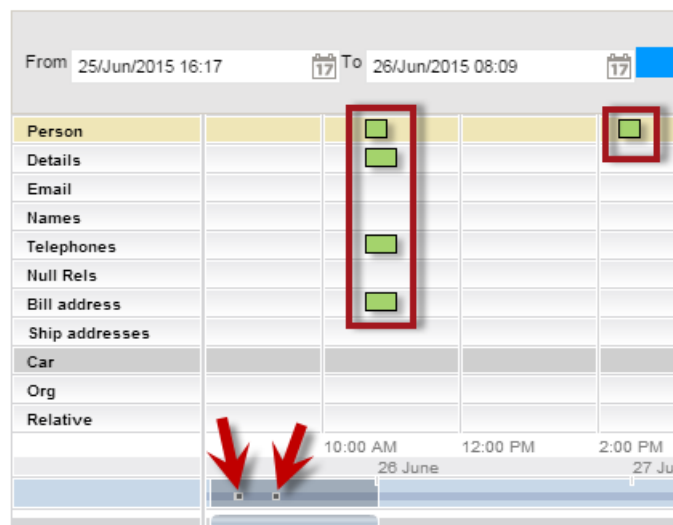
【階層】ビューを使用して、マスタデータへの変更を調査します。

- ▶ 【履歴】ビューでビジネスエンティティを開くには、以下のいずれかのアクションを実行します。
 - 開いたビジネスエンティティを表示するエンティティワークスペースで、ツールバーのリストから【履歴ビュー】を選択します。
 - 【検索】ワークスペースの検索結果からビジネスエンティティを選択します。【アクション】メニューで、【履歴】をクリックします。
 - 【データ】ワークスペースからビジネスエンティティを開き、【履歴】アイコンをクリックします。
- 【履歴】ビューが開きます。ビジネスエンティティへの変更がタイムラインに表示されます。

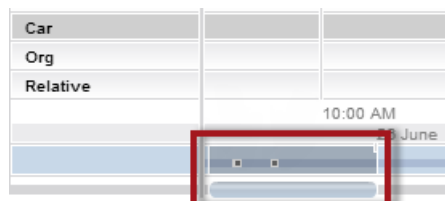
【履歴】ビューにデータイベントを時系列に表示

データイベントが四角で時系列に表示されます。データイベントが発生した時点进行特定し、スライダを使用して時系列の関連する部分をビューに表示します。

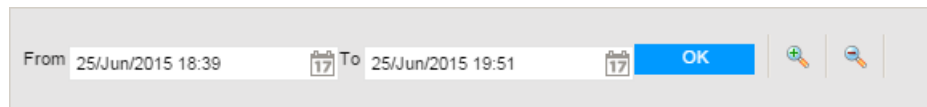
1. ビジネスエンティティの存続期間に生じたデータイベントを特定します。
時系列スライダに、データイベントが黒い四角で表示されます。



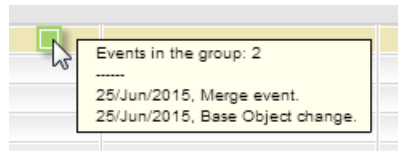
2. スクロールボックスを移動して、調査するデータイベントをビューに表示します。



3. 日付範囲を入力するか、ズームインまたはアウトして、**【履歴】** ビューを適切なタイムスケールに調整します。



4. 四角にマウスポインタを置くと、データイベントの詳細が表示されます。

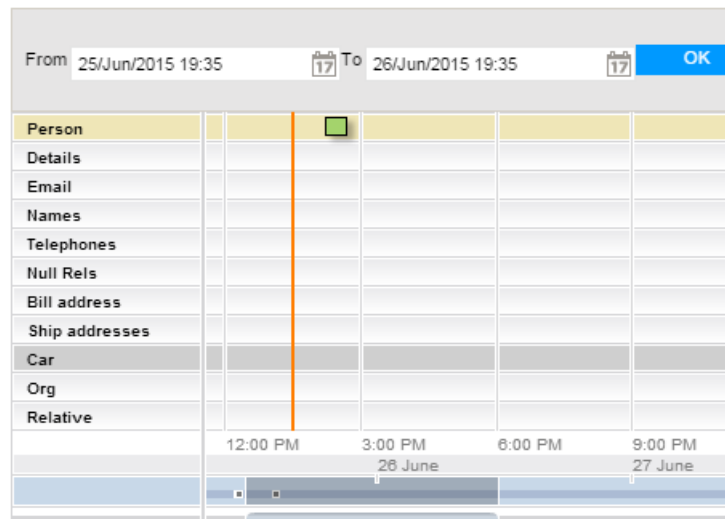


データイベント前後のデータの比較

特定の時点におけるビジネスエンティティのベストバージョンオブトゥールースを表示し、その相違点を比較できます。データイベント前後のデータを表示し、データイベントがビジネスエンティティのデータにどのような影響を与えたのかを確認できます。

1. データイベント前に存在していたデータを表示するには、時系列のポインタをデータイベントの左側に配置し、右クリックして **【エンティティの詳細の表示】** をクリックします。

データを表示している時系列内の位置を示すオレンジ色の線が時系列に表示されます。



2. 時系列の下で、その時点のビジネスエンティティデータを調べます。

ビュー上部の左端にデータの有効日付が表示されます。

History: 25/Jun/2015 21:32.07

SMITH,JOE	Names	Telephones	Relationships	Bill address
Name Prefix Cd	MR	First Name	JOE	
Last Name	SMITH			
Generation Suffix Cd		Birthdate	25/Jun/2015	
Gender Cd		Tax ID		
Preferred Phone	555 (444-4444)	Int_fld		
Float_fld				
Address	10 MILL STREET,	Nickname		
Marital Status	MARRIED	Birth Last Name		

3. データイベント後に存在していたビジネスエンティティのデータを表示するには、データイベントの右側の時系列を右クリックします。[エンティティの詳細の表示] をクリックします。

データを表示している時系列内の位置を示すオレンジ色の線が時系列に表示されます。

From	25/Jun/2015 19:35	To	26/Jun/2015 19:35	OK
Person				
Details				
Email				
Names				
Telephones				
Null Rels				
Bill address				
Ship addresses				
Car				
Org				
Relative				
	12:00 PM	3:00 PM	6:00 PM	9:00 PM
	26 June			
	27 June			

History: 25/Jun/2015 23:20.49

SMITH,JOHN	Names	Telephones	Relationships	Bill address
Name Prefix Cd	MR	First Name	JOHN	
Last Name	SMITH			
Generation Suffix Cd		Birthdate	14/Jun/1962	
Gender Cd	MALE	Tax ID		
Preferred Phone	555 (111-1111)	Int_fld		
Float_fld				
Address	10 MILL STREET,	Nickname		
Marital Status	MARRIED	Birth Last Name		

【履歴】 ビューの時系列の下にその日付のビジネスエンティティデータが表示されます。

4. その時点のビジネスエンティティデータを調べ、データイベント前に存在していたデータとの相違点を記録します。

第 13 章

[一致] ビューでのビジネスエンティティのマージ（従来のビュー）

この章では、以下の項目について説明します。

- [ビジネスエンティティのマージの概要, 99 ページ](#)
- [\[一致マージ比較\] ビューを開く, 100 ページ](#)
- [マージ候補の選択, 101 ページ](#)
- [マージのプレビュー結果のオーバーライド, 102 ページ](#)
- [確認のためのマージプロポーザルの送信, 103 ページ](#)

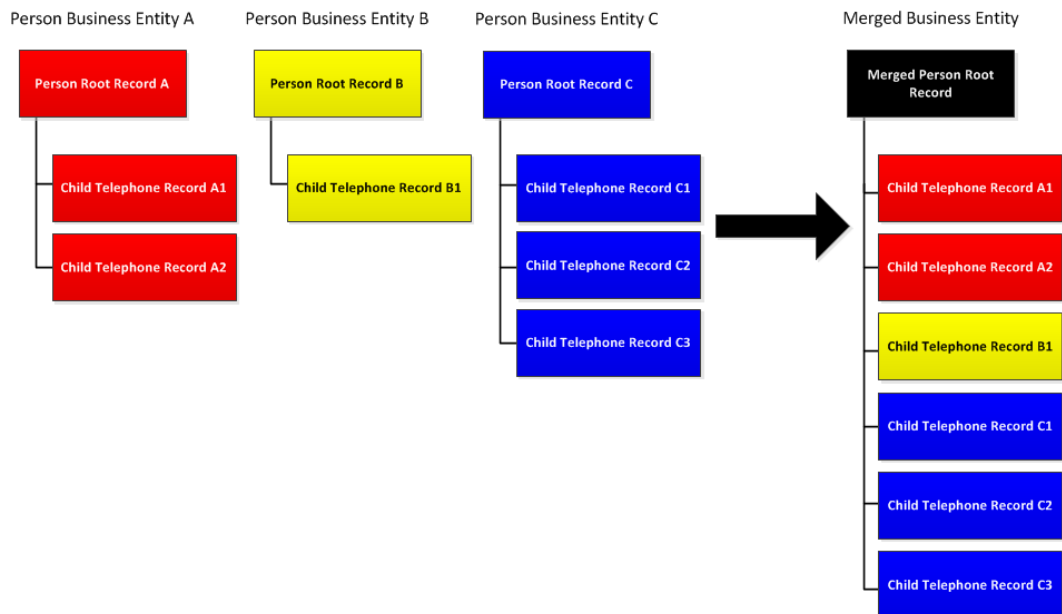
ビジネスエンティティのマージの概要

同じエンティティ（顧客など）のデータが含まれる 2 つ以上のビジネスエンティティを、1 つの統合されたビジネスエンティティにマージできます。マージの結果として生成されたレコードがそのビジネスエンティティのベストバージョンオブトゥールズとなります。

類似したビジネスエンティティをマージする前に、**[一致]** ビューでビジネスエンティティの一致を表示できます。**[一致]** ビューでビジネスエンティティを開くと、SearchMatch API は一致カラムとルールに基づいて、一致するレコードを検索します。IDD アプリケーションは、SearchMatch API が取得した一致するビジネスエンティティと、一致テーブルからの一致するビジネスエンティティを表示します。

ビジネスエンティティをマージすると、ビジネスエンティティのルートレコードが 1 つのルートレコードに統合されます。各ルートレコードの子レコードは、マージされたルートレコードの子レコードになります。

次の図は、ルートレコードと子レコードのマージ結果を示しています。



【一致マージ比較】 ビューからビジネスエンティティを開くことができます。重複の可能性がある類似のビジネスエンティティを表示できます。その後、一致する可能性があるレコードをマージ候補として選択できます。ビジネスエンティティと、選択したマージ候補のマージ結果をプレビューできます。

優先フィールドの値を変更する場合は、優先フィールドを別のレコードから選択するか、フィールドの新しい値を手動で入力します。[マージのプレビュー] カラムの値が最も正確であると確信したら、提案されたマージを送信し、承認を要求することができます。

ビジネスエンティティのマージ例

顧客と電話で話をしているとします。ビジネスエンティティを開くと、同じようなビジネスエンティティがあり、同じ顧客を表している可能性があります。一致する可能性があるものをマージ候補として選択し、マージの結果をプレビューします。

マージのプレビューは正しいようです。ただし、次の値が誤っていることを顧客に確認します。

- ビジネスエンティティには、顧客の生年月日として、1970年6月23日と1970年6月19日の2つが含まれています。Informatica Data Director は1970年6月23日を正しい生年月日として選択していますが、顧客の生年月日は1970年6月19日です。正しい生年月日として、1970年6月19日を手動で選択します。
- 顧客から、ファイルに保存されている名前のスペルが誤っていると指摘されました。名前のマージ結果を無効にして、正しいスペルを手動で入力します。

マージのプレビューがベストバージョンオブトゥールズを表していることを確信したら、提案されたマージを確認用に送信します。

【一致マージ比較】 ビューを開く

【一致マージ比較】 ビューを使用して、類似するデータが含まれるビジネスエンティティを調査します。

- ▶ **【一致マージ比較】** ビューでビジネスエンティティを開くには、次のいずれかのアクションを実行します。

- **[データ]** タブからビジネスエンティティを開き、**[一致]** アイコンをクリックします。
 - **[データ]** タブの検索結果から複数のビジネスエンティティを選択します。**[アクション]** メニューで、**[比較]** をクリックします。
- [一致マージ比較]** ビューが開きます。マージのプレビューにビジネスエンティティの一致候補が表示されます。

マージ候補の選択

[一致マージ比較] ビューを使用して、別のビジネスエンティティと一致する可能性があるビジネスエンティティが Informatica Data Director によって特定されているかどうかを確認できます。その後、潜在的な一致をマージ候補として選択できます。

[一致マージ比較] ビューの左側の列に、比較対象のビジネスエンティティの値が表示されます。潜在的な一致であるすべてのエンティティが現在のビジネスエンティティの右の列に表示されます。マージ候補として選択した任意のエンティティと現在のビジネスエンティティをマージした結果生成されるビジネスエンティティの値がマージのプレビューに表示されます。**[一致マージ比較]** を最初に表示したときに、潜在的な一致はマージ候補として選択されていません。

1. **[一致マージ比較]** ビューで、潜在的な一致の値を確認します。
2. 現在のビジネスエンティティの重複であると判断された各ビジネスエンティティのチェックボックスを選択します。

	JOSHI,ALOK	<input checked="" type="checkbox"/> 1. JOSHI,ALOK Match Score: 100
General	current record	IDL_12
Name Prefix Cd	DR	DR
First Name *	ALOK	ALOK
Middle Name		E
Last Name *	JOSHI	JOSHI

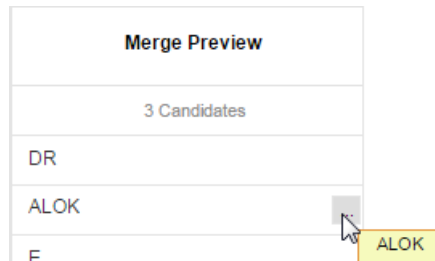
[マージのプレビュー] 列には、マージ候補として選択したエンティティと現在のビジネスエンティティをマージした結果生成されるビジネスエンティティが表示されます。強調表示されたフィールドに、マージされたビジネスエンティティのプレビューデータが表示されます。

	JOSHI,ALOK	<input checked="" type="checkbox"/> 1. JOSHI,ALOK Match Score: 100	<input checked="" type="checkbox"/> 2. JOSHI,ALOK Match Score: 100	<input checked="" type="checkbox"/> 3. JOSHI,ALOK Match Score: 100	Merge Preview
General	current record	IDL_12	IDL_12	IDL_12	3 Candidates
Name Prefix Cd	DR	DR			DR
First Name *	ALOK	ALOK	ALOK	ALOK	ALOK
Middle Name		E			E
Last Name *	JOSHI	JOSHI	JOSHI	JOSHI	JOSHI
Generation Suffix Cd					
Birthdate			19/Jun/2015		19/Jun/2015
Gender Cd	FEMALE	FEMALE	FEMALE		FEMALE
Tax ID					
Display Name	ALOK JOSHI	ALOK JOSHI	ALOK JOSHI	ALOK JOSHI	ALOK JOSHI
Preferred Phone	555 (666-6666)		555 (444-4444)		555 (444-4444)

マージのプレビュー結果のオーバーライド

Informatica Data Director は、フィールドの信頼スコアに基づいて、どのフィールドにベストバージョンオブジェクトが含まれるかを決定します。最高の信頼スコアを持つフィールドが、最も信頼できるとみなされます。MDM Hub コンソールで信頼計算を設定します。値を手動で選択または入力し、信頼計算をオーバーライドできます。

1. [マージのプレビュー] カラムでフィールドの右側にポインタを移動すると、[信頼オーバーライド] ボタンが表示されます。



2. [信頼オーバーライド] ボタンをクリックします。
ダイアログボックスが開きます。ダイアログボックスのタイトルバーにフィールドの名前が表示されます。
3. 最も信頼できる値を選択するには、その値を選択します。

Birthdate		
Select value of Birthdate		
Value	Trust score	Last modified date
<input type="radio"/> 23/Jun/1970	90.00	23/Jun/2015 20:51
<input type="radio"/> 23/Jun/1970	90.00	23/Jun/2015 20:54
<input checked="" type="radio"/> 19/Jun/1970	90.00	23/Jun/2015 20:50
<input type="radio"/> <input type="text" value=""/>		

OK Cancel

4. 新しい値を入力するには、空のフィールドを選択した後、新しい値を入力します。

First Name		
Select value of First Name		
Value	Trust score	Last modified date
<input checked="" type="radio"/> ALOK	32.00	19/Jun/2015 23:53
<input type="radio"/> ALOC	24.00	20/Jun/2015 00:01
<input type="radio"/> ALOK	89.89	20/Jun/2015 00:02
<input type="radio"/> <input type="text" value="ALOAK"/>		

OK Cancel

5. [OK] をクリックします。

選択および入力した値が最も信頼できるとみなされ、マージされたレコードのプレビューに表示されます。

確認のためのマージプロポーザルの送信

【マージのプレビュー】 カラムに表示されるマージ結果に問題がなければ、確認のためにマージプロポーザルを送信できます。

1. 【マージのプレビュー】 カラムの結果に問題がないことを確認します。
2. 【アクション】 メニューから、【マージタスクの作成】 を選択します。
【タスクの作成】 ダイアログボックスが開きます。
3. 【タイトル】 フィールドにマージタスクの意味のあるタイトルを入力します。
例えば、Merge A. Joshi と入力します。

Create Task

Title
Merge A. Joshi

Priority
Normal

Due Date
22/Mar/2018

Type
Merge

Subject Area
Person

Assign To
(Auto assign)

File Attachments

File Name	Attached By	Date Attached
castor.properties	admin	15/Mar/2018

Attach a File

Attach a File

Browse

Add Comments

Consolidating three records.

OK Cancel

4. デフォルトのタスク属性を変更します。
5. 必要に応じて、タスクレビューにコメントまたは添付を追加します。

注: IDD グローバルプロパティがタスクの添付を有効にするように設定されている場合のみ、【ファイル添付】セクションが利用できます。詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Informatica Data Director Implementation Guide*』を参照してください。

6. 【OK】 をクリックします。

マージ確認プロセスが開始されます。

第 14 章

[XREF] ビューでのビジネスエンティティのマージ解除（従来のビュー）

この章では、以下の項目について説明します。

- [ビジネスエンティティのマージ解除の概要, 104 ページ](#)
- [\[XREF\] ビューを開く, 107 ページ](#)
- [確認のためのマージ解除プロポーザルの送信, 108 ページ](#)

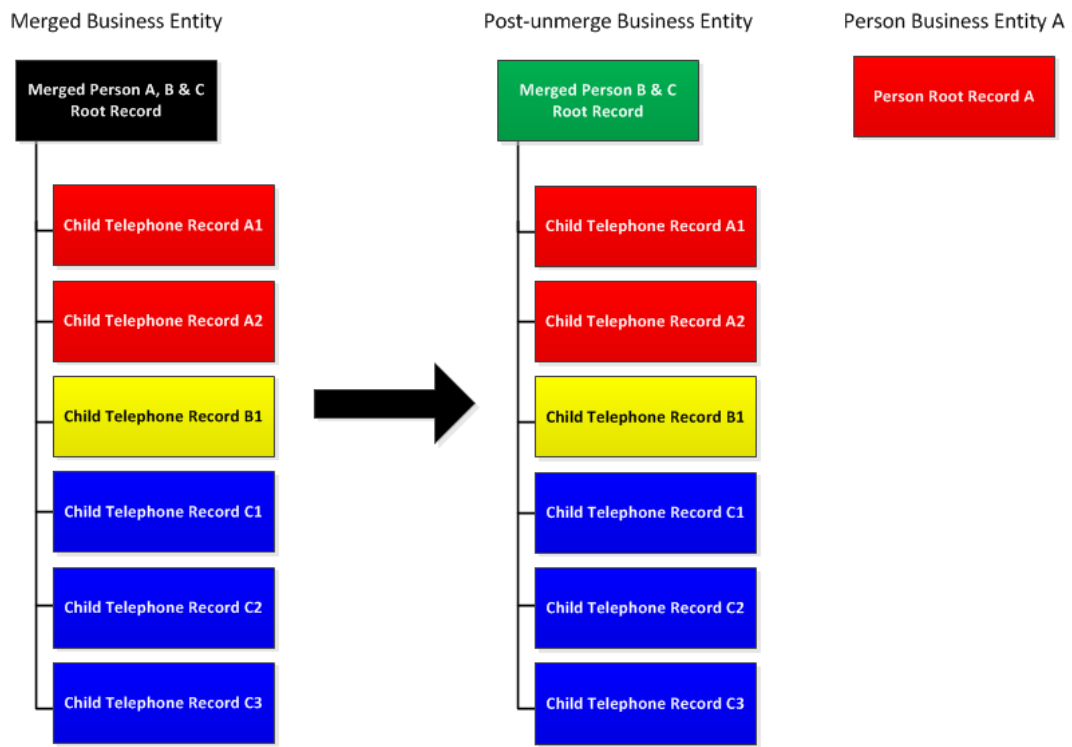
ビジネスエンティティのマージ解除の概要

別のビジネスエンティティとマージしたビジネスエンティティのマージを解除できます。**[XREF]** ビューを使用して、ビジネスエンティティのベストバージョンオブトゥールズの提供元であるレコードを表示できます。ビジネスエンティティとマージすべきではない相互参照レコードを特定する場合に、権限のあるユーザーまたはマージ解除タスクを作成可能なユーザーは、レコードのマージを解除できます。相互参照レコードのみのマージを解除することも、相互参照レコードとリネージュのマージを解除することも可能です。

相互参照レコードのみのマージを解除する場合、マージ解除する相互参照レコードに関連付けられた子レコードは、引き続きマージされたビジネスエンティティに関連付けられます。

次の図は、相互参照レコードのみをマージ解除した結果を示しています。

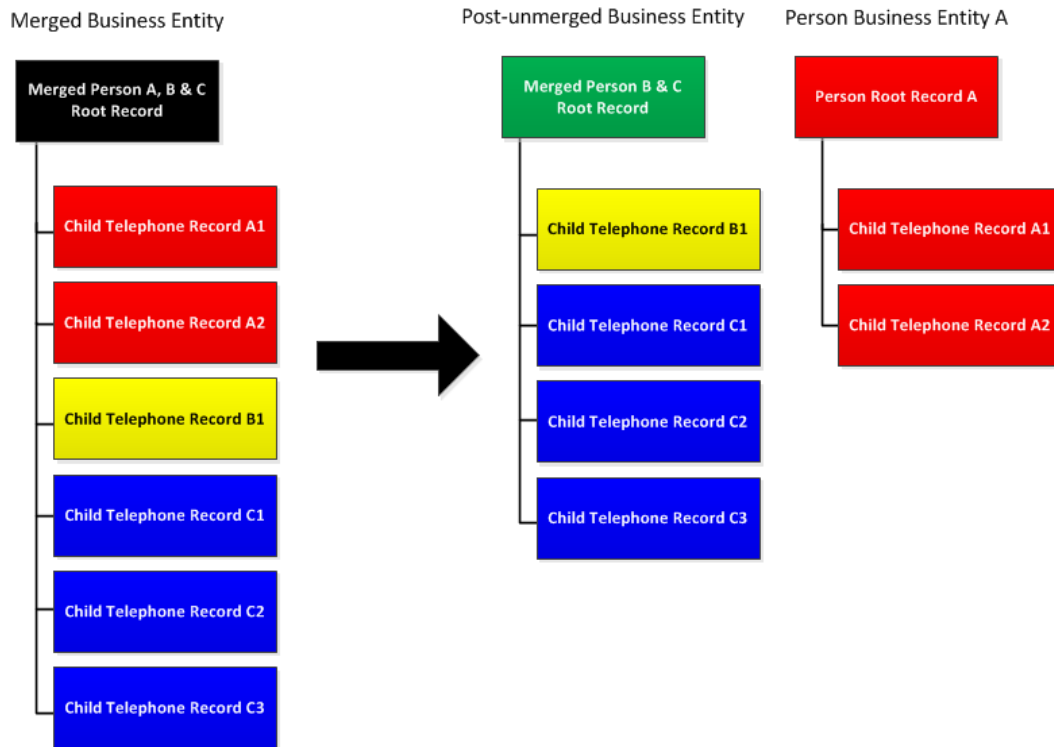
Unmerge Cross-reference Only



相互参照レコードとリネージュのマージを解除する場合も、子レコードは、マージ前と同様に、マージ解除されたレコードに関連付けられています。

次の図は、相互参照とリネージュをマージ解除した結果を示しています。

Unmerge Cross-reference with Lineage



[XREF] ビューでビジネスエンティティのマージを解除できます。相互参照ビューには、ビジネスエンティティのベストバージョンオブトゥールースと、ビジネスエンティティとマージされた相互参照レコードが表示されます。相互参照レコードは、生成元のソースシステム別に体系的に管理されます。強調表示されたフィールドには、ベストバージョンオブトゥールースの提供元の値が示されます。相互参照レコードを選択して、ビジネスエンティティからマージ解除するレコードのマージ解除タスクを作成できます。

次の図に、[XREF] ビューを示します。

SMITH,JOHN

Save Cancel

Data

XREF

History

Matches

SMITH,JOHN Details

Name Prefix Cd: MR, First Name: JOHN, Middle Name: , Last Name: SMITH, Generation Suffix Cd: , Birthdate: 14/Jun/1962, Gender Cd: MALE, Tax ID: , Display Name: JOHN SMITH, Preferred Phone: 555 (111-1111), Int_flg: , Bool_flg: , Float_flg:

Source Systems ☒ Show only records with trusted values ☒ Show pending cross-references Expand All Collapse All

Source System: Admin

Customize Table

PKEY_SRC_OBJECT	Name Prefix	First Name	Last Name	Birthdate	Gender Cd
6616000044000		JOHN	SMITH	14/Jun/1962	MALE
6616000037000	MR	JOE	SMITH	25/Jun/2015	

1. ベストバージョンオブトゥールズ
2. 提供元の相互参照レコード

ビジネスエンティティのマージ解除例

2つのビジネスエンティティを1つのビジネスエンティティにマージすべきではないことに気付きました。マージ操作を元に戻す必要があります。

ビジネスエンティティを [XREF] ビューで表示し、どの相互参照レコードをマージ解除する必要があるかを確認します。ある相互参照レコードは Joe Smith を表し、別の相互参照レコードが John Smith を表しています。子レコードには、Joe Smith に適用される住所の情報が含まれています。マージ解除タスクを作成し、相互参照レコードをリネージュでマージ解除することをタスクの確認者に勧めます。リネージュによるマージ解除により、適切な住所レコードが、マージ解除済みビジネスエンティティと関連付けられます。

[XREF] ビューを開く

[XREF] ビューを使用して、マージされたレコードをマージ解除します。ソースシステムと保留中の相互参照レコードを表示することもできます。

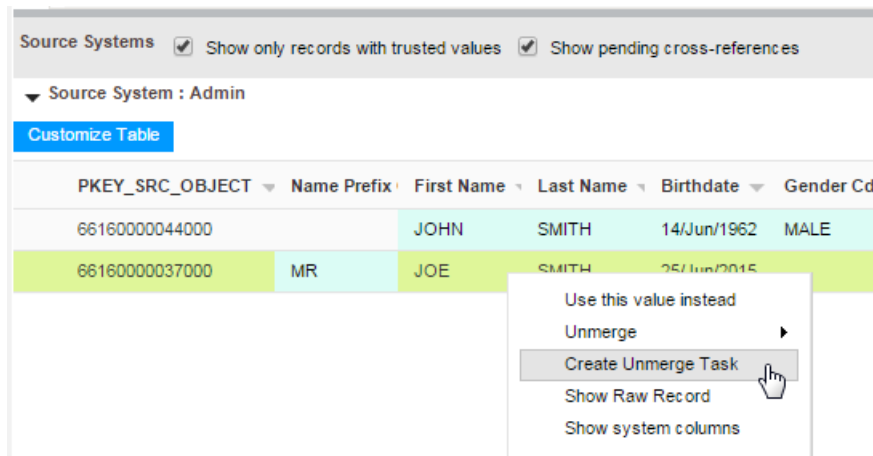
- ▶ [XREF] ビューでビジネスエンティティを開くには、以下のいずれかのアクションを実行します。
 - 開いたビジネスエンティティを表示するエンティティワークスペースで、ツールバーのリストから [XREF ビュー] を選択します。
 - [データ] ワークスペースからビジネスエンティティを開き、[XREF] アイコンをクリックします。

[XREF] ビューが開きます。フィールドには、選択したビジネスエンティティのマスタデータが表示されます。フィールドの下には、ビジネスエンティティに接続されたソースシステムが表示されます。

確認のためのマージ解除プロポーザルの送信

【XREF】ビューを使用して、1つのビジネスエンティティに統合された相互参照レコードを調べます。マージ解除する相互参照レコードを選択できます。

1. 【XREF】ビューでビジネスエンティティを表示します。
2. ビューの下半分で相互参照レコードを調べます。マージ解除する相互参照レコードを特定します。
【詳細】 タブをクリックして、子レコードデータを表示します。
3. 相互参照レコードを右クリックして、【マージ解除タスクの作成】を選択します。



【タスクの作成】 ダイアログボックスが開きます。

4. 【タイトル】 フィールドにマージタスクの意味のあるタイトルを入力します。

例えば、Unmerge Joe Smith from John Smithと入力します。

Create Task [X]

Title
Unmerge Joe Smith from John Smith

Priority
Normal

Due Date
22/Mar/2018

Type
Unmerge

Subject Area
Person

Assign To
(Auto assign)

File Attachments

File Name	Attached By	Date Attached	
castor.properties	admin	15/Mar/2018	

Attach a File
[Text Field] [Browse]

Add Comments
I recommend an unmerge with lineage.

[OK] [Cancel]

5. デフォルトのタスク属性を変更します。

6. 必要に応じて、タスクレビューにコメントまたは添付を追加します。

注: IDD グローバルプロパティがタスクの添付を有効にするように設定されている場合のみ、**【ファイル添付】** セクションが利用できます。詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Informatica Data Director Implementation Guide*』を参照してください。

7. **【OK】** をクリックします。

マージ解除確認プロセスが開始されます。

第 15 章

[データ] タブの検索クエリ（従来のビュー）

この章では、以下の項目について説明します。

- [データタブの検索クエリの概要, 110 ページ](#)
- [検索のタイプ, 110 ページ](#)
- [基本検索クエリと拡張検索クエリ, 111 ページ](#)
- [詳細検索クエリ, 113 ページ](#)
- [検索結果, 116 ページ](#)
- [保存済みの検索クエリ, 117 ページ](#)

データタブの検索クエリの概要

【検索フォーム】を使用して、[データ] タブで検索クエリを実行します。クエリを実行すると、検索タブが開き、検索結果が表示されます。各検索タブには検索クエリ名のラベルが付けられるため、各検索アクションを識別することができます。複数の検索タブを開いて異なるタイプのデータ検索を複数のサブジェクト領域内やサブジェクト領域グループにわたって行うことができます。

検索には、基本、拡張、詳細のいずれかの検索タイプを使用できます。現在の検索条件は、参照しやすいように検索結果の最上部に表示されます。クエリを頻繁に使用する場合、そのクエリをデフォルトのクエリとして設定することを検討してください。環境によっては、個別のサブジェクト領域を対象にした検索のほかに、1つのサブジェクト領域グループに属するすべてのサブジェクト領域を対象に検索することもできます。

検索のタイプ

【データ】 ワークスペースでは、次のタイプの検索を実行できます。

- 基本検索。テキストを検索します。ワイルドカードも使用できます。
- 拡張検索。一致対応属性を検索します。あいまい論理一致をサポートします。
- 詳細検索。クエリ文を使用して検索します。

基本検索

基本検索では、単純なテキスト比較を使用し、指定された検索条件に基づいてデータを取得します。基本検索では大文字と小文字が区別されるため、マスタデータに表示されているように、大文字と小文字を注意して使用する必要があります。大文字と小文字の両方を検索する場合は、ワイルドカード文字を使用することができます。例えば、「%supplies」のように指定します。

注: Microsoft SQL Server の環境では、基本検索で大文字小文字が区別されません。

次のような場合に基本検索を使用することを検討してください。

- 正確な検索対象テキストとワイルドカードパターン（またはルックアップ値）を検索条件として指定することで、信頼性の高い結果が得られる場合。
- 指定可能なすべての属性に対して検索を実行する必要がある場合。

拡張検索

拡張検索では、一致理論と一致対応属性が使用されてエンティティが検索されます。拡張検索では、大文字小文字は区別されません。

次のような場合に、拡張検索の使用を考慮します。

- 基本検索で希望する検索結果を得られなかったので、検索の規模を拡張する場合。
- あいまい論理を使用して検索を実行する場合。スペルのバリエーション、スペルミスの可能性、その他の違いを考慮に入れ、完全には同一でないデータの一致を検出することで、信頼性の高い一致を検出できます。例えば、あいまい論理を使用して、「Street」という単語のバリエーションである "St." を検索できます。

拡張検索を使用する場合は、次の制限事項に注意してください。

- 検索に使用できる属性が少なくなる場合があります。拡張検索の場合、検索に使用できるのは一致対応属性として設定されている属性だけです。[検索] タブでは、一致対応属性以外の属性は選択できません（グレー表示される）。
- [検索] タブで [拡張検索] を選択できない場合（グレー表示されている場合）は、選択したサブジェクト領域またはサブジェクト領域グループに指定できる一致対応属性がありません。
- [検索] タブでは、属性（アスタリスクが付いている）を必ず 1 つ指定する必要があります。

注:

- 結果とパフォーマンスを最適化するには、拡張検索を適切に定義する必要があります。
- 拡張検索を実行するときは、検索済みのクエリのマッチ率を表示できます。マッチ率を使用して、検索済みのクエリと比較した場合の検索結果の類似度を特定できます。マッチ率の最大値は 100 です。

詳細検索

詳細クエリビルダを使用して、複雑なクエリ文を作成します。

基本検索クエリと拡張検索クエリ

基本検索クエリと拡張検索クエリの作成を簡単に切り替えることができます。

基本検索でのワイルドカード

基本検索の検索条件では、特定の文字ではなくテキストのパターンを指定するための特殊な検索記号として、ワイルドカードを使用します。ワイルドカードは、特に、正確なテキストが不明な場合や、よく似たテキストを検索する場合に、目的のデータの検出率を高めるために使用します。

注: ワイルドカードは、基本検索でのみ使用します。拡張検索では、あいまい検索がデフォルトで行われるため、ワイルドカードの使用は必要ありません。

IDD では、以下の 2 種類のワイルドカードを使用できます。

- アスタリスク (*)
- パーセント記号 (%)

この 2 つのワイルドカードの検索時の動作は同じです。この 2 つのワイルドカードは互換性があるため、どちらを使用してもかまいません。

ワイルドカードは、以下の 2 つの方法で使用できます。

ワイルドカードが表すもの	説明
末尾までのすべての文字のプレースホルダ	ワイルドカードの左側にある文字を検索します。ワイルドカードの右側にある文字は何でもかまいません。例えば、名の検索条件として以下を指定したとします。 Mar* または Mar% 次のような検索結果が返されます。 Mary、Mark、Marilyn、Marty
1 文字を示すプレースホルダ	ワイルドカードの位置にある文字が、どのような文字でも検索されます。例えば、名の検索条件として以下を指定したとします。 T*m または T%m 次のような検索結果が返されます。 Tim、Tom

ヒント: 基本検索でワイルドカードを使用する場合には、ワイルドカード文字を必ず正しい位置に挿入します。挿入位置が間違っていると、予期しない検索結果が返される可能性があります。

検索条件の指定

【検索】 タブにクエリを開いたら、探しているデータを表す検索条件を指定できます。

- 必須属性がある場合には、その属性の検索条件を指定する必要があります。必須属性にはアスタリスク (*) が付いています。
- 拡張検索を使用できない場合（グレー表示されている場合）は、選択したサブジェクト領域に、指定できる一致対応属性がないことを示しています。
- 拡張検索を選択した場合、一致対応属性だけを使用できます。使用できない属性はグレー表示されます。使用できない属性を検索条件として指定することはできません。
- 基本検索では、ワイルドカードを使用してテキストのパターンを検索できます。
- 選択した属性がルックアップ（国のリストなど）として設定されている場合は、検索する値のドロップダウンリストが表示されます。

注:

- タイムラインが有効なプライマリオブジェクトの場合、検索条件と有効日付を検索ワークスペースで指定することにより有効日付の検索クエリを実行できます。
- タイムラインが有効なエンティティの検索を実行している場合、有効期間が空だと、検索結果の日付は現在の有効日付またはベースオブジェクトの値に基づきます。
- 検索条件をクリアするには、【アクション】メニューから【リセット】を選択します。ドロップダウンリスト内の選択を取り消すには、DELETE キーまたは BACKSPACE キーを押します。

基本クエリまたは拡張クエリの作成

クエリを作成するには、【検索フォーム】を開きます。

1. 【検索フォーム】を開くには、次のいずれかの操作を実行します。
 - アプリケーションヘッダで、【クエリ】をクリックします。
 - 【データ】タブをクリックします。
2. 【検索フォーム】が表示されていない場合、【検索フォーム】をクリックします。
3. 【アクション】メニューから、基本または拡張クエリの【新規】>【標準】をクリックします。
4. 【クエリビルダ】ウィンドウで、検索範囲に含めるサブジェクト領域またはサブジェクト領域グループを選択します。
5. 【使用可能な属性】リストを展開し、このクエリの検索条件として含める属性を選択します。
アプリケーション開発者が Informatica Data Director をどのように設定したかに基いて、相互参照データやその他のサブジェクト領域のような、選択したサブジェクト領域やサブジェクト領域グループの外にあるデータを検索できます。
6. 【追加された属性】リストでは、一連の属性を並べ替えて、検索クエリ画面に表示する属性の順序を指定することができます。
7. 可能な場合は、ソートの基準となる属性を選択して、昇順または降順のソート順を指定します。
8. 【OK】をクリックします。
クエリが【検索】タブに表示されます。
9. クエリを再度使用するには、その他のクエリを作成または開く前に該当のクエリを保存します。

詳細検索クエリ

詳細クエリビルダを使用して、自由形式のクエリテキストを使用して複雑なクエリを作成します。詳細検索の機能を使用することで、標準（基本または拡張）クエリよりも詳細に検索条件を指定できます。詳細検索条件は、クエリの SQL WHERE 句で使用されます。

詳細検索では SQL 構文を使用し、次のものがサポートされます。

- 論理演算子 - AND/OR/NOT
- EXIST、NOT EXISTS、COUNT 条件
- 比較演算子による範囲比較 (=、>、<、>=、<=、BETWEEN)

クエリ構文は必ず検証するようにします。無効な構文のクエリは保存できません。

論理演算子

検索クエリに複数の条件を含める場合、論理演算子を使用します。

次の表に、使用可能な演算子と各演算子の例を示します。

演算子	説明	例
AND	2つの条件式を評価し、以下の戻り値を返す。 <ul style="list-style-type: none">- 両方の条件が真の場合は TRUE を返す。- 両方の条件が偽の場合は FALSE を返す。- それ以外の場合は UNKNOWN を返す。	<code>MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_ADDRESS CITY_NAME = 'New York' AND COLUMN.C_PARTY ORGANIZATION_NAME = 'Informatica LLC'</code>
OR	2つの条件式を評価し、以下の戻り値を返す。 <ul style="list-style-type: none">- 両方の条件が真の場合は TRUE を返す。- 両方の条件が偽の場合は FALSE を返す。- それ以外の場合は UNKNOWN を返す。	<code>MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_ADDRESS CITY_NAME = 'London' OR MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_ADDRESS CITY_NAME = 'Paris'</code>
NOT	この演算子の後に続く条件式を否定する。 <ul style="list-style-type: none">- 指定した条件が偽の場合に、TRUE を返す。- 指定した条件が真の場合に、FALSE を返す。- 不明な場合は、UNKNOWN のままになる。	<code>MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_ADDRESS COUNTRY_CODE = 'USA' and NOT MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_ADDRESS CITY_NAME = 'Los Angeles'</code>

条件演算子

サポートされている条件に基づいて検索結果を絞り込む場合、条件演算子を使用します。

次の表に、使用可能な演算子と各演算子の例を示します。

演算子	説明	例
EXISTS	少なくとも1つの行が、サブクエリ内に指定された条件に一致する場合、TRUE を返します。NOT EXISTS も有効な演算子です。	<code>EXISTS(C_MT_PERSON_DETAILS, MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_PERSON_DETAILS BIRTH_CITY = 'NEW YORK')</code>
COUNT	指定された条件に一致する行の数を返します。	<code>COUNT(C_MT_ADDRESS, MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_PARTY_ADDRESS_REL ADDRESS_TYPE = 'Shipping')</code>

比較演算子

検索する属性値に基づいて検索結果を絞り込む場合、比較演算子を使用します。

次の表に、使用可能な演算子と各演算子の例を示します。

演算子	説明	例
=	等しい	<code>MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_CUSTOMER ACCOUNT_CD = '123456879'</code>
>	より大きい	<code>MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_ADDRESS POSTAL_CD > 42000</code>
<	より小さい	<code>MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_ADDRESS POSTAL_CD < 30000</code>

演算子	説明	例
>=	以上	MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_CUSTOMER SALES >= 1000000
<=	以下	MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_CUSTOMER SALES <= 1000000
BETWEEN	2つの値の範囲内にあるもの (2つの値自体も含む)	MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_ADDRESS POSTAL_CD BETWEEN 94000 AND 96000

詳細検索クエリの日付構文

クエリに日付システムカラムが含まれる場合は、期待するクエリ結果が確実に得られるように、正しい構文を使用する必要があります。

日付システムカラム（CREATE_DATE カラムなど）にはすべて、ミリ秒の粒度が設定されています。比較演算子 '=' をクエリに使用する場合は、日付をミリ秒の粒度に指定する必要があります。

例えば、以下のクエリはミリ秒の粒度で日付を指定していないため、2013 年 8 月 23 日に作成されたレコードの結果を返しません。

```
Person.CREATE_DATE = '23/Aug/2013'
```

ミリ秒の粒度を指定せずに特定の日付のクエリを実行するために、その日付の範囲でクエリを実行できます。

例えば、以下のクエリは 2013 年 8 月 23 日に作成されたレコードを返します。

```
Person.Create Date >= '23/Aug/2013' AND Person.Create Date < '24/Aug/2013'
```

詳細検索クエリの作成

詳細クエリを作成するには、**詳細クエリビルダ**を使用します。

- ヘッダから **【クエリ】** をクリックします。
【データ】 ワークスペースで、新しいタブが開き、**【検索フォーム】** が表示されます。
- 【アクション】** メニューから、**【新規】** > **【詳細】** を選択します。
【詳細クエリビルダ - 新しいクエリ】 ダイアログボックスが開きます。
- 検索するサブジェクト領域を **【サブジェクト領域】** リストから選択します。
- 検索に含める属性を **【使用可能な属性】** フィールドから選択します。
 - 結果に属性の数を含めるには、**【COUNT の挿入】** をクリックします。
 - データが存在しているかどうかを確認するには、**【EXISTS の挿入】** をクリックします。
 選択した属性は **【クエリフィルタ条件】** フィールドに表示されます。
- 必要に応じて、論理演算子、条件演算子、および比較演算子をクエリに追加します。
- 必要に応じて、ソートオプションを **【結果のソート基準】** リストから選択し、昇順または降順のソート順を選択します。
- 必要に応じて、**【大文字と小文字を区別しない】** 検索を有効にします。
- クエリ構文を検証するには、**【クエリの検証】** をクリックします。
 - クエリに構文エラーがある場合、**【クエリ検証エラー】** ダイアログボックスが開き、構文エラーの説明が表示されます。**【閉じる】** をクリックし、すべての構文エラーを修正して、クエリを再検証します。
 - クエリに構文エラーがない場合、クエリが有効であることを示す確認メッセージが表示されます。**【閉じる】** をクリックします。

9. **【OK】** をクリックします。IDD によってクエリが再検証され、構文エラーがないことが確認されます。
IDD で構文エラーが検出されなければ、**【データ】** ワークスペースで **【検索】** タブが開きます。
IDD で構文エラーが検出されると、**【クエリ検証エラー】** ダイアログボックスが開きます。クエリの問題を解決したら、もう一度 **【OK】** をクリックします。
10. **【検索の実行】** をクリックします。
クエリ結果が **【検索】** タブに表示されます。

詳細検索クエリの例

```
COLUMN.C_PARTY|LAST_NAME Like 'H%'
MATCH_PATH_COMPONENT.C_MT_PERSON_DETAILS|REMARKS is not NULL
COLUMN.C_PARTY|GENDER_CD = 'M'
```

検索結果

検索を実行すると、検索結果が検索タブに表示されます。検索結果からビジネスエンティティを開くことができます。検索結果をエクスポートすることもできます。

検索結果からエンティティを開く

エンティティを調査するには、検索結果からエンティティを選択し、**【データ】** タブでエンティティを開くことができます。**【データ】** タブで検索フォームを使用するか、クエリをクリックするか、ヘッダーの検索バーを使用して検索します。

タイムラインが有効化されているエンティティを開く場合、エンティティを表示する有効期間を指定します。**【有効日付】** フィールドのデフォルト値は現在の日付です。**【有効日付】** フィールドを空のままにした場合、すべてのレコードバージョンが開きます。

1. ビジネスエンティティを検索します。
2. 検索結果で、エンティティを選択します。
3. 以下のいずれかのビューでエンティティを開きます。

ビュー	説明
データ	ビジネスエンティティの表示と編集を行うには、 【開く】 をクリックする。
一致	ビジネスエンティティを、重複の可能性があるビジネスエンティティと比較するには、 【アクション】 メニューで 【比較】 をクリックする。
階層	ビジネスエンティティ間のリレーションの図を表示するには、 【開いている階層】 をクリックする。
ビジネスエンティティ	エンティティに関する他の情報ソースのコンテキストでエンティティの表示と編集を行うには、 【エンティティビュー】 をクリックする。

4. 確認のメッセージが表示された場合は、調査の対象期間を指定します。
エンティティがビューで開きます。

関連項目：

- [「重複の解決」 \(ページ 44\)](#)

検索結果のエクスポート

作業環境の構成によっては、すべての検索結果または選択した検索結果を CSV ファイルにエクスポートできません。

- すべての結果をエクスポートするには、[アクション] メニューから [エクスポート] > [すべての結果] をクリックします。
- 結果の一部をエクスポートするには、**Ctrl** キーを押してエンティティをクリックします。[アクション] メニューで、[エクスポート] > [一部の結果] をクリックします。

保存済みの検索クエリ

再利用することが予想される検索クエリは保存することを検討してください。

クエリを実行するには、あらかじめそのクエリを開いておき、検索フォームに表示されるようにする必要があります。保存したクエリのリストにあるすべての使用可能なクエリを開くことができます。使用可能なクエリとは、他のユーザーが公開しているクエリと、自分が作成したクエリです。

クエリのカラムの読み取り特権、サブジェクト領域の読み取り特権、サブジェクト領域のコンフィギュレーションマネージャツールで検索パッケージとして構成されているパッケージの読み取り特権が必要です。

検索クエリの保存

クエリを保存して再度使用できるようにするには、該当のクエリをクエリビルダに保存します。クエリを保存した場合、Informatica Data Director は保存したユーザーをクエリの所有者と認識します。

1. [検索] タブで、[アクション] メニューから [保存] を選択します。別の名前を付けて保存する場合は、代わりに [名前を付けて保存] をクリックします。
2. [保存] ウィンドウで、別のクエリ名を指定できます。
3. デフォルトのクエリを作成するかどうかを示します。
4. 環境とロールによっては、このクエリを公開としてマークするオプションが表示されることがあります。公開すると、他のユーザーも使用できるようになります。
5. [保存] をクリックします。

保存済みの検索クエリの実行

保存済みの検索クエリは、[検索フォーム] から実行します。

1. [検索フォーム] の上部で、[保存済みクエリ] を選択します。
2. 保存したクエリを選択するか、デフォルトのクエリを使用します。
3. [クエリを開く] をクリックします。
4. 検索で必要な場合は、フィールドに値を入力します。
5. [検索の実行] をクリックします。
検索結果が表示されます。

保存済みクエリの詳細の表示

作成日や所有者などクエリの詳細を表示できます。

1. **【検索フォーム】** の上部で、**【保存済みクエリ】** を選択します。
2. クエリにマウスポインタを置きます。
ポップアップウィンドウに、クエリに関する情報が示されます。

デフォルトクエリの設定

デフォルトクエリは、**【検索】** タブを開いたときに表示されるクエリです。通常は、デフォルトクエリは、ジョブ内で最も頻繁に使用されると予想されるクエリです。各ユーザーが自分用のデフォルトクエリを設定できます。

デフォルトでは、デフォルトクエリは定義されていません。使用する保存済みクエリを明示的に指定する必要があります。デフォルトクエリは、他にもっと頻繁に使用するクエリがあった場合、後から変更することもできます。

1. **【検索フォーム】** の上部で、**【保存済みクエリ】** を選択します。
2. デフォルトクエリとして指定するクエリを選択します。
3. **【アクション】** メニューから **【デフォルトとして設定】** をクリックします。
クエリ名の表示が太字に変わります。

保存済みクエリの名前の変更

クエリを作成して保存した場合でも、そのクエリの名前を変更できます。

1. **【検索フォーム】** の上部で、**【保存済みクエリ】** を選択します。
2. クエリ名を右クリックし、**【名前の変更】** をクリックします。
3. 別の名前を入力します。
4. **【保存】** をクリックします。

保存済みクエリの編集

作成したクエリを変更するには、そのクエリを編集して変更を保存します。所有者が自分ではないクエリは編集できません。

1. 編集するクエリを開きます。
2. 検索フォームの **【アクション】** メニューから、**【編集】** をクリックします。
3. **【クエリビルダ】** ウィンドウで、必要な変更を行います。
4. **【OK】** をクリックします。
5. 変更を保存します。

保存済みクエリの削除

不要になったクエリは削除することをお勧めします。クエリの作成者でなければクエリを削除できません。

1. **【検索フォーム】** の上部で、**【保存済みクエリ】** を選択します。
2. クエリ名を右クリックし、**【クエリの削除】** をクリックします。

保存済みクエリの共有

クエリをパブリックにしたり、ブックマークリンクを共有したりすることで、クエリを他のユーザーと共有できます。

保存済みクエリをパブリックとしてマーク

Informatica Data Director のユーザーは、保存済みのパブリッククエリを使用できます。パブリッククエリはその所有者のみが変更できます。

1. **【検索フォーム】** で、**【保存済みクエリ】** を選択します。
2. 保存済みクエリを右クリックして、**【パブリック/プライベートとしてマーク】** をクリックします。
3. クエリがパブリックであることを確認するには、クエリにマウスポインタを置きます。ポップアップウィンドウで、**【可視性】** 設定が **【パブリック】** に設定されていることを確認します。

クエリのブックマークの共有

特定のクエリを他のユーザーと共有するには、ブックマークリンクをコピーして、テキストまたは電子メールに貼り付けます。ユーザーがブックマークリンクをたどると、Informatica Data Director が開き、ユーザーにログイン画面が表示され、ブックマークされた検索クエリが表示されます。

1. **【検索フォーム】** で、共有するクエリを開きます。
2. **【アクション】** メニューで **【ブックマークの表示】** をクリックします。
3. ブックマークのリンクをコピーします。リンクを他のユーザーと共有します。
ユーザーはリンクをたどってクエリを表示することができます。

保存済みクエリのエクスポート

Informatica Data Director の設定をある環境から別の環境に移行する場合、保存した検索クエリは移行されません。保存済みクエリを使用する必要がある場合はそれらを移行先の環境にエクスポートすることができます。

1. 検索フォームを開き、**【保存済みクエリ】** を選択します。
2. エクスポートするクエリを右クリックし、**【クエリのエクスポート】** をクリックします。
クエリ XML ファイルはブラウザのデフォルトのダウンロード場所にダウンロードされます。

保存済みクエリのインポート

Informatica Data Director の設定をある環境から別の環境に移行する場合、保存した検索クエリは移行されません。保存済みクエリをソース環境からターゲット環境にインポートできます。

あるクエリが、インポートされるクエリと同じ名前であり同じユーザーによって所有されている場合、インポートプロセスによりそのクエリは上書きされます。あるクエリが、インポートされるクエリと同じ名前であるが別のユーザーによって所有されている公開クエリである場合、インポートプロセスでは、クエリをインポートするユーザーに対して、同じ名前の別バージョンのクエリが作成されます。

クエリにエラーがある場合、インポートプロセスでそのクエリは無視されます。クエリが無視されると、「一部のクエリをインポートできませんでした」というメッセージが表示されます。エラーを確認するには、Hub サーバーのログファイルを確認します。

1. **【検索フォーム】** の上部で、**【保存済みクエリ】** を選択します。
2. **検索フォーム** を右クリックし、**【クエリのインポート】** をクリックします。

3. **【クエリのインポート】** ダイアログボックスで、**【参照】** をクリックします。保存済みクエリを含む XML ファイルを選択します。
4. **【インポート】** をクリックします。

第 16 章

[データ] タブでのエンティティの操作（従来のビュー）

この章では、以下の項目について説明します。

- [\[データ\] タブでのエンティティの操作の概要, 121 ページ](#)
- [検索結果からエンティティを開く, 122 ページ](#)
- [子レコードのフィルタの作成, 123 ページ](#)
- [\[フォーム\] ビューと \[テーブル\] ビューの切り替え, 124 ページ](#)
- [システムカラムの表示, 124 ページ](#)
- [エンティティのコピー, 125 ページ](#)
- [レコードのデータの編集, 125 ページ](#)
- [有効期間の編集, 125 ページ](#)
- [有効期間の追加, 126 ページ](#)
- [タイムラインが有効なエンティティの集計期間の表示, 126 ページ](#)
- [エンティティの調査, 126 ページ](#)
- [エンティティの削除, 127 ページ](#)

[データ] タブでのエンティティの操作の概要

[データ] タブを使用して、ビジネスエンティティを調べます。

[データ] タブの **[データ]** ビューでは、ビジネスエンティティを確認して編集できます。また、左側のナビゲーションアイコンを使用して、ビジネスエンティティの履歴、その相互参照レコード、およびマージ候補を表示できます。

[データ] ビューの **[検索フォーム]** を使用すれば、ビジネスエンティティを検索できます。**[データ]** タブからの検索の詳細については、[「データタブの検索クエリの概要」 \(ページ 110\)](#)を参照してください。

[データ] タブの保留中のレコード

保留中のレコードには、承認が保留中のデータが含まれています。

[データ] タブでは、保留中のレコードは次の方法で処理されます。

- 検索結果では、ビジネスエンティティと保留中のレコードが結果内に表示されます。

- [データ] ビューで、新しく作成した承認が保留中のビジネスエンティティを開くと、ビューに親レコードの保留中のデータとすべての子レコードが表示されます。
- [データ] ビューで、親レコードへの変更が保留中のビジネスエンティティを開くと、ビューには承認済みのデータが表示され、保留中の変更は表示されません。
- [データ] ビューで、子レコードへの変更が保留中のビジネスエンティティを開くと、ビューには承認済みのデータが表示され、保留中の変更は表示されません。
- [データ] ビューで、保留中の新しい子レコードがあるビジネスエンティティを開くと、ビューには保留中の新しい子レコードは表示されません。

検索結果からエンティティを開く

エンティティを調査するには、検索結果からエンティティを選択し、**[データ]** タブでエンティティを開くことができます。**[データ]** タブで検索フォームを使用するか、クエリをクリックするか、ヘッダーの検索バーを使用して検索します。

タイムラインが有効化されているエンティティを開く場合、エンティティを表示する有効期間を指定します。**[有効日付]** フィールドのデフォルト値は現在の日付です。**[有効日付]** フィールドを空のままにした場合、すべてのレコードバージョンが開きます。

1. ビジネスエンティティを検索します。
2. 検索結果で、エンティティを選択します。
3. 以下のいずれかのビューでエンティティを開きます。

ビュー	説明
データ	ビジネスエンティティの表示と編集を行うには、 [開く] をクリックする。
一致	ビジネスエンティティを、重複の可能性があるビジネスエンティティと比較するには、 [アクション] メニューで [比較] をクリックする。
階層	ビジネスエンティティ間のリレーションの図を表示するには、 [開いている階層] をクリックする。
ビジネスエンティティ	エンティティに関する他の情報ソースのコンテキストでエンティティの表示と編集を行うには、 [エンティティビュー] をクリックする。

4. 確認のメッセージが表示された場合は、調査の対象期間を指定します。
エンティティがビューで開きます。

関連項目：

- [「重複の解決」 \(ページ 44\)](#)

子レコードのフィルタの作成

[子] タブに複数の子レコードがある場合、子レコードをカラム名とその値に基づいてフィルタ処理し、特定（またはサブセット）のエントリのみを表示することができます。[データ] ビューで作成されたフィルタはすべてそのセッション用の一時的なもので、エンティティを閉じると、作成したフィルタはすべて失われます。

フィルタオプションは、一对多、および多対多の子リレーションの場合にのみ有効です。また、複数のフィルタ条件が適用されている場合はその結果に AND 条件を満たすレコードがすべて含まれ、同じ列に対して複数の条件が設定されている場合はその結果に OR 条件を満たすレコードがすべて含まれます。

1. [データ] ビューで [子] タブをクリックし、[フィルタ] ボタンをクリックします。

[フィルタ] ダイアログボックスが表示されます。

2. [カラム] ドロップダウンリストで、カラムの値を選択します。

注:

- [カラム] ドロップダウンリストの表示でサポートされているのは、文字列と数字のデータタイプのカラム名のみです。
- [カラム] ドロップダウンリストにルックアップ値は表示されません。

3. 次のいずれかのフィルタ条件をドロップダウンリストから選択します。

利用可能なデータタイプ	条件	説明
文字列と数字	=	カラムの値はフィルタ条件と一致する必要があります
文字列と数字	!=	カラムの値がフィルタ条件と一致してはなりません
数字	>	カラムの値はフィルタ条件よりも大きい値である必要があります
数字	<	カラムの値はフィルタ条件よりも小さい値である必要があります
数字	>=	カラムの値はフィルタ条件と等しいかそれよりも大きい値である必要があります
数字	<=	カラムの値はフィルタ条件と等しいかそれよりも小さい値である必要があります
文字列と数字	NULL 可能	カラムの値がフィルタ結果に含まれるには、NULL である必要があります
文字列と数字	NULL でない	カラムの値がフィルタ結果に含まれるには、NULL であってはなりません
文字列	開始	カラムの値はフィルタ条件で始まる必要があります
文字列	終了	カラムの値はフィルタ条件で終わる必要があります

利用可能なデータタイプ	条件	説明
文字列	内容	カラムの値はフィルタ条件を含む必要があります
数字	期間	カラムの値はフィルタ条件の範囲内である必要があります

4. **【値】** フィールドにフィルタ条件を入力します。
5. 別のフィルタ条件を作成する場合は、**【追加】** ボタン（緑のプラスのボタン）をクリックします。
注: フィルタ条件を削除する場合は、**【削除】** ボタン（赤いクロスのボタン）をクリックします。
6. **【適用】** をクリックします。
注: フィルタをクリアする場合は、**【フィルタをクリア】** ボタンをクリックします。

【フォーム】ビューと【テーブル】ビューの切り替え

場合によって、次の2つのビューを切り替えることができます。

- **【フォーム】ビュー**には、紙面のフォームのように、1つのエンティティとその属性が縦に並べて表示されます。1つのエンティティだけを調べる場合は、**【【フォーム】ビューに切り替え】** をクリックします。
- **【テーブル】ビュー**には、1つ以上のエンティティのリストが表形式で表示されます。テーブル内の各行は、異なるエンティティを示します。**【【テーブル】ビューに切り替え】** をクリックすると、関連するエンティティすべての概要リストが表示されます。

注:

- サブジェクト領域の子の場合、IDD の設定方法に応じて、デフォルトビューが**【フォーム】ビュー**または**【テーブル】ビュー**になります。
- 選択済みの子レコードの場合、関連する孫レコードのみが**【フォーム】ビュー**または**【テーブル】ビュー**で表示されます。

システムカラムの表示

【データ】 ビューに表示されるエンティティのシステムカラムを表示するには、**【アクション】** メニューから**【システムカラム】** を選択します。Informatica Data Director に、システムカラムの詳細が示すウィンドウが開きます。

システムカラムを表示して、エンティティが作成された日付、エンティティの作成者、行 ID などのエンティティのメタデータを表示できます。

エンティティのコピー

親エンティティやその子をコピーして既存のエンティティと同じようなエンティティを作成することができます。タイムラインが有効なエンティティはコピーできません。

1. **【データ】** ワークスペースの **【データ】** ビューでエンティティを開きます。
2. **【アクション】** メニューから、**【コピー】** を選択します。
3. 新規エンティティウィンドウで、必要な属性データを変更します。
4. **【保存】** または **【承認のために送信】** を適宜選択します。

レコードのデータの編集

レコードのデータを編集できます。データを編集する場合、レコードの有効期間は編集できません。

1. データを編集するレコードを開きます。
保留状態のレコードは、ワークフローの一部であり、承認が保留中であるため編集できません。
2. **【アクション】** メニューで、**【データの編集】** をクリックします。
3. データを編集します。
4. **【適用】** をクリックします。
編集したフィールドが強調表示されます。
5. **【保存】** をクリックします。
Informatica Data Director によって、変更がデータベースに書き込まれます。

有効期間の編集

誤った有効期間を修正するには、レコードの有効期間を編集します。データ変更イベントを追跡するエンティティの有効期間を編集できます。レコードの有効期間を編集すると、Informatica Data Director によって、新しい有効期間でレコードが保存されます。

1. 有効期間を編集するレコードバージョンを開きます。
保留状態のレコードは、ワークフローの一部であり、承認が保留中であるため編集できません。
 - a. 編集する有効期間のあるレコードを開きます。
 - b. レコードの **【有効期間を表示】** リンクをクリックします。
 - c. **【有効日付】** フィールドで、日付選択を使用して、編集する有効期間内の日付を選択します。
 - d. **【適用】** をクリックします。
編集する有効期間で有効なレコードバージョンが開きます。
2. **【アクション】** メニューで、**【期間の日付の編集】** をクリックします。
3. **【有効期間の編集】** 日付フィールドで、日付選択を使用して有効期間の正しい開始日と終了日を選択します。
4. 更新したレコードバージョンに含めるプライマリレコードおよび子レコードを選択します。

5. **【保存】** をクリックします。

Informatica Data Director によって、有効期間が更新されたレコードバージョンが保存されます。

有効期間の追加

新しい有効期間に該当するレコードバージョンを追加できます。追加する有効期間は、既存の有効期間に隣接している必要があります。データ変更イベントを追跡するエンティティに有効期間を追加できます。

1. 有効期間を追加するレコードを開きます。
2. 新しい有効期間にコピーするレコードバージョンを選択します。
3. **【アクション】** メニューで、**【新しい期間の作成】** をクリックします。
4. **【新しい有効期間の作成】** 日付フィールドで、日付選択を使用して有効開始日と有効終了日を選択します。
5. 新しいレコードバージョンに含めるプライマリサブジェクト領域および子サブジェクト領域を選択します。
6. **【保存】** をクリックします。

Informatica Data Director によって、指定した有効期間の新しいレコードバージョンが作成されます。

タイムラインが有効なエンティティの集計期間の表示

タイムラインが有効なエンティティの場合、**【有効期間を表示】** リンクをクリックし、エンティティの有効期間の計算済み集計期間を表示できます。集計期間は、どのオブジェクト（親、子、および孫）についてもエンティティのデータが変更されなかった期間です。そのエンティティの有効期間すべての交点です。

例えば、親レコードの有効期間を 2012 年 5 月 1 日から 2012 年 5 月 31 日の期間で保存し、同じエンティティの子レコードの有効期間を 2012 年 5 月 1 日から 2012 年 5 月 15 日の期間で保存したとします。2012 年 5 月 1 日付のエンティティの集計期間は、2012 年 5 月 1 日から 2012 年 5 月 15 日となります。

注:

- **【有効期間を表示】** のリンクは、**【保存】** の操作が完了してから有効になります。
- **【データ】** ビューで **【有効期間を表示】** のリンクをクリックすると、オブジェクト（親、子、および孫）の有効開始日と有効終了日を表示できます。
- エンティティの表示される集計期間は **【有効日付】** フィールドで選択した日付と直接関連しています。

エンティティの調査

【データ】 ワークスペースで、ビジネスエンティティのビューを変更できます。ビジネスエンティティの履歴、相互参照レコード、マージできる可能性のある候補、関連エンティティの図を表示できます。

1. **【データ】** ワークスペースでエンティティを開きます。
2. 確認のメッセージが表示された場合は、調査の対象期間を指定します。

3. 調査パスに基づいて、以下のいずれかのビューを選択します。

- ビジネスエンティティの表示と編集を行うには、**【データ】** アイコンをクリックします。**【データ】** ビューが開きます。
- 保留中の変更を表示するには、**【XREF】** アイコンをクリックします。**【XREF】** ビューが開きます。
- ビジネスエンティティの変更履歴を表示するには、**【履歴】** アイコンをクリックします。**【履歴】** ビューが開きます。
- ビジネスエンティティを、重複の可能性があるビジネスエンティティと比較するには、**【一致】** アイコンをクリックします。**【一致マージ比較】** ビューが開きます。
- ビジネスエンティティ内およびビジネスエンティティ間のリレーションの図を表示するには、**【開いている階層】** ボタンをクリックします。**【履歴】** ビューが開きます。
- エンティティに関する他の情報ソースの文脈でビジネスエンティティの表示と編集を行うには、**【エンティティビュー】** ボタンをクリックします。エンティティワークスペースが開きます。ワークスペースのタブにビジネスエンティティの名前が表示されます。

エンティティの削除

エンティティを選択して削除できます。**【データ】** ビューのエンティティを削除するには、**【アクション】** メニューから **【削除】** を選択します。

Informatica Data Director では、削除されたエンティティにマークが付けられるとそのエンティティは表示されなくなりますが、そのエンティティはデータベースからは削除されません。親エンティティを削除した場合、Informatica Data Director は子エンティティに削除済みのマークを付けません。タイムラインが有効なエンティティを削除した場合、Informatica Data Director はすべての有効期間についてエンティティを **【削除済み】** としてマークします。

第 17 章

[有効期間] ビュー（従来のビュー）でのタイムラインデータの調査

この章では、以下の項目について説明します。

- [データ変更イベントでの有効期間の調査の概要, 128 ページ](#)
- [\[有効期間\] ビューを開く, 129 ページ](#)
- [データ変更イベントの表示, 129 ページ](#)
- [データ変更イベントの追加, 130 ページ](#)
- [データ変更イベントの削除, 131 ページ](#)

データ変更イベントでの有効期間の調査の概要

データ変更イベントは、著作物のステータス、アドレス、一定期間有効な電話番号などのデータに対する変更です。ビジネスエンティティには複数のデータ変更イベントが含まれる場合があります。**[有効期間]** ビューを使用して、ビジネスエンティティのデータ変更イベントを調査します。

データに変更が発生すると、有効期間が新しくなったり、既存または今後の有効期間が更新されたりします。**[有効期間]** ビューを使用して、一定期間のデータに対する変更を表示します。また、タイムラインに対してデータ変更イベントの追加と削除を行うこともできます。データ変更イベントを管理するには、**[データ]** ビューを使用します。

注: MDM Hub ストアの基本オブジェクトに対してタイムラインが有効になっている場合は、その基本オブジェクトに対して **[有効期間]** ビューを使用できます。

データ変更イベントの表示の例

あなたの会社は、Alex Sam の保険を更新し、新しい保険パッケージを Alex Sam に提案したいと考えています。最適なパッケージを提案するには、「Alex Sam」というビジネスエンティティのデータ変更イベントを調査する必要があります。

[有効期間] ビューで、Alex Sam のビジネスエンティティを開きます。Alex Sam のデータ変更イベントを表示する特定時点を指定します。指定した時点までに起こったデータ変更イベントがビューに表示されます。データ変更イベントを選択して詳細を表示します。以前、Alex Sam が独身で、Alex Johns と呼ばれていたことがわかります。これで、Alex にもあなたの会社にもメリットをもたらす最適な保険パッケージを提案するための役立つ情報が入手できました。

[有効期間] ビューを開く

有効な日付を持つデータを調査するには、[有効期間] ビューを使用します。

注: このビューは、管理者がタイムライン機能を有効にしている場合にのみ使用できます。

▶ **[有効期間]** ビューでビジネスエンティティを開くには、以下のいずれかのアクションを実行します。

- **[検索]** ワークスペースの検索結果から、ビジネスエンティティを選択します。**[アクション]** メニューから、**[有効期間を表示]** を選択します。
- **[データ]** ワークスペースから、ビジネスエンティティを開き、**[有効期間]** アイコンをクリックします。

[有効期間] ビューが開きます。

データ変更イベントの表示

[有効期間] ビューでビジネスエンティティのデータ変更イベントを表示できます。

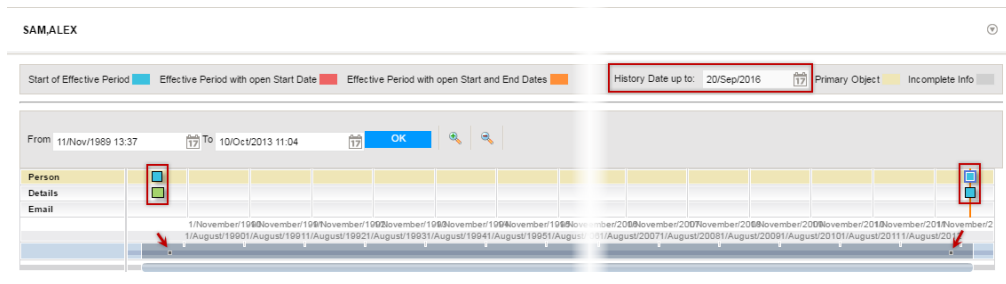
1. **[有効期間]** ビューでビジネスエンティティを開きます。

現在の日付までに発生したビジネスエンティティのデータ変更イベントがビューに表示されます。

2. 必要に応じて、現在の日付以外の特定の時点までに発生したデータ変更イベントを識別するためには、**[履歴の日付の最大値]** フィールドを使用して日付を選択します。

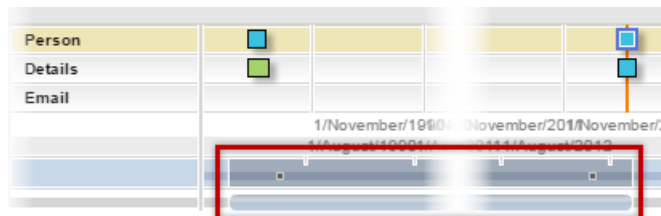
ビジネスエンティティで指定した時点までに発生したデータ変更イベントが表示されます。

次の図は、「Alex Sam」というビジネスエンティティで 2016 年 9 月 20 日までに発生したデータ変更イベントを示しています。



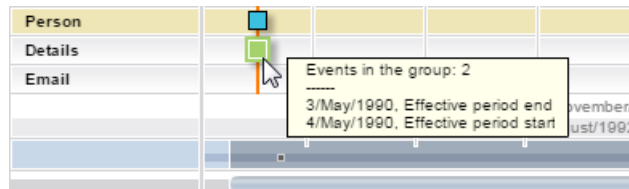
3. タイムラインの中で調査するデータ変更イベントが含まれる部分を表示するには、日付範囲を入力するかスライダを使用します。

次の図は、タイムラインの中でデータ変更イベントが含まれる部分と対応するスライダ調整を示しています。



4. データ変更イベントの詳細を表示するには、四角形の上にポインタを移動します。

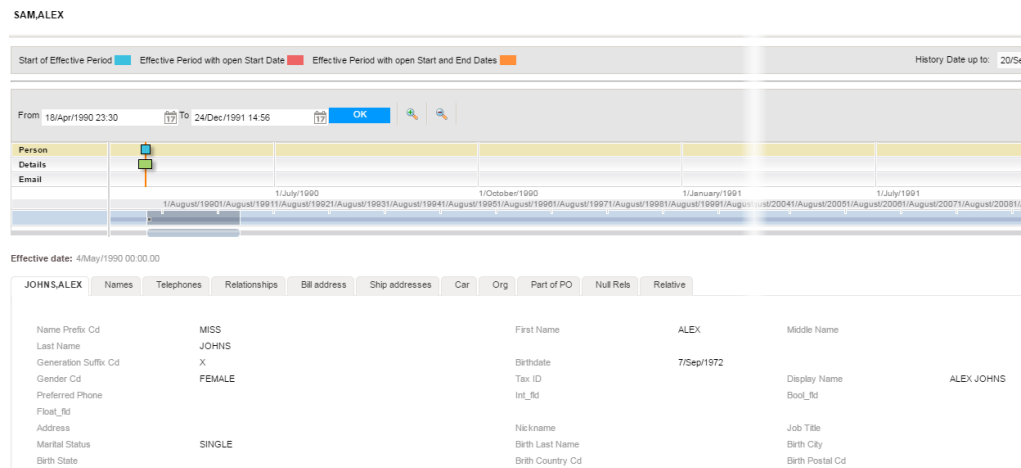
次の図は、2つのデータ変更イベントの詳細を示しています。



5. データ変更イベントを開くには、イベントを右クリックして、**[有効日付の詳細を表示]** をクリックします。

データ変更イベントがタイムラインの下タブに開きます。データ変更イベントには、指定した有効期間のビジネスエンティティの詳細が含まれます。

次の図は、1990年5月4日に有効な Alex のデータ変更イベントを示しています。



このデータ変更イベントは、Alex Sam が独身で Alex Johns という名前で呼ばれていたことを示しています。

データ変更イベントの追加

子エンティティのデータ変更イベントを **[有効期間]** ビューのタイムラインに追加できます。

1. **[有効期間]** ビューでビジネスエンティティを開きます。
2. 子エンティティを表示するには、子エンティティタブをクリックします。
子エンティティのデータ変更イベントが表示されます。
3. タイムラインに追加するデータ変更イベントを選択し、**[タイムラインへのレコードの追加]** をクリックします。
子エンティティのデータ変更イベントがタイムラインに追加されます。

データ変更イベントの削除

子エンティティのデータ変更イベントを【有効期間】ビューのタイムラインから削除できます。

1. 【有効期間】ビューでビジネスエンティティを開きます。
2. 必要に応じて、現在の日付以外の特定の時点までに発生したデータ変更イベントを識別するためには、【履歴の日付の最大値】フィールドを使用して日付を選択します。
ビジネスエンティティで指定した時点までに発生したデータ変更イベントが表示されます。
3. タイムラインの中で調査するデータ変更イベントが含まれる部分を表示するには、日付範囲を入力するかスライダを使用します。
4. データ変更イベントを削除するには、イベントを右クリックして、【タイムラインからレコードを削除】をクリックします。
データ変更イベントがタイムラインから削除されます。

第 18 章

データのインポート（従来のビュー）

この章では、以下の項目について説明します。

- [データインポートの概要, 132 ページ](#)
- [MDM Hub サーバーでのデータインポートの有効化, 134 ページ](#)
- [データインポートテンプレートのインポート, 134 ページ](#)
- [ファイルからソースデータをインポート, 135 ページ](#)

データインポートの概要

Informatica Data Director (IDD) アプリケーション開発者は、権限のあるユーザーがソースファイルからデータをインポートできるように IDD アプリケーションを設定できます。単一のソースファイルから最大 10,000 のレコードをインポートできます。

データをインポートして次のタスクを実行します。

- 1 回の一括操作で複数のプライマリ、子、および孫オブジェクトを作成する。
- 1 回の一括操作で複数のプライマリ、子、および孫オブジェクトを更新する。

データをインポートするには、ソースファイルとデータインポートテンプレートが必要です。データインポートテンプレートには、ソースファイル内のデータを、ベースオブジェクトテーブル内のカラムにマッピングするインポートプロファイルが含まれます。

Informatica Data Director では、インポートするデータの重複照合操作を実行しません。

ソースファイル

データはソースファイルからインポートします。

ソースデータを含む次のいずれかのファイル形式を使用できます。

- .csv。カンマなどの区切り文字でデータが区切られたフラットファイル。
- .xlsx。スプレッドシート内のカラムにデータが編成された Microsoft Excel ワークブック。

データインポートテンプレート

データインポートテンプレートは、ソースファイル内のデータを、オペレーショナルリファレンスストア上のベースオブジェクトテーブル内のカラムにどのようにマッピングするかを定義します。データインポートテンプレートを作成するには、ソースファイルとオペレーショナルリファレンスストアスキーマの両方の構造を把握している必要があります。

データインポートテンプレートは、Informatica Data Director でデータのインポートに使用されるインポートプロファイルを指定する XML 構成ファイルです。インポートプロファイルは、ソースファイル内のデータの構造とベースオブジェクトテーブル内のユーザー定義カラム間のマッピングを定義します。インポートプロファイルはサブジェクト領域ごとに定義します。

インポートプロファイルでは、日付フィールドと数値フィールドの書式を指定できます。書式を指定するには、日付フィールドは Java SimpleDateFormat パターン、数値フィールドは Java DecimalFormat パターンを使用します。

リソースキットには、サンプルテンプレートファイルとサンプルソースファイルが含まれています。サンプルファイルは <MDM Hub installation directory>/hub/resourcekit/samples/BDD/import にあります。

データインポート例

例えば、データスチュワードが Microsoft Excel スプレッドシートから顧客レコードをインポートする必要があります。このスプレッドシートでは、カラム 1 に姓の名の方が、カラム 2 には姓が入力されています。

オペレーショナルリファレンスストアには、名と姓のカラムを含む C_PARTY という名前のベースオブジェクトテーブルが含まれています。IDD アプリケーションは、Person サブジェクト領域を定義します。

データスチュワードは、IDD アプリケーション開発者に、ソースファイル内のデータ構成と一致するデータインポートテンプレートの作成を依頼します。開発者は、次のマッピングを使用して Person サブジェクト領域用のインポートプロファイルをこのテンプレートに定義します。

- ソースファイルのカラム 1 を、C_PARTY ベースオブジェクトの FIRST_NAME カラムにマッピング。
- ソースファイルのカラム 2 を、C_PARTY ベースオブジェクトの LAST_NAME カラムにマッピング。

次のサンプルコードは、この例のインポートプロファイルを示したものです。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16LE"?>
<DataImportTemplateConfig xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
    xsi:noNamespaceSchemaLocation="data-import-template.xsd">
    <ImportProfile name="IMPORT_SA_PERSON" displayName="Import profile for SA Person"
        subjectArea="Person" effectivePeriodStart="6" effectivePeriodEnd="7"
        effectiveDateFormat="dd.MM.yyyy">
        <PrimaryObject>
            <Column index="1">C_PARTY|FIRST_NAME</Column>
            <Column index="2">C_PARTY|LAST_NAME</Column>
            ...
        </PrimaryObject>
    </ImportProfile>
</DataImportTemplateConfig>
```

MDM Hub サーバーでのデータインポートの有効化

IDD アプリケーションからデータをインポートできるようにするには、**【データビューで作成】** メニューオプションが IDD アプリケーションヘッダーに表示されている必要があります。このメニューが IDD アプリケーションに表示されている場合、この手順は省略できます。

このメニューが IDD アプリケーションに表示されていない場合、MDM Hub 管理者に、Hub サーバープロパティファイル内の `cmx.dataview.enabled=true` プロパティを有効にするよう依頼してください。Hub サーバープロパティの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Configuration Guide*』を参照してください。

1. Hub サーバーをホストするアプリケーションサーバーを停止します。
2. 次の場所に移動します。
`<MDM Hub installation directory>/hub/server/resources/`
3. `cmxserver.properties` ファイルを開いて、プロパティ `cmx.dataview.enabled=true` を設定します。
4. ファイルを保存します。
5. アプリケーションサーバーを起動します。

データインポートテンプレートのインポート

IDD コンフィギュレーションマネージャから、IDD アプリケーション開発者がデータインポートテンプレートを IDD アプリケーションにインポートします。インポートプロセスによってテンプレートが検証されます。

1. IDD コンフィギュレーションマネージャにログインします。
2. IDD アプリケーションを選択します。
3. **【インポート】** > **【既存の IDD アプリケーションへのインポート】** をクリックします。
【既存の IDD アプリケーションへのインポート】 ウィンドウが表示されます。
4. **【構成タイプ】** リストから **【データインポートテンプレート】** を選択します。
5. **【参照】** をクリックし、データインポートテンプレートを含む XML ファイルを選択します。
6. **【インポート】** をクリックします。
インポートプロセスによってテンプレートが検証されます。**【検証結果】** ウィンドウが開き、エラーがあれば表示されます。
7. 検証エラーがあった場合は、テンプレート内のエラーを解決してからテンプレートを再インポートしてください。
8. **【検証結果】** ウィンドウで **【OK】** をクリックします。

ファイルからソースデータをインポート

ソースファイルからオペレーショナルリファレンスストアにデータをインポートするにはインポートウィザードを使用します。Informatica Data Director ではサービス統合フレームワーク（SIF）Put API を使用してデータをインポートします。

重要: インポートプロセスの開始後は、変更をロールバックできません。

1. アプリケーションヘッダーで、**[データビューで作成]** > **[マスタデータのインポート]** > **<サブジェクト領域>**の順にクリックします。

注: **[データビューで作成]** メニューが表示されない場合、IDD アプリケーションがこのメニューを表示するように設定されておらず、データのインポートが有効になっていません。IDD アプリケーション開発者に連絡してください。

インポートウィザードの**[全般]** ページが表示されます。

2. テンプレートに複数のインポートプロファイルが含まれている場合、リストから使用するインポートプロファイルを選択します。
3. **[参照]** をクリックして、ソースファイルを選択します。
4. **[次へ]** をクリックします。
[インポートプロパティ] ページが開きます。
5. ソースファイルが.csv ファイルの場合、次のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
区切り文字	ソースファイル内でデータ値の区切りに使用されている文字を指定します。
コードページ	ソースファイル内のデータの解釈に使用する文字エンコーディングを指定します。
テキスト修飾子	テキスト文字列を引用符で囲む場合、引用符のタイプを指定します。

6. ソースファイルが.xlsx ファイルの場合、**[ワークシート名]** リストから、データを含むワークシートを選択します。
7. ソースファイルからインポートするデータを制御するには、次のプロパティを設定します。

プロパティ	説明
ヘッダ	データではなく見出しが入っているため最初の行を省略する場合は、 [ヘッダは最初の行です] を選択します。
次の行からインポートを開始	最初の行以外の任意の場所からインポートを開始する場合は、行番号を入力します。

8. データのプレビューを確認します。
9. **[次へ]** をクリックします。
[インポートの進捗状況] ページが開きます。
10. **[開始]** をクリックします。

インポートプロセスが開始されます。インポートプロセスが終了すると、メッセージが表示されます。

注: ワークシートの場合、インポートプロセスは、データを含む行、空だが書式設定されている行、空だがデータが含まれる行に挟まれている行について、インポートを試みます。Informatica Data Director は、空の行については処理しないで拒否します。

11. **【完了】** をクリックします。

付録 A

確認プロセス参照

この付録では、以下の項目について説明します。

- [確認プロセス参照の概要, 137 ページ](#)
- [承認を伴う更新のワークフロー, 138 ページ](#)
- [ワンステップ承認のワークフロー, 138 ページ](#)
- [ツーステップ承認のワークフロー, 139 ページ](#)
- [マージワークフロー, 139 ページ](#)
- [マージ解除のワークフロー, 139 ページ](#)

確認プロセス参照の概要

確認プロセスは、自動化されたビジネスプロセスです。ユーザーがビジネスエンティティの追加、編集、マージ、またはマージ解除を行うと、そのアクションによって確認プロセスが開始されます。確認プロセスにより、ビジネスマネージャまたはデータスチュワードは、データをマスタデータにする前にデータの確認と最終承認を確実に実行することができます。

マスタデータの変更が確認のトリガとなるかどうかは、ユーザーロールによって決まります。例えば、データの追加または編集が許可されるが、変更の承認が許可されていないユーザーロールの場合、編集またはマージしたビジネスエンティティを保存したときに、そのアクションによって確認プロセスが開始されます。

Informatica MDM Multidomain Edition には、以下のデフォルトの確認プロセスが付属します。

- 承認を伴う更新のワークフロー
- ワンステップ承認のワークフロー
- ツーステップ承認のワークフロー
- マージワークフロー
- マージ解除のワークフロー

注: 異なるプロセス名やタスクタイプがタスクインボックスに含まれる場合、組織内の他のユーザーが確認プロセスを変更しているか、カスタムプロセスを作成しています。

以下のセクションで、各確認プロセスの目的を説明し、各プロセス内のユーザーアクティビティを明らかにします。プロセス全体を表示するには、ActiveVOS コンソールでプロセスを開きます。

承認を伴う更新のワークフロー

承認を伴う更新ワークフロープロセスで、データスチュワードは更新をキャンセルするか、二段階承認プロセスをとおして更新を送信する前に、変更エンティティを確認します。

次の表に、プロセスにおけるユーザーアクティビティの概要を示します。

ユーザーアクティビティ	割り当てられたロール	説明
更新	データスチュワード	データスチュワードは更新を確認し、更新をキャンセルするか、二段階承認をとおして送信します。
確認不承認	マネージャ	マネージャは更新を確認し、それを却下するか、最終確認のために送信します。
最終確認	SrManager	シニアマネージャは更新を確認し、それを却下または承認します。
通知	データスチュワード	承認された場合、データスチュワードは更新が承認された旨の通知を受け取ります。

ワンステップ承認のワークフロー

一段階承認ワークフローのプロセスでは、1人のシニアマネージャが更新を確認してから、承認または却下する必要があります。

次の表に、プロセスにおけるユーザーアクティビティの概要を示します。

ユーザーアクティビティ	割り当てられたロール	説明
最終確認	SrManager	シニアマネージャが更新を確認し、承認または却下します。
通知	データスチュワード	更新が承認されると、レコードには昇格のフラグが立ち、データスチュワードは通知を受け取ります。
更新	データスチュワード	更新が却下されると、データスチュワードは通知を受け取り、更新をキャンセルできます。

ツーステップ承認のワークフロー

二段階承認ワークフロープロセスでは、少なくとも 2 人のビジネスマネージャが確認と承認のプロセスに参加する必要があります。

次の表に、プロセスにおけるユーザーアクティビティの概要を示します。

ユーザーアクティビティ	割り当てられたロール	説明
確認不承認	マネージャ	マネージャが更新を確認し、却下するか、最終確認にエスカレーションします。
最終確認	SrManager	シニアマネージャは更新を確認し、それを承認するか、却下します。
通知	データスチュワード	承認された場合、レコードには昇格のフラグが立ち、データスチュワードは通知を受け取ります。
更新	データスチュワード	却下された場合、データスチュワードは通知を受け取り、更新をキャンセルできます。

マージワークフロー

マージ候補を選択するときに、ActiveVOS サーバーでマージワークフロープロセスを開始するタスクを作成できます。

次の表に、プロセス内におけるユーザーアクティビティを示します。

ユーザーアクティビティ	割り当てられたロール	説明
マージ	データスチュワード	データスチュワードは候補を確認し、レコードをマージするか、アクションをキャンセルします。

マージ解除のワークフロー

レコードをマージ解除する場合は、ActiveVOS サーバーでマージ解除ワークフロープロセスを開始するタスクを作成できます。

次の表に、プロセス内におけるユーザーアクティビティを示します。

ユーザーアクティビティ	割り当てられたロール	説明
マージ解除	データスチュワード	データスチュワードは候補を確認し、レコードをマージ解除するか、アクションをキャンセルします。

索引

B

BVT

概要 [12](#)

H

Highcharts [20](#)

I

IDD アプリケーション

概要 [11](#)

IDD アプリケーション開発者

概要 [11](#)

Informatica Data Director

概要 [11](#)

J

Jaspersoft レポート、[参照項目](#)グラフ

JPEG

階層キャンバス [74](#)

U

UI

言語、変更 [14](#)

UI 言語

変更 [17](#)

X

XREF ビュー

エンティティ、マージ解除 [104](#)

[XREF] ビュー

開く [107](#)

あ

アプリケーションヘッダー [15](#)

い

一致するレコード

概要 [44](#)

一致プロセス

概要 [45](#)

[一致マージ比較] ビュー

開く [100](#)

マージ候補、選択 [101](#)

マージの概要 [99](#)

イベント

前後のデータ、比較 [96](#)

インタフェース

概要 [15](#)

言語、変更 [14](#)

え

エンティティ

コピー [125](#)

削除 [127](#)

システムカラム、[データ] ビューの [124](#)

追加、階層キャンバス [70](#)

ビジネス [12](#)

開く、検索結果から [116](#), [122](#), [126](#)

エンティティタブ

[データ] タブ、比較 [17](#)

お

オブジェクト

コンボジット、[参照項目](#)ビジネスエンティティ

ベース [12](#)

か

階層

調査 [61](#)

階層キャンバス

移動 [66](#)

エンティティ、選択したものの非表示 [66](#)

エンティティ、追加 [70](#)

エンティティ、非表示 [65](#)

エンティティ、非表示の表示 [66](#)

エンティティ、非表示をすべて表示 [66](#)

エンティティ、表示 [65](#)

エンティティおよびリレーションの表示 [62](#)

エンティティの子、非表示 [66](#)

オプション、設定 [67](#)

直接リレーションと間接リレーション、表示 [65](#)

ホップ、表示 [65](#)

レイアウト、選択 [62](#)

[階層] ビュー

JPEG 画像、保存 [74](#)

エンティティ、関連の階層の表示 [69](#)

エンティティ、削除 [73](#)

エンティティ、重複の検索 [71](#)

エンティティ、編集 [71](#)

エンティティデータ、表示 [67](#)

[階層] ビュー (続く)

エンティティのシステムカラム、表示 [68](#)

ソースシステム、表示 [68](#)

開く [61](#)

フィルタ [63](#)

フィルタ、定義 [63](#)

フィルタ、デフォルトの適用 [64](#)

フィルタ、保存 [64](#)

フィルタ、保存済みの削除 [64](#)

フィルタ、保存済みの適用 [64](#)

ブックマーク、共有 [74](#)

変更の履歴、表示 [69](#)

保留中の変更、表示 [68](#)

マージ、開始 [72](#)

リレーション、削除 [73](#)

リレーション、作成 [70](#)

リレーションの詳細、表示 [68](#)

外部 URL

概要 [21](#)

拡張検索 [111](#)

確認パネル

概要 [79](#)

画像

階層キャンバス、保存 [74](#)

関連レコード

削除 [42](#)

追加 [40](#)

表示 [42](#)

編集 [42](#)

き

基本検索 [111](#)

キャンバス、階層、参照項目階層キャンバス

く

クエリ

インポート [119](#)

エクスポート [119](#)

基本検索でのワイルドカード [112](#)

基本または拡張、作成 [113](#)

検索条件 [112](#)

削除 [118](#)

詳細、作成 [115](#)

詳細、表示 [118](#)

デフォルトクエリ、設定 [118](#)

名前の変更 [118](#)

編集 [118](#)

保存 [117](#)

クエリのブックマーク

共有 [119](#)

グラフ

概要 [20](#)

け

検索エンジン

概要 [21](#)

検索クエリ

詳細、作成 [115](#)

検索と編集

例 [34](#)

検索フォーム

保存した検索、実行 [117](#)

[検索] ページ [32](#)

検証

データ、[ビジネスエンティティ] ビュー [26](#)

こ

ゴールデンプロファイル

概要 [12](#)

ゴールデンレコード

概要 [12](#)

コマンド

[テーブル] ビューに切り替え [124](#)

[フォーム] ビューに切り替え [124](#)

子レコード

マージ [48](#), [49](#)

さ

サインイン [14](#)

削除

ビジネスエンティティ [43](#)

サブジェクト領域 [12](#)

し

時系列

[履歴] ビュー、表示 [95](#)

システムカラム

[階層] ビュー、表示 [68](#)

[データ] ビュー、表示 [124](#)

シナリオ

ビジネスエンティティの追加 [26](#)

集計期間の表示 [126](#)

従来のビュー

最新のビューとの比較 [17](#)

詳細クエリ

作成 [115](#)

日付形式システムカラム [115](#)

詳細検索 [113](#)

す

スタートページ

外部 URL [21](#)

グラフ [20](#)

検索エンジン [21](#)

ソーシャルメディアの投稿 [20](#)

データの更新 [22](#)

概要 [19](#)

そ

ソーシャルメディアの投稿

概要 [20](#)

ソースシステム

ベストバージョンオブトゥールース [12](#)

た

タイムラインビュー

概要 [57](#)

データ変更イベントの削除 [59](#)

タイムラインビュー (続く)

データ変更イベントの追加 [59](#)

データ変更イベントの表示 [58](#)

タスク

新しいビジネスエンティティ、確認 [82](#)

解決 [80](#)

所有権 [80](#)

所有権、設定 [89](#)

ソート [23](#), [86](#)

通知、受信 [79](#)

引き受け解除 [89](#)

引き受ける [80](#)

フィルタリング [23](#), [86](#)

編集されたビジネスエンティティ、確認 [81](#)

マージ解除プロポーザル、確認 [84](#)

マージプロポーザル、確認 [83](#)

割り当て [89](#)

概要 [13](#)

タスクインボックス

概要 [21](#), [77](#)

タブ

検索 [32](#)

ち

重複

解決 [44](#)

識別 [46](#)

つ

通知

タスク [79](#)

て

データインポート

.xlsx データのインポート [135](#)

概要 [132](#)

データインポートテンプレート [133](#)

テンプレートのインポート [134](#)

有効化 [134](#)

データインポートテンプレート [133](#)

データエントリフォーム

〔データ〕ビュー、使用 [92](#)

〔ビジネスエンティティ〕ビュー、使用 [27](#), [30](#)

データ検証

〔ビジネスエンティティ〕ビュー [26](#)

データソース

ベストバージョンオブトゥールズ [12](#)

〔データ〕タブ

エンティティタブ、比較 [17](#)

〔検索〕タブ [110](#)

データ変更

概要 [54](#), [94](#)

前後、比較 [55](#), [96](#)

〔履歴〕ビュー、表示 [55](#)

〔テーブル〕ビュー [124](#)

データ

編集 [125](#)

と

投稿

ソーシャルメディア [20](#)

は

パスワード

変更 [14](#)

ひ

引き受ける

タスク [80](#)

ビジネスエンティティ

一致 [44](#)

検索 [32](#), [34](#)

検索と編集の例 [34](#)

削除 [43](#)

新規、確認 [82](#)

重複の解決 [48](#)

重複の識別 [46](#)

重複のシナリオ [46](#)

重複のマージ [48](#)

追加 [27](#), [30](#)

追加、〔データ〕ビューでの [92](#)

追加のシナリオ [26](#)

表示 [37](#)

開く [37](#)

フィルタリング [36](#)

編集 [32](#), [38](#)

編集済み、確認 [81](#)

概要 [12](#)

ビジネスエンティティリレーション編集

追加 [39](#)

ビジネスエンティティリレーション

例 [40](#)

ビュー、従来

言語、変更 [17](#)

ふ

フィルタ

〔階層〕ビュー [63](#)

タスク [23](#), [86](#)

〔データ〕ビューの子レコード [123](#)

フィルタリング

ビジネスエンティティ [36](#)

〔フォーム〕ビュー [124](#)

ブックマーク

〔階層〕ビュー、共有 [74](#)

クエリのブックマークの共有 [119](#)

プロセス

一致 [45](#)

マージ [45](#)

れびゅー、概要 [13](#)

へ

ベストバージョンオブトゥールズ

概要 [12](#)

ほ

保存済みクエリ

概要 [117](#)

ホップ

表示、階層キャンバスに [65](#)

ま

マージ

概要 [13](#), [99](#)

候補、選択 [101](#)

子レコード [48](#), [49](#)

タスク、確認 [83](#)

重複するビジネスエンティティ [48](#)

プレビュー、オーバーライド [102](#)

プロポーザル、確認のための送信 [103](#)

マージ解除

概要 [104](#)

タスク、確認 [84](#)

プロポーザル、確認のための送信 [108](#)

例 [107](#)

マージのプレビュー

一致マージ比較での [100](#)

マージプロセス

エンティティ 360 フレームワーク [45](#)

マスタレコード

概要 [51](#)

ゆ

[有効期間] ビュー

概要 [128](#)

データ変更イベントの削除 [131](#)

データ変更イベントの追加 [130](#)

データ変更イベントの表示 [129](#)

ユーザーインターフェース

概要 [15](#)

り

リレーション

削除、[階層] ビュー [73](#)

調査 [61](#)

追加、[階層] ビュー [70](#)

変更の履歴、表示 [69](#)

履歴ビュー

データ変更、調査 [54](#), [94](#)

[履歴] ビュー

時系列、表示 [95](#)

開く [95](#), [129](#)

れ

レコードの有効期間

追加 [126](#)

編集 [125](#)

ろ

ローカライズされた

ユーザーインターフェース [14](#)

ログイン [14](#)

わ

ワークフロー

確認プロセス [13](#)

ワイルドカード [112](#)

割り当て

タスク [89](#)